講義科目名称： 教師論

授業コード： 121005

英文科目名称： Principles and Methods of Teaching

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスタ	1 年次	2 単位	教職必修
担当教員			
倉持 博 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>教育の担い手である教員は、幼児、児童生徒個々の人生に大きく関わるかけがいのない職務を日々務めることになる。しかし、そこには「子どもたち・保護者から信頼されなければ話を聞いてもらえない、信頼されても、教えるべき・伝えるべき専門的力がなければ教えられない」という厳しさが現存しており、だれもが希望すればなれる職業ではない。</p> <p>そこで本講義は、教師たる資質・能力（いわば条件）を学校現場の視点から考察し、教員に求められる今日的な資質、能力や職務を理解するとともに、教員免許を取得し教職に就こうとしている自己の適正等について、客観的な考察を図るものである。なお、学習成果の指標はB-②と③である。</p> <p>諸般の事情で遠隔授業になった場合は、Google Classroomを活用した①課題型学修となる。</p>
授業計画	<p>1 回目 教師を目指すということ 教員と教師と教諭 教師を目指すとは</p> <p>2 回目 初等教育の教師 幼稚園教師の仕事と魅力 小学校教師の仕事と魅力</p> <p>3 回目 中等教育の教師 中学校教師の仕事と魅力 高校教師の仕事と魅力</p> <p>4 回目 日本の教職の特徴 教員の勤務形態と社会的地位 職務内容 教職の専門性</p> <p>5 回目 教師像の史的展開 聖職者としての教師像 労働者としての教師像 技術的熟達者としての教師像 専門家としての教師像 公僕としての教師像</p> <p>6 回目 教員の服務 教員の服務と処分 職務上の義務と身分上の義務</p> <p>7 回目 教員の権利と身分保障 教員の労働条件 教員の身分保障</p> <p>8 回目 学び続ける教師 教え手から学びの専門家へ 教員研修制度 キャリアの形成と研修</p> <p>9 回目 学校を構成する様々な専門職 チームとしての学校</p> <p>1 0 回目 専門家としての教師 教える教師から学びを生み出す教師へ</p> <p>1 1 回目 子ども観 子どもを理解すること いのちを最優先にした学校づくり</p> <p>1 2 回目 いじめに向き合う教師 いじめをなくすには 自尊感情を培うためには</p> <p>1 3 回目 性の多様性をめぐる学校・教師の課題 性の多様な発達 学校・教師のこれからの課題</p> <p>1 4 回目 「教える」ことの意味 教えること、育成すること、習得を図ること 資質・能力とは</p> <p>1 5 回目 教師論 「まとめ」と自己考察</p>
到達目標	<p>幼児、児童の教育を担う教師に求められる基本的な資質・力量について、具体的に理解することができる。社会的な信頼感として求められる人間性や服務上の義務等についての理解と自己の考察ができる。生徒指導や学習指導等についての基礎的事項や幼児教育との関連・連続性、実践的内容について理解でき</p>

	る。 教員免許状の取得・教職を目指す自己の適正を分析できる。
授業時間外の学習	当日の講義時で使用（配布）したレジюмеを基に、授業内容を改めて整理しましょう。（分かったこと さらに調べたいこと 再度確認：質問したいこと 等） 新聞等で報道される教育問題について、「本当なのか」「どうして」「どうすれば良いのか」等について、常に考えるようにし、講義内容に照らして、議論できるようにしましょう。
評価方法	レポート（70%）、授業への参加意欲（30%）、遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。
テキスト	「教科書を使用せず。」 レジюме（資料）を配布する。遠隔授業になった場合はGoogle Classroomを活用して、資料を配付しレポート課題を提示する。 レジюмеを自分のノートとし、書き込みながらまとめるようにすること。
参考書	佐久間亜紀・佐伯胖『現代の教師論』（ミネルヴァ書房、2020年） その他、授業の中で適宜紹介する。
備考	

講義科目名称： 教育原理

授業コード： 111004

英文科目名称： Principles of Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	教職必修
担当教員			
平岡秀美 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>本授業は、これからの教育学研究・教育実践の基礎となる教育の原理についての学修を目指す。一般的に「原理」とは、「ものの拠って立つ根本法則」を意味する。本授業では、この「原理」の対象として、これまでの教育を成り立たせてきた思想、学説、制度などを取り扱う。しかしこのことは、そうした思想や学説や制度が、絶対的に正しく、それに拠って立つて教育学研究や教育実践を行うべきである、という立場を本授業がとるということを全く意味しない。なぜなら、事実（である：sein）と当為（であるべき：sollen）は区別される必要があるからである。しかし同時に、あるべき教育学研究・教育実践を構想するためには、これまでの教育がどのような原理のもと行われてきたのか（きているのか）を知る必要がある。なぜなら、過去・現在の「である」姿に対する観察・反省から、未来の「であるべき」は導出されるからである。本授業では、教育の原理に関するテキストを精読し、他者とディスカッションすることを通じて、上記の原理を反省的に学びほぐすことを最終的に目指す。（学習成果指標：A-②、③/B-②、③。原則対面。遠隔授業の際は、同時・双方向型学修（Meet利用））</p>
授業計画	<p>1回目 2023年度の「教育原理」の講義計画と本講義の進め方（オリエンテーション）</p> <p>2回目 人間の発達の特性と教育（1） キーワード：遺伝、環境</p> <p>3回目 人間の発達の特性と教育 キーワード：学問、神話、真実と虚偽</p> <p>4回目 「教育」の定義と教育学的思考 キーワード：教え、学び、メタ思考、理論と実践</p> <p>5回目 教育のパラドックス キーワード：教育のパラドックス、自立、強制、プラトン</p> <p>6回目 教育思想の展開と方法（1）：ルソー① キーワード：『エミール』、ルソー、消極的教育</p> <p>7回目 教育思想の展開と方法（2）：ルソー② キーワード：シチズンシップ教育、一般教育、職業教育</p> <p>8回目 教育思想の展開と方法（3）：ペスタロッチ キーワード：『シュタンツ便り』、ペスタロッチ、家庭教育</p> <p>9回目 教育思想の展開と方法（4）：デューイ キーワード：『経験と教育』、デューイ、教育のコペルニクスの転回 改正教育基本法、「学力低下」論争、「ゆとり」教育</p> <p>10回目 「学校方式の教育」の発展と課題（1） キーワード：近代学校制度、事前制御システム、選抜・配分機能</p> <p>11回目 「学校方式の教育」の発展と課題（2） キーワード：社会の階層化、再生産、教育の機会均等</p> <p>12回目 教育の公共性・私事性と「教育の自由」 キーワード：教育改革、公共性、私事性、子どもの権利</p> <p>13回目 国際化と教育 キーワード：国際化、グローバル化、ナショナリズム、国民国家</p> <p>14回目 生涯学習と社会教育 キーワード：生涯学習、社会教育、学校と地域</p> <p>15回目 本授業の総括と質疑応答</p>
到達目標	<p>(1)教育学の基礎的な思想・学説・制度、あるいは教育問題（とされている事柄）について、資料を読み、理解し、要点を把握することができる。</p> <p>(2)上記の思想・学説・制度、あるいは教育問題（とされている事柄）について、さまざまな立場があることを知り、それを理論的に読み解き、相対的に把握することができる。</p> <p>(3)上記の把握をもとに、自分の意見を持ち、それを他者に対して説明したり、他者と議論することができる。</p>
授業時間外の学習	<p>本授業は、①配布資料精読にもとづく個別学習、②個別学習にもとづくグループ学習、③代表グループによるプレゼンテーション（当番制）、④プレゼンテーションにもとづくクラス全体での議論、⑤担当教員による講義、⑥質疑・応答時間という構成を予定しています。このうち、①と②（当番グループの場合は③の準備）が、授業時間外学習に当たります。この授業外学習で作成する成果物（予習課題）を授業において提出することで、その日の授業が出席となります。この予習学習がなされていない場合、欠席扱いとなり、自分自身の学習や成績に悪影響が出るばかりでなく、ディスカッションをはじめとした上記の授業の進行の妨げとなることと予想されます。自分と他者の学習に責任の持てる方の履修をお待ちしております。なお、この授業時間外学</p>

	習の目安は、一回あたり2時間ほどを想定しています。
評価方法	①期末レポート (50%) ②各授業に向けての予習課題の提出 (26%) ③学習グループへの参加と貢献 (24%) ※遠隔授業に変更となった場合、③が無くなり、その分②の割合を多くする。
テキスト	教科書は使用しない。各授業において、資料・講義プリントを配布する (classroomを活用)。
参考書	授業の中で、適宜推薦します。
備考	諸般の事情 (授業進度や学習状況) により、授業計画を変更する場合がある。

講義科目名称： 教育心理学

授業コード： 144009

英文科目名称： Educational Psychology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1 年次	2 単位	教職必修
担当教員			
星 雄一郎 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>本講義では、学校教育の現場でいかにできる教育心理学の知識を身につけ、将来の教育実践活動のための基礎力の向上を到達目標とします。</p> <p>教育心理学とは、教育における人間の営みに関する心理学です。本講義の目標は、教育心理学の基礎的な知識を身につけることにあります。また、教育という営みを分析する視点は種々ありますが、心理学的な見方や心理学的な考え方に基づいて議論できるようになることを目標として講義を行います。本講義を通して、将来の教育実践場面において生徒理解を助ける基礎的な心理学的視点を獲得し、活用できるようになることを望みます。</p> <p>本講義の学習成果の指標はA-③及びB-②、③である。「教職課程コアカリキュラム」に即したものである。</p>
授業計画	<p>1 回目 オリエンテーション 講義の進め方についての説明と教師の役割について</p> <p>2 回目 親子関係 子どもの人間関係に就学する前に影響を与える要因</p> <p>3 回目 道徳観の発達 各発達段階に合わせた道徳指導</p> <p>4 回目 学習理論 学習者の学び方・教室における学習理論の応用</p> <p>5 回目 教授活動 種々の教授法</p> <p>6 回目 学習の評価の仕方 種々のテスト</p> <p>7 回目 学習の評価の意義 誰のための何のための評価なのか?</p> <p>8 回目 動機づけ 学習活動を高める動機づけ</p> <p>9 回目 知能と学力 知能指数と達成学力の乖離</p> <p>1 0 回目 自己意識の発達 自己意識の発達と対人関係</p> <p>1 1 回目 学級集団 集団の形成とその利用</p> <p>1 2 回目 学校不適応 いじめや学級不振</p> <p>1 3 回目 心理療法 学校におけるカウンセリングと行動療法</p> <p>1 4 回目 特別支援教育 発達障害の事例</p> <p>1 5 回目 特別支援教育 具体的な指導方法について</p>
到達目標	<p>【学修到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実践場面にいかにできる教育心理学について理解する。 2. 教育心理学の観点から教育活動を分析し、理解する。 3. 教育心理学の知識を活用し、自らの教育実践活動を立案し、実行する基礎的な力を身につける。
授業時間外の学習	<p>講義時間外での学習を求める。事前・事後学修については Google Classroom にて指示する。その他にも各自積極的に学修内容を活用した観察などを行い、積極的に学びを深めること。</p> <p>【事前学修】 30 分程度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Google Classroom に事前課題が出題される場合がある。事前課題に取り組み、回答を行ってから講義へ参加してください。 2. 教科書の当該範囲や関連書籍を読み、内容理解を深めること。 <p>【事後学修】 30 分程度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Google Classroom に事後課題が出題される場合がある。事後課題に取り組み、講義で学んだこと、考えたことなどをふりかえってください。 2. 講義資料やノートを再確認し、内容理解を深めること。

	各課題は、Google Classroom に定められた期日までにオンライン提出を求める。
評価方法	<p>【評価基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実践場面にいかすことのできる教育心理学の知識を身につける。 2. 講義にて学んだことを元に、教育活動を分析し、説明することができる。 3. 講義にて学んだことを元に、自らの教育実践活動を具体的に立案、計画できる。 <p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前・事後課題の提出と回答 30% 2. 講義への参画度 20% 3. 学期末試験 50% (定期試験期間中に実施。100 点満点の試験の得点を 1/2 し、50 点満点で評価) <p>【非対面での実施となった場合】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前課題と事後課題への回答 30% 2. 講義への参画度 20% 3. 小テスト、レポート、課題などの提出物 50 % <p>上記の 3 点から評価をします。成績評価の基準は國學院大學栃木短期大学の基準に準拠します。 評価方法・基準の詳細については、初回の講義にて説明する。</p>
テキスト	<p>古川 聡・福田由紀編著 (2006). 子どもと親と教師をそだてる教育心理学入門 丸善株式会社 (2,400 円)</p> <p>ただし、講義の中でテキストを開き、読み合わせをするようなことはありません (限られた講義時間を有効に利用するため)。テキストは事前事後学修への回答のため、講義時間では呈示しきれない情報の補填のために用います。</p>
参考書	<p>・渡辺弥生・小林朋子編著 (2009). 10代を育てるソーシャルスキル教育 北樹出版 (2,000 円)</p> <p>・山本淳一・池田聡子編著 (2007). できる!をのばす行動と学習の支援—応用行動分析によるポジティブ思考の特別支援教育 日本標準 (2,100 円)</p> <p>他にも適宜紹介します。</p>
備考	<p>【指導方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的に講義形式です。レジュメとスライドの他に必要に応じて視聴覚資料を使用します。 2. 講義への参画度を高く評価します。講義にただ出席するだけでなく、講義内での積極的な発言、参加を高く評価します。 3. 質問は講義前後の時間、毎回の出席調査票によって受け付けます。質問への回答は講義内で行います。 4. 通常は講義形式で行うが、グループ討論や演習などを行うので積極的に参加すること。 <p>本講義は、対面授業を中心に実施する。また、学修内容に応じて、Google Classroom を活用し、反転学習などの多様な学修を実施する場合がある。 また、遠隔講義が必要となる状況になった場合は、Google Meet などを用いた②同時・双方向型学修を中心に実施し、Google Classroom などを用いた①課題型学修・③オンデマンド型学修を組み合わせる。</p>

講義科目名称： 特別支援教育

授業コード： 154005

英文科目名称： Special Support Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	2単位	教職必修
担当教員			
熊倉志乃 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>新学習指導要領では、急増する特別な配慮を必要とする児童生徒に対して、その障害や特性に応じた配慮と指導法の工夫と教師間の連携の必要性が明示されている。本授業ではこれらのポイントを具現化するために必要な教師の特別支援教育への理解と支援のあり方について広く学ぶ。</p> <p>なお、学習成果の指標は、A-③である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合には②同時・双方向型学修（「GoogleMeet」を利用）と③オンデマンド型学修を組み合わせて実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 特別支援教育の理念および制度、歴史</p> <p>2回目 障害の概念とインクルージョン</p> <p>3回目 新教育要領・新学習指導要領における特別支援教育の概要</p> <p>4回目 特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と支援（視覚障害/聴覚障害）</p> <p>5回目 特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と支援（肢体不自由/病弱）</p> <p>6回目 特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と支援（知的障害①）</p> <p>7回目 特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と支援（知的障害②）</p> <p>8回目 特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と支援（広汎性発達障害/知的障害を伴う自閉症）</p> <p>9回目 特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と支援（広汎性発達障害/知的障害を伴わない自閉症）</p> <p>10回目 特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と支援（注意欠陥多動性障害）</p> <p>11回目 特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と支援（学習障害/言語障害）</p> <p>12回目 障害は無いが特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と支援</p> <p>13回目 通級による指導・特別支援学級・特別支援学校・自立活動</p> <p>14回目 個別の指導計画・個別の教育支援計画</p> <p>15回目 これからの特別支援教育における主体的な学びの実践</p>
到達目標	<p>日本における特別支援教育に関する基本的内容を理解することができる。</p> <p>障害に対する正しい知識を身に付け、特性に応じた支援方法を考えることができる。</p> <p>障害に対する見方、考え方の基礎を培い、教師としての優れた人権感覚の基礎を身に付けることができる。</p>
授業時間外の学習	<p>事前に講義予定の内容を予習し、疑問点を確認しておく。</p> <p>教育実習の機会やボランティア活動を通して、障害児の実態や状況を理解し支援のあり方等を自主的に考え積極的に関わる。</p>
評価方法	<p>授業への参加意欲・態度（30%）、課題提出（70%）等に基づき総合的に評価する。遠隔授業になっても評価方法については同じである。</p>
テキスト	<p>教科書は使用せず。</p> <p>資料は適宜配布する。</p>
参考書	<p>授業時に適宜紹介する。</p>
備考	<p>シラバスにおける障害名の表記については、文部科学省が採用している障害名に準拠している。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	教職必修
担当教員			
島田芳行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>教育制度は国家が教育理念を具体化するための政策と深く関わっている。すべての国民はひとしく教育を受ける権利を有しており、だれもが人格の完成を目指して平和で民主的な国家及び社会の形成者としての必要な資質を育成することが求められている。そのために公教育としての系統的な学校制度があり、それを保障するために法やシステムが整えられている。本講義では、幼児期の教育制度から小・中学校、高等学校、大学等の教育制度を理解するとともに、学校教育と連携する家庭教育や社会教育の制度等についても学修する。その上で、そこに内在する課題を把握し、社会の変化に対応するためのこれからの教育行財政の在り方について考察する。</p> <p>なお、学習成果の指標はB-①とB-③である。</p> <p>遠隔授業になった場合は、①課題型学修（Google Classroomを利用）と③オンデマンド型学修（Google Meetを利用）を組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 教育の法の意義と教育制度の原則</p> <p>2回目 小学校の制度</p> <p>3回目 中学校の制度</p> <p>4回目 高等学校の制度</p> <p>5回目 各種学校・専修学校の制度</p> <p>6回目 大学、短期大学等の制度</p> <p>7回目 義務教育の制度</p> <p>8回目 教職員の組織と教員養成</p> <p>9回目 教職員の勤務と働き方改革</p> <p>10回目 学校経営</p> <p>11回目 家庭教育</p> <p>12回目 社会教育と学校（地域と学校の連携・協働）</p> <p>13回目 幼児期の教育</p> <p>14回目 教育行政と財政</p> <p>15回目 講義のまとめ（教育改革と教育制度）</p>
到達目標	<p>幼児教育や小学校、中学校、高等学校、大学等のそれぞれの教育の目的と各教育を支える様々な法と制度、そして各校種間のつながり等について探究し、我が国の初等教育、中等教育、高等教育の歴史と特色を理解することができる。だれもが等しく教育を受け個別最適な学びが享受できるための学校経営や教職員組織及び教員養成等について、関係法規やそれに基づく制度及びその運用について学修し、グループワークを通してその現状と課題、改善方法についての理解を深めることができる。生涯学習の視点に立ち家庭教育や社会教育を充実させるための法と制度について学修し、学校教育と家庭教育と社会教育との連携及び子ども中心に据えた地域づくりについて理解することができる。その上で、これからの教育行財政の課題と方向性について自分の意見をまとめることができる。</p>
授業時間外の学習	<p>シラバスに基づいて事前にテキストの内容を予習し、事後に再度テキストを読み復習する。その際、テキストのExerciseに挑戦し、主体的に学修内容の深化を図る。また、教育に関するニュースや記事等に関心をもち、それが実施されるために必要な関係法規やそのためのシステムについて進んで探究し、制度の意味や意義、社会への影響等について自分の考えをまとめる。</p>

評価方法	授業への参加意欲（30％）、レポート（70％）の結果にもとづき評価する。遠隔授業にした場合も評価方法に変更はない。
テキスト	吉田武男監修藤井穂高編著『MINERVAはじめて学ぶ教育の法と制度法と制度』（ミネルヴァ書房、2018年）
参考書	『教育小六法』学陽書房などの教育法規集、年刊『文部科学白書』文部省、月刊『教職課程』協同出版 汐見稔幸・奈須正裕監修、青木栄一編著『教育制度を支える教育行政』（ミネルヴァ書房、2019年）
備考	諸般の事情により授業計画を変更する場合がある。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	教職必修
担当教員			
倉持 博 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>教育課程は、学校の教育活動の基本計画であり、各学校には、創意工夫を生かした特色ある教育課程を編成し、実施することが期待されている。本講義では、学習指導要領や創意ある教育課程の事例を基に、教育課程の意義や編成の方針などについて具体的に理解を深め、教育課程を編成する力量を培う。</p> <p>授業では、講義とともに、グループワーク等も行い、主体的・協働的に取り組む力の育成もねらいとする。なお、学習成果の指標はB-②と③である。</p> <p>諸般の事情で遠隔授業になった場合は、Google Classroomを活用した①課題学修となる。</p>
授業計画	<p>1回目 社会の変化と「生きる力」「資質・能力」</p> <p>2回目 教育課程の意義・教育課程行政</p> <p>3回目 教育課程に関する法令等（教育法規）</p> <p>4回目 教育課程の基準である学習指導要領とその変遷</p> <p>5回目 教育課程の構造と教育課程編成の原則</p> <p>6回目 カリキュラムマネジメントの充実</p> <p>7回目 教育課程編成における共通の事項</p> <p>8回目 主体的・対話的で深い学びの実現と言語活動の充実</p> <p>9回目 学習指導と学級経営</p> <p>10回目 学習評価の充実</p> <p>11回目 生徒の発達の支援（生徒指導の充実）</p> <p>12回目 生徒の発達の支援（キャリア教育と進路指導の充実）</p> <p>13回目 特別な配慮を必要とする生徒の指導の充実</p> <p>14回目 学校における教育課程編成の実際（学校評価 年間指導計画）</p> <p>15回目 教育課程論 まとめ（学習指導要領の「前文」 第1章「総則」の確認）</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の定義、分類及び編成の方法などについて理解し、説明することができる。 ・学習指導要領の改訂・経緯から、歴史的な変遷と学力観の変遷について理解し、説明することができる。 ・主体的・対話的で深い学びにおける授業改善やカリキュラム・マネジメントの必要性について理解し、実際の授業や教育課程編成において具体的にどのように取り入れるか話し合い、学びを深めることができる。 ・学習指導要領総則を踏まえて各学校で編成されている教育課程の具体例について学び、協働して教育課程を編成しようとする態度を身に付けることができる。
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・当日の講義で使用（配布）したレジュメを基に、講義内容について改めて振り返り、分かったこと、さらに調べたこと、次時に質問をしたいことなどについて整理しましょう。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験50%、授業への参加意欲・態度30%、課題提出20% ・遠隔授業になった場合は、レポート（70%）、授業への参加意欲（30%）
テキスト	<p>使用しない。</p> <p>講義時にレジュメを配布します。（講義時に書き込み等しながら、自分のノートにしてください。）</p> <p>遠隔授業になった場合は、Google classroom で資料を配布し、レポート課題を提示します。</p>

参考書	文部科学省 「中学校学習指導要領解説総則編」 東山書房 平成29年 その他、講義の中で適宜紹介する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	教職必修
担当教員			
塚越義幸教授 大山尚教授 柏崎純一講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>国語科教育の目標と内容、国語科教育の構造、言語教材、学習指導案の作成等を学ぶとともに、中学校の国語教材で実際に授業を展開して、国語の授業のあるべき姿を知る。 中学校の学習指導要領についての理解を深め、それに基づき学習指導案を作るための実践力を育成する。 また実際の教材を読解しつつ、その教授法を学ぶ。</p> <p>学習成果の指標はA-③である。</p> <p>本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学修(「Google Classroom」を利用)と②同時・双方向型学修(「Google Meet」を利用)とを組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 国語科教育法を学ぶにあたって、教育関係法規と学習指導要領、中学校学習指導要領(国語科)の基本方針</p> <p>2回目 中学校国語科教育の目標と内容、課題</p> <p>3回目 国語科教育の構造、国語科の指導過程、指導形態</p> <p>4回目 学習指導と評価、学習指導案の意義・ねらい</p> <p>5回目 学習指導案作成の手順、留意点</p> <p>6回目 学習指導案作成の実際</p> <p>7回目 ジャンル別教材研究1(徒然草)</p> <p>8回目 ジャンル別教材研究2(論語)</p> <p>9回目 ジャンル別教材研究3(童話①)</p> <p>10回目 ジャンル別教材研究4(童話②)</p> <p>11回目 授業研究1(模擬授業①「漢字の成り立ち」)(遠隔授業の場合は「発問、説明について」)</p> <p>12回目 授業研究2(模擬授業②「敬語」)(遠隔授業の場合は「板書、ノート指導について」)</p> <p>13回目 授業研究3(模擬授業③「活用のない自立語」)(遠隔授業の場合は「アクティブ・ラーニングについて」)</p> <p>14回目 授業研究4(模擬授業④「類義語・対義語・多義語・同音語」)(遠隔授業の場合は「国語科授業の実践記録に学ぶ」)</p> <p>15回目 授業研究のふりかえり、まとめ(国語科教師のあり方・生き方を考える)</p>
到達目標	<p>①国語科教育(中学校)の目標や内容、課題等について理解できる。</p> <p>②教材研究の意義と方法について理解し、具体的な作品研究を通して実践的な力を身につけることができる。</p> <p>③学習指導案の意義や作成の仕方を学び、実際に作成できるようにする。</p> <p>④実際の授業実施にあたっての留意点や課題をとらえることができる。</p>
授業時間外の学習	<p>①テキスト『学習指導要領解説・国語編』をよく読んで理解を深める。</p> <p>②教材研究で扱う作品について、よく読み研究する。</p> <p>③学習指導案および授業研究で扱う作品について、よく読み研究する。</p>
評価方法	<p>学習指導案及び課題(60%)、教材研究レポート(30%)、授業への参加意欲(10%) 遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。</p>
テキスト	<p>文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説・国語編』(東洋館出版社、平成30年)／『伝え合う言葉 中学国語2』(教育出版、令和3年)／レジュメ配布</p>

参考書	田近洵一・井上尚美編『国語教育指導用語辞典』（教育出版、2009年）／辰野千壽編『学習指導用語事典』（教育出版、2010年）／その他、教材研究や学習指導案・授業研究で扱う作品に関するもの など
備考	1～6回＝柏崎純一教員が担当、7～8回＝塚越義幸教員が担当、9～10回＝大山尚教員が担当、11～15回＝柏崎純一教員が担当 諸般の事情により授業計画を変更する場合がある。

講義科目名称： 家庭科教育法

授業コード： 232015

英文科目名称： Teaching Methods of Home Economics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	教職必修
担当教員			
仲田郁子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>中学校技術・家庭科を中心に家庭科教育の目標、内容、方法、評価等について学習し、家庭科指導の力量を高める。授業内実習に加え、家庭科独自の教育方法である「ホームプロジェクト」を取り入れ、中間報告および最終報告を行う。また、模擬授業を通して、学習者にとって意義ある指導計画を作成できる能力を養う。学習成果の指標はB-②である。</p> <p>本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業となった場合は①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス、家庭科とは何か</p> <p>2回目 教育課程の変遷と家庭科の歩み</p> <p>3回目 学習指導要領にみる中学校家庭科の教育内容の変遷</p> <p>4回目 家庭科の教育方法と主体的な学び方</p> <p>5回目 中学校家庭科の教育目標と内容、指導上の留意点</p> <p>6回目 中学校家庭科と技術科、小学校・高等学校家庭科とのかかわり</p> <p>7回目 家庭科の授業づくりとESD</p> <p>8回目 家庭科におけるICTの活用</p> <p>9回目 ホームプロジェクト中間発表会</p> <p>10回目 年間指導計画の作成と評価</p> <p>11回目 学習指導案の作成方法</p> <p>12回目 模擬授業① 家族・家庭生活</p> <p>13回目 模擬授業② 衣食住の生活</p> <p>14回目 模擬授業③ 消費生活・環境</p> <p>15回目 ホームプロジェクト最終報告、これからの家庭科教育</p>
到達目標	<p>中学校技術・家庭科を中心とした家庭科教育法の基礎的知識の理解を深めるとともに、家庭科指導の実践力を習得する。</p>
授業時間外の学習	<p>模擬授業を行うための教材研究および学習指導案の作成を進める。特に学習指導案に関しては、教育実習で授業を担当することができるレベルに達するまで、修正を重ね、複数領域について作成する。</p> <p>家庭科独自の教育方法の一つである「ホームプロジェクト」は、プロジェクト学習の一種であり、自らの家庭の生活課題を見つけ、それを改善するための行動計画を立て実行することに特徴がある。本科目の受講者は、家庭科指導者として各自が身につけたい課題（目標）を1つ設定し、4カ月間の行動計画を立て、授業時間外に実行することが求められる。授業期間中には、中間報告と最終報告の2回の報告会があり、その準備を進める必要がある。</p>
評価方法	<p>学習指導案（20%）、模擬授業（30%）、ホームプロジェクト（30%）期末レポート（20%）の結果をもとに評価する。</p> <p>遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。</p>
テキスト	<p>『技術・家庭分野 生活の土台 自立と共生』開隆堂 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説—技術・家庭編』（開隆堂、2018）</p>
参考書	
備考	<p>授業の展開により、授業の内容・順番が一部変更される可能性がある。</p>

講義科目名称： 社会科教育法

授業コード： 212008

英文科目名称： Teaching Methods of Social Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	教職必修
担当教員			
島田芳行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>テキストの中学校学習指導要領解説社会編及び教科指導に関する資料等を基に、教科としての目標、内容構成、指導上の留意点、評価等について基本的事項を学修する。その上で、教科としての目標を達成するための授業づくり及び模擬授業に挑戦する。教科書、指導書、学習指導要領等を活用し、グループごとに教材研究、指導案の作成、模擬授業の実践を行う。模擬授業後は、振り返りを通して教材研究の意義や主体的対話的な深い学びの指導法等についてディスカッションを行い、よりよい社会科授業の在り方を探究し、効果的な社会化指導法を身に付ける。</p> <p>なお、学習成果の指標はB-①とB-③である。</p> <p>遠隔授業になった場合は、①課題型学修（Google Classroomを利用）と③オンデマンド型学修（Google Meetを利用）を組み合わせて実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 社会科教育の歩み</p> <p>2回目 中学校社会科の目標</p> <p>3回目 地理的分野の目標及び内容の取扱い</p> <p>4回目 教材研究の方法（地理的分野の単元を通して）</p> <p>5回目 指導案の作成方法（地理的分野の単元を通して）</p> <p>6回目 示範授業の観察（ビデオ視聴）と指導法の分析（地理的分野の単元を通して）</p> <p>7回目 模擬授業の授業づくり（地理的分野の単元を通して）</p> <p>8回目 模擬授業の実践と振り返り（地理的分野の単元を通して）</p> <p>9回目 歴史的分野の目標と内容の取扱い</p> <p>10回目 歴史的分野の単元の教材研究の方法</p> <p>11回目 公民的分野の目標と内容の取扱い及び教材研究の方法</p> <p>12回目 模擬授業と振り返り①</p> <p>13回目 模擬授業と振り返り②</p> <p>14回目 模擬授業と振り返り③</p> <p>15回目 まとめ 一講義を通して探究し学修したこと及び課題一</p>
到達目標	<p>中学校社会科の目標や地理・歴史・公民の各分野の見方・考え方、指導法、評価方法等についての基本的事項を理解することができる。単元目標及び本時の授業のねらいを達成するための指導案を作成し、模擬授業を行い、教科指導の技術を高めることができる。実践授業の振り返りを通して、教材研究の意義や主体的対話的な深い学びの指導法についての知識や技能を身に付けることができる。</p>
授業時間外の学習	<p>模擬授業を行う場合の教材研究や指導案作成は、講義中のグループワークをもとに、各自、授業時間外にも作業を進める。</p> <p>講義内容や模擬授業の振り返りは各自で行うようにし、指導法等について重要なことは教育実習時等にも活用できるようノート等に記録しておく。社会科の指導法等に関する書物を読む。</p>
評価方法	<p>授業への参加意欲（30%）、レポート（70%）。遠隔授業になった場合も評価方法に変更なし。</p>
テキスト	<p>『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』文部科学省。その他に必要な資料等は、その都度印刷し配布する。</p>
参考書	<p>社会認識教育学会編『中学校社会科教育・高等学校地理歴史科教育』（学術図書出版社、2020）</p> <p>澤井陽介・加藤寿朗編著『見方・考え方 社会科編』（東洋館出版社、2017）</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春・秋 Semester	2 年次	2 単位	必修
担当教員			
平岡秀美 講師			
添付ファイル			

授業の概要	近年、日本の道徳教育改革は教科化を伴った「考え・議論する」道徳教育を構想している。教科化という意味で、「考え、議論する」道徳は教授・評価可能とされ、多くの授業モデル・教材が開発されている。だが、そもそもそうした意味での道徳は教授可能か。こうした疑義すなわち徳の教授可能性についての問いの検討は、教育学研究における伝統的かつ現代的にも引き継がれる重要なテーマである。この点を問わない限り、道徳教育実践は「考え、議論する」という「望ましい」行為形式の安易な価値注入的態度に無自覚であり続けるおそれがある。それゆえ本講義では、徳の教授可能性という古くて新しいテーマを、実際のカリキュラム改革の動向や授業実践の文脈から教育学的に再検討していく。つまり「道徳教育科目の必修化に際して、これまでの教育学の議論においてはいかなる徳が教授可能であると構想されてきたのか、その構想は具体的な道徳教育科目においていかに実現されるのか」との問いを探究する。授業は基本的に対面形式で行う。遠隔授業となる場合は、同時・双方型学習 (Meetを利用) とする。学習成果指標はA-②、③とB-②、③である。
授業計画	<p>1 回目 2023年度の「道徳教育の理論及び指導法」の講義計画と本講義の進め方 (オリエンテーション)</p> <p>2 回目 徳の教授可能性という問い：『メノン』問題と道徳教育のアポリア</p> <p>3 回目 道徳教育は道徳的なのか：これまでの道徳教育における問題の所在</p> <p>4 回目 日本における道徳教育の展開：「修身」と「教育勅語」そして「道徳」</p> <p>5 回目 近年の日本の道徳教育改革：「特別の教科 道徳」をめぐる論点</p> <p>6 回目 道徳に関わる教育思想の展開と方法 (1)：ヘルバルトによる「強固な道徳的性格」という教育目的</p> <p>7 回目 道徳に関わる教育思想の展開と方法 (2)：デュルケム『道徳教育論』における自律の人間像</p> <p>8 回目 道徳に関わる教育思想の展開と方法 (3)：コールバーグによる「モラルジレンマ」と「ジャスト・コミュニティ」</p> <p>9 回目 価値多元化社会と基本的価値：道徳的諸価値と内容項目</p> <p>10 回目 教育における「態度」生産と道徳教育：「意欲や態度を育てる」という趣旨</p> <p>11 回目 道徳性と陶冶：「知識」と「態度」の接続問題</p> <p>12 回目 諸外国の道徳教育改革と実践 (1)：ドイツの宗教科と倫理科</p> <p>13 回目 諸外国の道徳教育改革と実践 (2)：アメリカにおけるp4c (子どもの哲学)</p> <p>14 回目 道徳教育の挑戦：「哲学する道徳」における授業構想</p> <p>15 回目 期末レポートのフィードバックと本講義の振り返り</p>
到達目標	<p>(1) 道徳教育の基礎的な理論について、その概要を説明することができる。</p> <p>(2) 上記の理論について、多様な立場があることを知り、それらを理論的に読み解き、相対的に把握することができる。</p> <p>(3) 上記の諸理論の把握に基づいて、自身の受けてきた (あるいは行なってきた) 教育経験を反省的に観察し、新たな指導法の道筋を検討することができる。</p>
授業時間外の学習	<p>毎回の講義の参加に向けて、復習課題と予習課題の提出をすることが授業出席の条件となります。つまり、各講義に身体的にきているだけでは出席とはみなしません。予習復習がなされていない場合、自分自身の学習や成績の妨げになるばかりでなく、話し合い活動をはじめとした授業の進行の妨げになることも予想されます。とりわけ予習課題としては、予習用資料の精読とそれについての簡単なレジュメの作成をしていただきます (詳細は、第一回の講義において説明します)。なおこの予習課題には、1時間半から2時間程度の授業外学習が毎週必要であると思われます。</p>
評価方法	各講義内容についてのコメントシートの提出 (18%)

	<p>各講義での予習課題の提出 (27%) 期末レポートの提出 (55%)</p> <p>※基本的に、遠隔授業に変更となった場合も評価方法に変更はありません。</p>
テキスト	<p>教科書は使用しません。講義において講義プリントを配布します。</p>
参考書	<p>村井実 (1990) 『道徳は教えられるか』 国土社。 松下良平 (2011) 『道徳教育はホントに道徳的か?』 日本図書センター。(もう少し詳しく勉強したい人は、少々難しいですが、松下良平 (2004) 『道徳の伝達：モダンとポストモダンを超えて』 日本図書センター を手に取ってみてください) Benner, D. (1987) : Allgemeine Paedagogik. Weinheim und Basel. (牛田伸一訳 (2014) 『一般教育学』 協同出版)</p> <p>※その他、授業のなかで適宜推薦します。</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	2単位	教職必修
担当教員			
島田芳行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>総合的な学習の時間の創設の背景を理解し、目標及び内容、そして各学校の特色を生かした総合的な学習の時間の在り方についての理論を学ぶ。また、総合的な学習の時間の指導法については、中学校で行われている総合的な学習の時間の事例を収集し、それをもとにグループワークを行い、主体的対話的な深い学びを目指す探究学習の在り方やポイント等について議論を深める。その上で、総合的な学習の時間の年間指導計画や単元計画の設定方法、効果的な学習指導の工夫や留意点についての理解を深める。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-①とA-②である。</p> <p>遠隔授業になった場合は、①課題型学修（Google Classroomを利用）と③オンデマンド型学修（Google Meetを利用）を組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 総合的な学習の時間の創設の背景</p> <p>2回目 総合的な学習の時間の目標と構成の趣旨</p> <p>3回目 各学校が定める目標</p> <p>4回目 各学校が取り扱う内容</p> <p>5回目 指導計画作成にあたっての配慮事項</p> <p>6回目 内容の取扱いについての配慮事項</p> <p>7回目 年間指導計画と単元配列</p> <p>8回目 単元計画の作成</p> <p>9回目 総合的な学習の時間の指導法の探究①（地域・生徒の実態と単元の取扱い）</p> <p>10回目 総合的な学習の時間の指導法の探究②（探究学習に関わる教師の留意点）</p> <p>11回目 総合的な学習の時間の指導法の探究③（主体的・対話的な深い学びのための留意点）</p> <p>12回目 総合的な学習の時間の指導法の探究④（多様な指導法）</p> <p>13回目 総合的な学習の時間の学習評価</p> <p>14回目 総合的な学習の時間を充実させるための体制づくり</p> <p>15回目 まとめと振り返り</p>
到達目標	<p>総合的な学習の時間の創設の背景と関連づけながら、総合的な学習の時間の目標及び内容設定の意味を理解することができる。児童生徒が主体的に探究学習に取り組めるよう、学校の実態を踏まえて特色ある年間指導計画及び単元計画を設定していることが理解できる。総合的な学習の時間の現状や課題を把握するための調査や課題解決のためのディスカッションを通して、単元計画や学習指導法、評価方法等についての基本的な知識と技能を身に付けることができる。</p>
授業時間外の学習	<p>シラバスをもとに予習を行うとともに、学習した内容はテキストで再度復習し、内容の定着を図る。また、総合的な学習の時間の指導法についての議論を深めるため、各自、母校等で聞き取りを行い、取り組みの現状のよさや課題を整理しておくようにする。</p>
評価方法	<p>授業への参加意欲（30%）、レポート（70%）。遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更なし。</p>
テキスト	<p>『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』 文部科学省 平成29年</p>
参考書	<p>朝倉 淳・永田忠道共編著『総合的な学習の時間・総合的な探究の時間の新展開』（学術図書出版社 2019年）その他、必要に応じてプリントを配布する。</p>
備考	<p>実務教員：初等教育・中等教育前期学校教諭、管理職また教育研究所主事として38年間勤務。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	2単位	教職必修
担当教員			
倉持 博 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>特別活動は、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、豊かな学校生活を築くとともに、生徒一人一人に自主的、実践的な態度や社会性をはぐくむことをねらいとしている。また、特別活動は、全ての教師がかかわる教育活動であり、児童生徒の人間形成にとって重要な役割を担う教育活動である。本講義では、特別活動の教育課程上の位置づけや内容、指導方法、特別活動ではぐくむ資質・能力、評価などにおける特質から、人間形成における特別活動の意義や役割を理解する。授業では、講義とともにグループワーク等も行い、主体的・協働的に取り組む力の育成もねらいとする。</p> <p>なお、学習成果の指標はB-②と③である。 諸般の事情により遠隔授業になる場合は、①課題型学修（Google Classroomを利用）となる。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション 特別活動の思い出</p> <p>2回目 特別活動の特質・意義</p> <p>3回目 特別活動の教育課程上の位置づけと変遷</p> <p>4回目 特別活動の目標と内容</p> <p>5回目 特別活動における人間関係形成と話し合い活動</p> <p>6回目 特別活動の指導計画の作成と指導と評価</p> <p>7回目 特別活動と組織的取組</p> <p>8回目 特別活動と道徳教育</p> <p>9回目 特別活動とキャリア教育</p> <p>10回目 特別活動と生徒指導</p> <p>11回目 特別活動と学級経営</p> <p>12回目 学級活動・ホームルーム活動の実践</p> <p>13回目 児童会・生徒会活動の実践</p> <p>14回目 クラブ活動、部活動の実践</p> <p>15回目 学校行事の実践、まとめ</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領における特別活動の目標及び内容等について理解することができる。特に、特別活動の三つの視点（人間関係形成・社会参画・自己実現）の重要性について理解することができる。 ・教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連について理解し、説明することができる。 ・学級活動・ホームルーム活動の特質について理解し、授業を構想し、指導案にまとめ、説明することができる。 ・児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質について理解し、実践事例を踏まえながら、各活動等の具体について計画することができる。 ・特別活動と道徳教育、キャリア教育、生徒指導、学級経営、部活動等との関連について理解し、効果的な指導の在り方について話し合い、学びを深めることができる。 ・合意形成や意思決定につながる話し合い活動の指導及び集団活動の意義や指導の在り方について理解し、具体的に例示することができる。 ・特別活動における評価の意義、評価の対象、評価の計画、評価の方法等について理解し、学習過程を通して

	<p>どのよ うに評価するか、議論し、考えを深めることができる。 ・特別活動と保護者・地域との連携の在り方、特別活動とカリキュラムマネジメント等を踏まえ、特別活動の 全体計 画を構想することができる。</p>
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前にテキストをよく読み、予習をして、授業に生かすようにする。 ・授業中にまとめたワークシート等を見直し、復習をするようにする。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験（50％）、授業への参加意欲（30％）、提出課題（20％）等を踏まえて総合的に評価する。 ・遠隔授業になった場合は、レポート（70％）、授業への参加意欲（30％）とする。
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・編者：渡部邦雄、緑川哲夫、桑原憲一 「平成29年・30年告示学習指導要領準拠 特別活動指導法改訂2版」 （日本文 教出版（株）・令和2年）
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省 「中学校学習指導要領解説特別活動編」（東山書房・平成29年） ・その他、必要に応じてプリントを配布する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	必修
担当教員			
平岡秀美 講師			
添付ファイル			

授業の概要	本講義は、教育方法学に関する基礎的知識の習得を通じて、教職における実践的指導力の土台を構築することを目指す。ここでいう実践的指導力とは、教師が教育実践において、知識や技能を伝達するだけでなく、むしろそれらを通じた人格育成を目指し、子どもたちにはたらきかける方法と技術の力量を意図している。だが、学校教育において、子どもの「知ること」と「振る舞うこと」とを教師が直線的に結びつけることの困難さは自明である（何かを知ったからといって、それに従って振る舞えるとは限らない）。本講義では、こうした教育実践における教育方法上の様々な「つまづき」を、教育方法の実践活動の背後に働いている理論に照らして考察する。確かに、残念ながら（そして幸いなことに）大学で教育方法の理論を学ぶことが、「良い」授業を行うことに直接的に役立つとは限らない。だがそれでも、「理論に基づかない実践は、ことの成り行きを見て有利な方につこうとする日和見主義になり、子どもを混迷に落とし込む」（長谷川 2008: 2）のであれば、教師の職業科学である教育方法学の理論を学ぶことは不可欠である。なお、学習成果の指標は A-②、③とB-②、③である。
授業計画	<p>1 回目 2023年度の「教育方法学」の講義計画と本講義の進め方：本講義では何が目指され、どのように行われるのか</p> <p>2 回目 「実践的指導力」と実践科学としての教育方法学：なぜ大学で教育方法学を学ぶのか</p> <p>3 回目 教育方法学の学問的性格と現代的課題：教育方法学はどのような学問なのか</p> <p>4 回目 学校教育の目的とカリキュラム：学校教育における授業は何を目指すのか</p> <p>5 回目 教育技術と教育的タクト：「良い」教え方はどのように身につくのか</p> <p>6 回目 〈新しい能力〉論と学校の役割：学校では何を教え、何を教えないのか</p> <p>7 回目 一斉授業とその克服：授業形態にはどのような意味があるのか</p> <p>8 回目 学級集団と「学級」の歴史学：「学級」とはどのような場なのか</p> <p>9 回目 教育的関係と教育における非対称性：教育を語るができるのは誰か</p> <p>10 回目 子ども理解とマイノリティ：「多様」な子どもたちをどのように理解するか</p> <p>11 回目 授業づくりと教材研究：授業はどのように作られうるのか</p> <p>12 回目 授業における「問い」と子どもの問い：授業における「問い」とは何であり、何であるべきか</p> <p>13 回目 講義に対する質疑応答とレポート作成について (1)：講義</p> <p>14 回目 講義に対する質疑応答とレポート作成について (2)：グループワーク</p> <p>15 回目 期末レポートのフィードバックと本講義の振り返り：「実践的指導力」とは何であったのか</p>
到達目標	<p>(1)教育方法学の基礎的な理論について、その概要を説明することができる。</p> <p>(2)上記の理論について、多様な立場があることを知り、それらを理論的に読み解き、相対的に把握することができる。</p> <p>(3)上記の諸理論の把握に基づいて、自身の受けてきた（あるいは行なってきた）教育経験を反省的に観察することができる。</p>
授業時間外の学習	毎回の講義の参加に向けて、復習課題と予習課題の提出をすることが授業出席の条件となります。つまり、各講義に身体的に來ているだけでは出席とはみなしません。予習復習がなされていない場合、自分自身の学習や成績の妨げになるばかりでなく、話し合い活動をはじめとした授業の進行の妨げになることも予想されます。とりわけ予習課題としては、予習用資料の精読とそれについての簡単なレジュメの作成をしていただきます。（詳細は、第一回の講義において説明します）。なおこの予習課題には、1時間半から2時間程度の授業外学習が毎週必要であると思われます。
評価方法	各講義内容についてのコメントシートの提出 (18%)

	各講義での予習課題の提出 (27%) 期末レポートの提出 (55%) ※基本的に、遠隔授業に変更となった場合も評価方法に変更はありません。
テキスト	教科書は使用しません。講義において講義プリントを配布します。
参考書	Benner, D. (1987) : Allgemeine Paedagogik. Weinheim und Basel. (ディートリッヒ・ベンナー著／牛田伸一訳 (2014) 『一般教育学』協同出版。) 長谷川榮 (2018) 『教育方法学』協同出版。 ※その他、授業のなかで適宜推薦します。
備考	本授業は対面形式で行います。諸般の事情により、遠隔授業となった場合は、同時・双方型学修〔Google Meetを利用〕となります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	教職必修
担当教員			
倉持 博 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>生徒指導は、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通して行われる重要な教育活動である。また、進路指導・キャリア教育は、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。本講義では、生徒指導・進路指導・キャリア教育の原理や学校教育における日常的な実践・役割等を理解し、具体的な方策や進め方について考え、教師としての指導観や実践力を養う。また、自己指導能力の育成にかかわる生徒指導、進路指導・キャリア教育の具体的な内容について、学校の教育活動全体を通して考察を深める。さらに、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。</p> <p>なお、学習成果の指標はB-②と③である。 諸般の事情により遠隔授業になる場合は、①課題型学修（Google Classroomを利用）となる。</p>
授業計画	<p>1回目 生徒指導の基礎（生徒指導の定義、構造）</p> <p>2回目 生徒指導の基礎（生徒指導の方法、基盤、取組み上の留意点）</p> <p>3回目 生徒指導と教育課程（教科の指導と生徒指導、道徳教育における生徒指導、総合・特活における生徒指導）</p> <p>4回目 チーム学校による生徒指導体制（学校組織、生徒指導体制、教育相談体制、生徒指導と教育相談の一体的連携）</p> <p>5回目 チーム学校による生徒指導体制（危機管理体制、法制度の運用体制、学校・家庭・関係機関等との連携・協働）</p> <p>6回目 個別の課題に関する児童生徒への対応（いじめ、暴力行為）</p> <p>7回目 個別の課題に関する児童生徒への対応（少年非行、児童虐待）</p> <p>8回目 個別の課題に関する児童生徒への対応（自殺、中途退学）</p> <p>9回目 個別の課題に関する児童生徒への対応（不登校、インターネット・携帯電話に関わる問題）</p> <p>10回目 個別の課題に関する児童生徒への対応（性に関する課題、多様な背景を持つ児童生徒への生徒指導）</p> <p>11回目 キャリア教育の意義と必要性</p> <p>12回目 キャリア教育と進路指導（小学校・高等学校におけるキャリア教育）</p> <p>13回目 中学校におけるキャリア教育の推進（校内組織、全体計画、年間指導計画、効果的な職場体験、キャリア教育の評価）</p> <p>14回目 中学校におけるキャリア教育の実践（キャリア発達、3年間を見通した系統的なキャリア教育）</p> <p>15回目 各教科等におけるキャリア教育の取組、まとめ</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程における生徒指導の位置づけが理解できる。 2. 各教科等における生徒指導の意義や重要性が理解できる。 3. 集団指導・個別指導の方法原理が理解でき、実践事例を通して具体的な取組みについて考えることができる。 4. 生徒指導体制と教育相談体制が理解できる。 5. 生徒指導の組織的な取組の重要性について、事例を通して理解を深めることができる。 6. 日々の生徒指導の在り方が理解できる。 7. 児童生徒の自己存在感設定の在り方が例示できる。 8. 生徒指導に関する主な法令の内容が理解できる。 9. 生徒指導上の課題への対応の仕方が理解できる。

	<p>10. 児童虐待への対応等、関係機関との連携の在り方が例示できる。</p> <p>11. 教育課程における進路指導・キャリア教育の位置づけについて理解し、説明することができる。</p> <p>12. キャリア教育の視点、指導の在り方が理解でき、具体的な取組みについて考えることができる。</p> <p>13. 進路指導・キャリア教育の組織的な指導体制が理解できる。</p> <p>14. キャリア教育の視点をもったカリキュラムマネジメントの意義が理解できる。</p> <p>15. ガイダンス機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義が理解できる。</p> <p>16. キャリア形成の視点に立った自己評価の意義を理解し、ポートフォリオの活用の在り方が例示できる。</p> <p>17. キャリアカウンセリングの考え方と方法が説明できる。</p>
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスで授業内容を確認し、デジタルテキストをよく読み、事前に予習するようにする。 ・事後の学習では、レジュメやワークシート等を見直し、学習の定着を図る。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・成績は、筆記試験（50%）、授業への参加意欲（30%）、課題レポート（20%）を踏まえ、総合的に評価する。 ・遠隔授業の場合は、課題レポート（70%）、授業への参加意欲（30%）とする。
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・「教科書を使用せず」レジュメを配布します。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省 デジタルテキスト「生徒指導提要改訂版」（令和4年12月） ・文部科学省 「中学校学習指導要領解説総則編」（東山書房・平成29年） ・文部科学省 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター編 「変わる！キャリア教育」（ミネルヴァ書房・平成28年） ・その他、随時紹介します。
備考	

講義科目名称： 教育相談（カウンセリングを含む）

授業コード： 242009

英文科目名称： Educational Counseling

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	教職必修
担当教員			
星 雄一郎 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>保育・教育現場において幼児・児童・生徒を理解し、諸問題に対応するための理論的、実践的知識を学ぶ。初めに、保育・教育現場における教育相談の有り様、家庭、地域、関係機関との連携について学ぶ。次に、代表的な心理臨床の理論・心理療法について学ぶ。各理論・療法とその的確な適用を学ぶことで実践力を高める。後半では、理論的、実践的知識に基づいて、不適応状態に陥った幼児・児童の再適応を助け、問題の予防を目的とした援助や自己実現を助ける開発的援助の方法について学習する。本講義の学習成果の指標はA-③及びB-②、③である。「教職課程コアカリキュラム」に即したものである。本講義は、対面授業を中心に実施する。また、学修内容に応じて、Google Classroom を活用し、反転学習などの多様な学修を実施する場合がある。また、遠隔講義が必要となる状況になった場合は、Google Meet などを用いた②同時・双方向型学修を中心に実施し、Google Classroom などを用いた①課題型学修・③オンデマンド型学修を組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション 教育相談の意義と役割</p> <p>2回目 教師に求められるカウンセリングスキル カウンセリングマインドの理解と実践</p> <p>3回目 学校心理学の考え方および“チーム学校”におけるスクールカウンセラ・スクールソーシャルワーカーの役割</p> <p>4回目 “チーム学校”と連携 学校組織と関連機関および家庭との連携</p> <p>5回目 学級経営と教師のメンタルヘルス</p> <p>6回目 アセスメントと関わる技法Ⅰ 理論の理解</p> <p>7回目 アセスメントと関わる技法Ⅱ 教育実践への応用</p> <p>8回目 学校危機予防の考え方と予防の在り方</p> <p>9回目 幼児・児童・生徒の学校適応の問題と対応Ⅰ 不登校</p> <p>10回目 幼児・児童・生徒の学校適応の問題と対応Ⅱ 非行・虐待</p> <p>11回目 幼児・児童・生徒の学校適応の問題と対応Ⅲ いじめ</p> <p>12回目 幼児・児童・生徒の学校適応の問題と対応Ⅳ 無気力</p> <p>13回目 事例とロールプレイで学ぶ教育相談と面接技法</p> <p>14回目 神経発達症群への対応 自閉スペクトラム症、限局性学習症、注意欠如・多動症</p> <p>15回目 求められる教育相談の在り方 教員として必要な教育相談の視点と活用のポイント</p>
到達目標	<p>1. 学校における教育相談の役割や体制について理解することができる。</p> <p>2. 児童生徒の発達課題を正しく理解し、子どものニーズに沿った関わりについて考えることができる。</p> <p>3. いじめや不登校、特別な支援を要する児童生徒に対する基礎的な知識を身に付けることができる。</p> <p>4. 支援が必要な児童生徒にスクールカウンセリングの理論や視点を援用し、適切に対応していくための見通しを持つことができる。</p>
授業時間外の学習	<p>講義時間外での学習を求める。事前・事後学修については Google Classroom にて指示する。その他にも各自積極的に学修内容を活用した観察などを行い、積極的に学びを深めること。</p> <p>【事前学修】 30分程度</p> <p>1. Google Classroom に事前課題が出題される場合がある。事前課題に取り組み、回答を行ってから講義へ参加してください。</p> <p>2. 教科書の当該範囲や関連書籍を読み、内容理解を深めること。</p> <p>【事後学修】 30分程度</p>

	<p>1. Google Classroom に事後課題が出題される場合がある。事後課題に取り組み、講義で学んだこと、考えたことなどをふりかえってください。</p> <p>2. 講義資料やノートを再確認し、内容理解を深めること。</p> <p>各課題は、Google Classroom に定められた期日までにオンライン提出を求める。</p>
評価方法	<p>【評価基準】</p> <p>1. 教育相談の基礎となる発達心理学、臨床心理学の知識を身につける。</p> <p>2. 児童生徒、保護者などのニーズを把握し、教育相談の観点から分析できるようになる。</p> <p>3. 児童生徒の問題を解決するための教育実践活動を具体的に立案、計画できる。</p> <p>【評価方法】</p> <p>1. 事前・事後課題の提出と回答 30%</p> <p>2. 講義への参画度 20%</p> <p>3. 学期末試験 50% (定期試験期間中に実施。100 点満点の試験の得点を 1/2 し、50 点満点で評価)</p> <p>【非対面での実施となった場合】</p> <p>1. 事前課題と事後課題への回答 30%</p> <p>2. 講義への参画度 20%</p> <p>3. 小テスト、レポート、課題などの提出物 50 %</p> <p>上記の 3 点から評価をします。成績評価の基準は國學院大學栃木短期大学の基準に準拠します。 評価方法・基準の詳細については、初回の講義にて説明する。</p>
テキスト	<p>渡辺弥生・西山久子 (編著) (2018). 必携: 生徒指導と教育相談 (生徒理解, 進路相談そして学校危機予防まで) 北樹出版 (2,310 円)</p> <p>ただし、講義の中でテキストを開き、読み合わせをするようなことはありません (限られた講義時間を有効に利用するため)。テキストは事前事後学修への回答のため、講義時間では呈示しきれない情報の補填のために用います。</p>
参考書	<p>講義内にて適宜紹介します。</p>
備考	<p>【指導方法】</p> <p>1. 基本的に講義形式です。レジュメとスライドの他に必要に応じて視聴覚資料を使用します。</p> <p>2. 講義への参画度を高く評価します。講義にただ出席するだけでなく、講義内での積極的な発言、参加を高く評価します。</p> <p>3. 質問は講義前後の時間、毎回の出席調査票によって受け付けます。質問への回答は講義内で行います。</p> <p>4. 通常は講義形式で行うが、グループ討論やロールプレイなどの実習を行うので積極的に参加すること。</p>

講義科目名称： 教職実践演習（国語）

授業コード： 214012

英文科目名称： Teaching Practice Seminar（Japanese）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	教職必修
担当教員			
倉持博教授 柏崎純一講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>教育実習の経験をもとに、グループ討論やロールプレイングを通して、教師としての使命感や教育的愛情について考えたり、模擬授業を通して、効果的な教科指導の方法を学び直したりする。また、教職履修カルテを作成することで、これまでの教職課程科目において修得した知識・技能が身についているかを確認し、不足している点を明らかにする。</p> <p>柏崎担当回は、対面形式の授業を主としてグループ討論や模擬授業等を行ってもらう予定である。倉持担当回は、対面形式の授業を主とする。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-③である。</p> <p>諸般の事情により遠隔授業になる場合は、課題型学修（Google Classroomを利用）あるいは同時・双方型学修（Google Meetを利用）となる。</p>
授業計画	<p>1回目 教職実践演習の目的と内容（ガイダンス及び履修カルテの確認）（柏崎）</p> <p>2回目 教師の使命感、教育的愛情（柏崎）</p> <p>3回目 求められる教師像（教師に求められる資質能力）（柏崎）</p> <p>4回目 学びに向かう集団づくり（柏崎）</p> <p>5回目 国語科の授業設計・教育実習時の学習指導案の振り返り（柏崎）</p> <p>6回目 国語科模擬授業の分担と学習指導案の改善（柏崎）</p> <p>7回目 道徳・特別活動の授業設計（倉持）</p> <p>8回目 改善案に基づく道徳・特別活動の模擬授業と評価（倉持）</p> <p>9回目 生徒理解と生徒指導（倉持）</p> <p>10回目 学級経営案の作成（倉持）</p> <p>11回目 模擬授業①「説明的文章（評論）」・懲戒と体罰（柏崎）</p> <p>12回目 模擬授業②「文学的文章（小説）」・学校安全と危機管理（柏崎）</p> <p>13回目 模擬授業③「古典（古文）」・令和の日本型学校教育（柏崎）</p> <p>14回目 模擬授業④「文学的文章（短歌）」・個別最適な学びと協働的な学び（柏崎）</p> <p>15回目 まとめ（履修カルテに基づく自己評価と今後の学習課題の把握）（柏崎）</p>
到達目標	<p>教師として求められている使命感や教育的愛情、社会性や対人関係能力、生徒理解や学級経営能力、教科内容の指導力等についての資質の向上、スキルの定着をはかるとともに、使命感を抱いて生涯にわたって学び続けることができる教師を目指す。</p>
授業時間外の学習	<p>教職履修カルテを作成する。</p> <p>教員免許状を取得することの意味を自覚し、人間として、社会人として、教育者としての資質・能力を高める。</p>
評価方法	<p>履修カルテ、模擬授業、課題に対する取り組み、発表内容、レポート等をもとに各担当教員が評価点数を出し、それを平均化する。遠隔授業の場合も同様である。</p>
テキスト	<p>模擬授業実施時に、中学校国語教科書に所収される教材の指導資料（文学的文章・説明的文章・古典等）を配付する予定である。（柏崎）</p>
参考書	<p>必要に応じて、参考書・参考資料を紹介する。</p>

備考	諸般の事情により授業計画を変更する場合がある。
----	-------------------------

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	教職必修
担当教員			
仲田郁子教授 村井佐代子教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>これまでの教職課程において習得した知識・技能について振り返り、教員としての課題を整理し、教員としての使命感や責任感、教育的愛情、社会性や対人関係能力、生徒理解や学級経営能力、教科内容の指導力について資質やスキルの向上をはかる。</p> <p>前半は、各自の教員としての資質や能力に関する課題を自己評価および相互評価を通して整理し、具体的な改善計画を立て実行する。後半は、各自の改善計画の進行状況についての報告を行うと共に、教科の専門性を高めるための学習（教材研究、模擬授業）を進行する。学習成果の指標はB-②である。</p> <p>本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業となった場合は①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス（これまでの学修の振り返り・グループ討論）</p> <p>2回目 学校組織と教師の役割（事例研究・グループ討論）</p> <p>3回目 学校教育におけるICTの活用とメディアリテラシー（事例研究・グループ実習）</p> <p>4回目 生徒理解と学級経営（学級経営案の作成、グループ討論）</p> <p>5回目 教員としての資質・能力を向上させる行動計画の作成・発表</p> <p>6回目 家庭科教員としての専門性（中学校見学）</p> <p>7回目 教材研究（地域の暮らしと食生活）</p> <p>8回目 教材研究（地域の暮らしと衣生活）</p> <p>9回目 教材研究（循環型社会の実現に向けて）</p> <p>10回目 教員としての資質・能力を向上させる行動計画の進行状況（中間報告）</p> <p>11回目 授業設計と模擬授業①（研究題材の検討、指導案の作成）</p> <p>12回目 授業設計と模擬授業②（模擬授業）</p> <p>13回目 授業設計と模擬授業③（模擬授業の評価とグループ討論）</p> <p>14回目 保護者、地域との連携（事例研究、ロールプレイング）</p> <p>15回目 ふりかえりとまとめ、教員としての資質・能力を向上させる行動計画の成果報告（相互評価）</p>
到達目標	<p>自らの教員としての資質・能力を振り返り、不足部分を補うための行動計画を立て実行することができる。また、教育現場の見学や教育に関するグループ討論、教材研究等を通して、プロとしての教育観、教科指導の専門性を身につける。</p>
授業時間外の学習	「教員としての資質・能力を向上させる行動計画」を進行させ、教材研究や模擬授業の準備を行うこと。
評価方法	<p>授業への取り組み（20%）・発表内容（30%）、期末レポート（50%）により評価をおこなう。</p> <p>遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。</p>
テキスト	教科書は使用しない。授業時にプリントを配布する。
参考書	<p>文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説—技術・家庭編』（開隆堂、2018）</p> <p>『中学校技術・家庭家庭分野』開隆堂、『新しい技術・家庭家庭分野』東京書籍、『技術・家庭家庭分野』教育図書</p> <p>『次世代教員養成のための教育実習—教師の初心をみがく理論と方法—』次世代教員養成研究会編・学文社</p>
備考	地域の教育現場の視察（中学校見学等）に加え、教材研究のためのフィールドワークを行う場合がある。

講義科目名称： 教職実践演習（社会）

授業コード： 222011

英文科目名称： Teaching Practice Seminar (Social Studies)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	教職必修
担当教員			
島田芳行准教授 黒川澄夫講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>教職課程履修の総括として、教職履修カルテを作成し、教職を目指す上での自己の課題を明確にするとともに、その課題について主体的に調査・研究を行い、課題への理解を深めたり解決を図ったりすることを通して教師としての資質・能力を高める。また、グループワークやディスカッション等を通して、教師として重要な使命感や教育的愛情について考えを深めたり、効果的な教科指導や生徒指導、保健・安全指導への理解を深めたりしながら学校現場で役立つ知識と技能を身に付け、教師としての実践的指導力を高める。</p> <p>なお、学習成果の指標は、B-①とB-②とB-③である。</p> <p>遠隔授業になった場合は、①課題型学修（Google Classroomを利用）と③オンデマンド型学修（Google Meetを利用）を組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 教職実践演習の目的と内容（履修カルテの確認と自己課題の明確化）（島田）</p> <p>2回目 教師の使命感、教育的愛情（島田）</p> <p>3回目 学校経営と組織力（島田）</p> <p>4回目 学びに向かう集団づくり（島田）</p> <p>5回目 学習活動・社会科の授業設計（黒川）</p> <p>6回目 社会科学習指導案の作成と評価（黒川）</p> <p>7回目 模擬授業（黒川）</p> <p>8回目 模擬授業の改善（黒川）</p> <p>9回目 特別の教科道徳・特別活動の授業設計（黒川）</p> <p>10回目 道徳科の模擬授業（黒川）</p> <p>11回目 学校安全と危機管理（島田）</p> <p>12回目 懲戒と体罰（島田）</p> <p>13回目 自己課題研究発表①（島田）</p> <p>14回目 自己課題研究発表②（島田）</p> <p>15回目 まとめ（履修カルテに基づく自己評価と今後の学習課題の把握）（島田）</p>
到達目標	<p>教職を目指す上での自己の課題を明確にし、その課題について主体的に調査・研究を行い、まとめたことを工夫して発表することができる。グループワークやディスカッションを通して、教師としての使命感や教育的愛情、効果的な教科指導や生徒指導、学校安全管理等についての理解を深め、よりよい教師になるための実践的指導力を高めることができる。教職の喜びや困難さを理解し、教職の道を目指して常に自己研鑽に努めようとする意欲と態度をもつことができる。</p>
授業時間外の学習	<p>教職課程履修の総括として、教職科目や教育実習等を振り返り、教職履修カルテを作成する。教師として必要な資質・能力を高めるため、自らの課題を探究したり、教育活動に関わるボランティア活動に積極的に参加したりする。教科指導に関する書物やインターネットの資料・動画等に触れ、教材の見つけ方や指導法についての視野を広げる。</p>
評価方法	<p>授業への参加態度（20%）、履修カルテ（30%）、レポート（50%）。遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更なし。</p>
テキスト	<p>授業時にプリントを配付する。</p>
参考書	<p>必要に応じて、参考書籍・参考資料を紹介する。</p>

備考	諸般の事情により授業計画を変更する場合がある。
----	-------------------------

講義科目名称： 教育実習 I（事前事後指導 1 単位を含む）

授業コード： 221006

英文科目名称： Practice Teaching 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1 年次	2 単位	教職必修
担当教員			
島田芳行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>教育実習においては、教員が守るべき服務規律や専念すべき様々な職務についての理解を深め、自覚をもって主体的かつ積極的に取り組む必要がある。そのためには実習前の周到な準備と心構えが重要である。本授業では、まず教育実習の事前・事中・事後の取り組みの概要を理解する。その上で教育実習で直面するであろう授業の観察の仕方や教科指導、生徒指導、安全指導等の指導法や留意点について、学校現場の具体的事例を基にグループワーク等を行い、教育実習に必要な基本的な知識と技能を身に付ける。</p> <p>また、中学校教育実習における直前の事前指導及び事後指導は、必要に応じて集中補講の期間やス花アワー（水曜日・4時限）等の正規の授業時間外にも行う。</p> <p>なお、学習成果の指標のB-①とB-③である。</p> <p>遠隔授業になった場合は、①課題型学修（Google Classroomを利用）と③オンデマンド型学修（Google Meetを利用）を組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1 回目 教育実習の意義と目的</p> <p>2 回目 教育実習の事前・事中・事後の概要</p> <p>3 回目 教育実習生としての職務</p> <p>4 回目 守秘義務や情報管理</p> <p>5 回目 授業観察のポイント</p> <p>6 回目 授業観察の実際（授業動画を視聴してのグループワーク）</p> <p>7 回目 授業づくりのポイント</p> <p>8 回目 道徳教育（授業動画を視聴してのグループワーク）</p> <p>9 回目 特別活動（学校行事への関わり）</p> <p>10 回目 特別支援教育</p> <p>11 回目 学校経営・学級経営</p> <p>12 回目 学校保健・学校安全</p> <p>13 回目 学校給食</p> <p>14 回目 教育相談</p> <p>15 回目 まとめ 一充実した教育実習にするために</p>
到達目標	<p>教育実習の意義を理解し、教員としての服務や職務内容を理解することができる。授業観察や学習指導、生徒指導等についての基本的な知識と技能を身に付けることができる。積極的に指導教員と関わり楽しく充実した教育実習にしようとする意欲を高め、そのための準備をスタートさせることができる。</p>
授業時間外の学習	<p>シラバスをもとにテキストを事前に読み込み概要を理解するとともに、講義終了後は再度テキストを復習したり、関係する書物を読んだりして学習内容への理解を深める。</p> <p>また、教育実習中は、教員と同様に礼儀や節度ある行動が求められることから、日頃より挨拶、丁寧な言葉遣い、服装等に気を付けて行動する。</p>
評価方法	<p>授業への参加意欲(30%)、レポート(70%)。遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更なし。</p>
テキスト	<p>次世代教員養成研究会編『次世代教員養成のための教育実習－教師の初心をみがく理論と方法－』（学文社、2014年）</p>
参考書	<p>『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説』（国語または社会、特別の教科道徳）文部科学省 玉川大学教師教育リサーチセンター編『教育実習ガイド 小学校・中学校・高等学校版』（時事通信社、</p>

	2020) 1年次「教科教育法」の授業で使用したテキスト
備考	諸般の事情により授業計画を変更する場合がある。

講義科目名称： 教育実習 I（事前事後指導 1 単位を含む）

授業コード： 221005

英文科目名称： Practice Teaching 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1 年次	2 単位	教職必修
担当教員			
仲田郁子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>教育実習に先立ち、その意義を理解し、実習生として必要な知識・技能を学ぶ。これまで教育を受ける立場で学校と関わってきた学生であるが、教育実習期間中は実習生とはいえ教員の立場に立つことになる。そのため学校という組織について理解し、適切に行動するための基礎的な知識が必要となる。授業に備えては指導案の作成、模擬授業などを通じて実践力を養う。また授業外の活動、児童・生徒との関わり方、実習中に遭遇する可能性のある様々な問題への対処などについても学ぶ。</p> <p>学習成果の指標はB-②である。</p> <p>本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業となった場合は①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1 回目 教育実習の意義と心構え</p> <p>2 回目 学校組織と教員の職務・学校現場に関わる法律の基礎知識</p> <p>3 回目 実習の流れ・実習日誌など実習関係書類の書き方と留意点</p> <p>4 回目 生徒理解 その1：個人差・問題行動への対応</p> <p>5 回目 生徒理解 その2：発達障がい児への対応</p> <p>6 回目 授業外の活動 その1：生徒指導、帰りの会の進行など学級内での役割</p> <p>7 回目 授業外の活動 その2：行事、課外活動への参加など学級外での役割</p> <p>8 回目 授業へ向けて その1：教材研究</p> <p>9 回目 授業へ向けて その2：指導案作成</p> <p>10 回目 授業へ向けて その3：模擬授業</p> <p>11 回目 授業へ向けて その4：模擬授業の評価と指導案の修正</p> <p>12 回目 実習で役立つプレゼンテーション力：自己紹介を含む</p> <p>13 回目 実習で役立つコミュニケーション力：ロールプレイを含む</p> <p>14 回目 実習で役立つ問題対応力：ロールプレイを含む</p> <p>15 回目 補足とまとめ</p>
到達目標	<p>教育実習の意義を理解し、積極的、主体的に実習に取り組むことができる。実習中に必要とされる知識・技能について事前に学習・準備することにより、授業場面で、あるいは学級内外での活動場面で、また児童・生徒との関わりに際し、適切に行動することができる。また、実習期間中に課題・問題に遭遇した場合には積極的に取り組み、その過程で様々な工夫を凝らし、必要に応じて相談することができる。</p>
授業時間外の学習	自己紹介案・指導案作成・仮実習日誌の作成などの課題の準備をする。
評価方法	<p>小レポート：50%、授業中の発表・課題：40%、授業への参加意欲・態度：10%</p> <p>遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。</p>
テキスト	『小学校・中学校・高等学校版 教育実習ガイド』玉川大学教師教育リサーチセンター編、時事通信社
参考書	授業の中で紹介する。
備考	授業の展開により、授業の内容・順番が一部変更される可能性がある。

講義科目名称： 教育実習Ⅱ(現場実習) (中)

授業コード： 700006

英文科目名称： Practice Teaching (On-the-Job Practice)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位	教職必修
担当教員			
島田芳行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>教育実習は、大学で学んだ知識・技術を実際の教育現場で活用し、検証する機会である。いわば教育課程全体のまとめの学修である。教育実習を通して、学習指導や児童生徒指導、教育相談、学校行事やその他の特別活動等の教育活動を体験し、教えることの難しさ、学ぶことの大切さ、やりがいを実感しながら、教師としての実践的能力を身に付ける。</p> <p>なお、学習成果の指標は、B-①とB-②とB-③である。</p> <p>予定された期日に教育実習ができない場合は、実施時期を変更する。</p>
授業計画	<p>1回目 教育実習の意義と実習生としての自覚</p> <p>2回目 実習校の学校経営と学級経営の理解</p> <p>3回目 観察実習と参加実習による職務理解</p> <p>4回目 専門教科や他教科の示範授業観察</p> <p>5回目 授業実習と授業の振り返り（専門教科）</p> <p>6回目 授業実習と授業の振り返り（道徳科）</p> <p>7回目 特別活動（学校行事や学級活動）の指導</p> <p>8回目 日常の生活指導（給食指導や清掃指導、部活指導等）</p> <p>9回目 生徒理解と生徒指導</p> <p>10回目 発達障害の理解と個に応じた指導</p> <p>11回目 研究授業の教材研究</p> <p>12回目 研究授業</p> <p>13回目 研究授業の研究会（反省会）</p> <p>14回目 教育実習の記録のまとめ</p> <p>15回目 教育実習の振り返りと実習校への礼状</p>
到達目標	<p>教師としての職務に積極的に関わり、学校組織や校務分掌の意義・役割を理解することができる。教材研究、学習指導案、研究授業等を通して効果的な学習指導の知識と技能を身に付けることができる。児童生徒との交流や言葉かけを通して、児童生徒への理解を深めたり関わったりすることができる。実習日誌を整理し、教育実習のまとめをすることができる。</p>
授業時間外の学習	<p>学習指導や児童生徒指導等に関する書物を読んだり、教育に関するニュースや時事問題等への関心を高めたりして、教育実習の事前の準備を計画的かつきめ細かく行う。学習指導要領や教科書、指導書等を基に教材研究を行い、事前に予定される研究授業の指導案を作成しておく。事後には実習校に礼状を書く。</p>
評価方法	<p>研究授業の記録や授業観察記録、日誌等の実践記録や実習校での評価をもとに評価する。</p>
テキスト	<p>教科指導のための教科書、指導書、学習指導要領</p>
参考書	<p>教材研究に必要な図書</p>
備考	<p>健康管理に十分気を付けて教育実習に取り組む。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	教職必修
担当教員			
人見ケエ子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>介護についての学修や介護体験を通し共生社会の担い手として、相互の人格と個性を尊重しようとする態度や資質を高める。また、教職を目指す一人として、支援を必要とする児童生徒や介護を必要とする人々への具体的ななかかわり方を学ぶ。特別支援学校（2日間）および社会福祉施設（5日間）での体験を通じて実践力を高める。そして、障がい児・者ならびに高齢者とのなかわり合いから得られる体験を教育実践に生かしていきける意義のある「介護等体験」を目指し、学習成果指標B-②の専門職としての知識・技能や判断力、表現力、実践力等を身につける。</p> <p>本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、課題型学修（「Google Classroom」を利用）を行う。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション 介護等体験の意義と必要性</p> <p>2回目 いのちの尊さと人間の尊厳 介護・介助の意義</p> <p>3回目 障がいの理解</p> <p>4回目 自立生活の考え方・共生社会の理念</p> <p>5回目 特別支援学校の教育の特色 1 特別支援学校とは</p> <p>6回目 特別支援学校の教育の特色 2 幼・小・中・高等部における教育</p> <p>7回目 特別支援学校の教育の特色 3 介護体験等の実際</p> <p>8回目 特別支援教育</p> <p>9回目 高齢者にかかわる介護の制度及び施設</p> <p>10回目 児童福祉・障がい児にかかわる制度及び施設</p> <p>11回目 障がい者にかかわる制度及び施設</p> <p>12回目 生活保護にかかわる制度及び施設</p> <p>13回目 障がい当事者の思いと疑似体験（車いす体験）</p> <p>14回目 介護等体験での留意点と心構え</p> <p>15回目 介護体験等で学んだこと（事例から） 学修のまとめと振り返り</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護・介助の本質を理解し、介護等体験を通じて、共生社会の一人として必要な知識や態度や資質を高めることができる。 ・学修や疑似体験を通じて支援や介護を必要とする児童生徒や高齢者への具体的ななかかわり方の理解を深め、協働意識や参加意識を身につける。
授業時間外の学習	事前にテキストを精読し、不明な用語や語句は調べてノートにまとめておく。
評価方法	定期試験 70%（定期試験中止の場合 レポート、小テスト 70%）遠隔授業でも同じ授業への参加への意欲 30%
テキスト	『新・よくわかる社会福祉施設』 全国社会福祉協議会 『フィリア』 全国特別支援学校長会 全国特別支援教育推進連盟・ジアース教育新社
参考書	授業時に適宜紹介する
備考	諸般の事情により、授業計画を変更する場合があります

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	2単位	養護必修
担当教員			
村井佐代子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>学校保健は教育目標達成のための活動であり、そのためには健康課題解決に向けた学校保健活動を組織の中で、どのように進めるかを理解し、養護教諭としての役割についての理解を深める。</p> <p>また、チームとしての学校及びヘルスプロモーションの視点で取り組む学校保健を理解し、学校教育における保健教育、保健管理、保健組織活動についての具体的な内容、連携のあり方について理解と実践力を深める。</p> <p>なお、学習成果の指標はB-②である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション</p> <p>2回目 学校教育と学校保健</p> <p>3回目 人権と学校保健</p> <p>4回目 地域保健と学校保健</p> <p>5回目 チームとしての学校と学校保健</p> <p>6回目 学校保健経営</p> <p>7回目 ヘルスプロモーション 健康日本21(第二次) とチームとしての学校</p> <p>8回目 心身の発育発達</p> <p>9回目 健康教育</p> <p>10回目 健康観察 健康診断</p> <p>11回目 保健指導</p> <p>12回目 心身の健康・発達・行動上の課題を有する子どもへの支援</p> <p>13回目 感染予防</p> <p>14回目 学校安全と危機管理</p> <p>15回目 学校衛生管理 食育と学校給食</p>
到達目標	学校保健を取り巻く環境や社会状況の変化の中で、ヘルスプロモーションの概念のもと、チームとしての学校を理解し、学校教育の中で、多様な健康課題解決に向けた学校保健を推進する養護教諭として、組織的にどのように進めていくかを理解し実践に繋げることができる。
授業時間外の学習	テキストを熟読し、授業内容の復習をしっかりと行う。
評価方法	「平常点（小テスト等を含む）」(100%)で評価する。 遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。
テキスト	『学校保健』-チームとしての学校で取り組むヘルスプロモーション- 徳山美智子・竹鼻ゆかり他 編著・東山書房
参考書	『新訂版学校保健実務必携(第4次改訂版)』学校保健・安全研究会 編著 第一法規 『中学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』文部科学省 『中学校学習指導要領解説 保健体育編』文部科学省
備考	適時資料(データ)を配付する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1 年次	2 単位	養護必修
担当教員			
村井佐代子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>養護教諭は、学校看護婦から養護教諭へと時代背景が変化する中で職務内容も多岐にわたってきている。そのため、より専門性が求められてきていることを理解し、学校教育の中で養護教諭が果たす役割についての理解を深める。</p> <p>また、養護教諭制度の変遷から、健康教育の推進を担う教育職員としての役割について理解し、養護教諭の職務内容である、保健教育・保健管理についての活動内容を学ぶ。</p> <p>なお、学習成果の指標はB-②である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1 回目 オリエンテーション</p> <p>2 回目 養護教諭制度の変遷</p> <p>3 回目 法律における養護教諭</p> <p>4 回目 養護教諭の免許制度</p> <p>5 回目 教育行政と教育関係法令</p> <p>6 回目 教育課程と学習指導要領</p> <p>7 回目 子どもの健康課題とその対応</p> <p>8 回目 養護教諭の職務</p> <p>9 回目 学校における救急処置・学校保健関係職員の役割</p> <p>1 0 回目 健康診断（1）・法的位置づけ・実施と事後措置</p> <p>1 1 回目 健康診断（2）・健康診断票・職員健康診断</p> <p>1 2 回目 健康観察について</p> <p>1 3 回目 疾病管理（1）・感染症・慢性疾患</p> <p>1 4 回目 疾病管理（2）・アレルギー性疾患とその対応</p> <p>1 5 回目 学校環境衛生と養護教諭の役割</p>
到達目標	養護教諭の歴史的変遷を理解し、時代背景の変化から子供の健康課題と解決改善に向けて求められる養護教諭の役割や、教育専門職として養護教諭の職務内容とその役割について理解できる。
授業時間外の学習	養護教諭の職務内容等授業内容を十分把握し、テキストの要点を復習して、市内小・中学校参観等学外活動に生かすことができるようにする。
評価方法	「平常点（小テスト等を含む）」（100%）で評価する。 遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。
テキスト	『新養護概説』采女智津江・少年写真新聞社 『新訂版学校保健実務必携（第4次改訂版）』学校保健・安全実務研究会・第一法規
参考書	『中学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』文部科学省 『中学校学習指導要領解説 保健体育編』文部科学省
備考	適時資料（データ）を配付する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	養護必修
担当教員			
村井佐代子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>養護教諭が子どもの健康課題解決に向けて、学校の中で果たす役割や心の健康問題への支援のあり方など、求められる新たな役割についての理解を深める。これらの学びを通して、各自が描く養護教諭像に向けての意識を更に深め、養護教諭としての資質を高める。</p> <p>子どもの健康課題解決に向けた組織的活動について、養護教諭の役割や健康相談においての支援のあり方について理解し、さらに学校保健安全法を踏まえた保健教育活動について学ぶ。</p> <p>なお、学習成果の指標はB-②である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 保健教育の目ざすもの（オリエンテーション）</p> <p>2回目 保健教育について</p> <p>3回目 教科保健（保健学習）</p> <p>4回目 保健指導</p> <p>5回目 健康相談について</p> <p>6回目 健康相談の進め方</p> <p>7回目 学校における精神保健と養護教諭の役割</p> <p>8回目 子どもの発育発達・心のケア</p> <p>9回目 学校における教育相談と養護教諭の役割</p> <p>10回目 学校経営と保健室経営</p> <p>11回目 保健室経営計画作成・評価</p> <p>12回目 保健組織活動</p> <p>13回目 安全管理と危機管理</p> <p>14回目 調査・研究・プレゼンテーションの進め方</p> <p>15回目 現職研修と教員免許更新制</p>
到達目標	学校における子どもの健康課題に向けて、学校の中で果たす役割や支援のあり方を理解し、健康相談等養護教諭が果たす新たな役割についても理解できる。また、法を踏まえ保健教育活動が実施されていることを理解することができる。
授業時間外の学習	前期で学んだ内容を踏まえ、養護教諭の職務内容が理解できるよう復習や予習を十分行い、幼稚園や学童保育参観、小中学校参観等学外活動に生かすことができるようにする。
評価方法	「平常点（小テスト等を含む）」（100％）で評価する。 遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。
テキスト	『新養護概説』采女智津江・少年写真新聞社 『中学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』文部科学省 『中学校学習指導要領解説 保健体育編』文部科学省 『新訂版学校保健実務必携（第二次改訂版）』学校保健・安全実務研究会・第一法規
参考書	『学習指導要領小学校編』文部科学省 『学習指導要領小学校編』文部科学省

	養護教諭が行う健康相談 大谷尚子 鈴木美智子 森田光子 編著 東山書房
備考	適時資料(データ)を配付する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	養護必修
担当教員			
村井佐代子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>養護教諭の職務の特質と保健室の機能を活かした、健康相談の基礎・基本について学ぶ。また、子どもの心身の健康問題の早期発見や早期対応に課するための役割や、健康相談・保健指導・受診等の必要性の判断、関係機関等との連携等について学ぶ。</p> <p>なお、学習成果の指標はB-②である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせ実施します。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション・健康相談の基本的理解 健康相談の捉え方について学ぶ。</p> <p>2回目 健康相談の重要性と法的根拠 健康相談の重要性と法的位置付けについて理解する。</p> <p>3回目 学校における健康相談の基本的理解 健康相談の目的、対象者、プロセス等について学ぶ。</p> <p>4回目 学校における健康相談と保健指導の基本的理解 個別の心身の健康問題解決に向けた健康相談と保健指導の目的、対象者、プロセス等について学ぶ。</p> <p>5回目 発達段階の違いによる身体の問題の特徴の理解 学齢期、青年前期、青年後期の身体の問題の特徴について学ぶ。</p> <p>6回目 発達段階の違いによる心の問題の特徴の理解 学齢期、青年前期、青年後期の心の問題の特徴について学ぶ。</p> <p>7回目 健康相談の基本的なプロセスの理解 対象者、問題の背景を把握し、その支援方法等について学ぶ。</p> <p>8回目 健康相談における支援体制の理解 校内や地域の関係機関等との体制づくりについて学ぶ。</p> <p>9回目 健康相談における支援の進め方の理解 支援計画、支援検討会議等について学ぶ。</p> <p>10回目 健康相談における基本的な技術について 相談に当たっての基礎事項や留意事項を学ぶ。</p> <p>11回目 健康相談（不登校・保健室登校）の対応 保健室での健康相談について不登校等の事例で学ぶ。</p> <p>12回目 健康相談における個別の保健指導の進め方① 個別に行う健康相談の保健指導の進め方について学びます。</p> <p>13回目 健康相談における個別の保健指導の進め方② 個別に行う健康相談の保健指導の連携等について学ぶ。</p> <p>14回目 健康相談の実際① 健康相談の対象者の把握、支援方針等について事例を通して学び、理解を深める。</p> <p>15回目 健康相談の実際② 健康相談の保健指導の対象者の把握、指導方針等について事例を通して学び、理解を深める。</p>
到達目標	<p>健康相談の沿革や定義について説明できる。</p> <p>子どもの心身の健康問題の早期発見・早期対応のための養護教諭の役割について理解する。</p> <p>演習等で、養護教諭の職務の特質を活かした子どもへの支援を理解することができる。</p> <p>演習等で、保健室の機能を活かした子どもへの支援を理解することができる。</p> <p>支援のために連携する関係者・関係機関等について理解することができる。</p>
授業時間外の学習	新聞などメディア情報から、児童生徒を取り巻く社会的な問題を把握し、その対応についての知識を得る。
評価方法	「平常点（小テスト等含む）」100%で評価する。 遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。
テキスト	『養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実践』三木とみ子・徳山美智子 編集・株式会社ぎょうせい
参考書	『教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引』文部科学省・日本学校保健会
備考	適時資料(データ)を配付する。

講義科目名称： 免疫学

授業コード： 123015

英文科目名称： Immunology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	2単位	選択
担当教員			
小菅敏雄 講師			
添付ファイル			

授業の概要	免疫反応について理解し、免疫細胞が関与する疾患等について学ぶ。 生体防御反応である免疫反応について理解し免疫系が関与する疾患について理解する。 なお、学習成果の指標はB-②です。 本授業が遠隔授業になった場合には、同時・双方向型(Google Meet)で実施し、時間割通りの時間で行う。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 新型コロナについて、免疫とは</p> <p>2回目 免疫反応のしくみ</p> <p>3回目 免疫担当細胞の種類</p> <p>4回目 免疫担当細胞の役割</p> <p>5回目 体液性免疫</p> <p>6回目 細胞性免疫</p> <p>7回目 ワクチンと感染症 予防接種</p> <p>8回目 自己免疫疾患 AIDS等</p> <p>9回目 インフルエンザ</p> <p>10回目 結核とエイズ</p> <p>11回目 アレルギー疾患 アトピー性疾患</p> <p>12回目 がんの免疫 C型肝炎</p> <p>13回目 免疫グロブリン製剤とは</p> <p>14回目 免疫不全 免疫疾患の治療薬</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	免疫の基礎を学ぶことで、免疫が関係している様々な疾病についての理解を可能とすることができる。
授業時間外の学習	新聞・テレビ等のマスコミにて紹介される、免疫が関係しているさまざま疾病に対して興味を持つ様にする。 例えば、新型コロナ、予防接種、アトピー性皮膚炎、AIDS、がん など。
評価方法	平常点(まとめのテスト等)100%で評価する。遠隔授業になった場合には、レポート100%。
テキスト	矢田純一『免疫 からだを護る不思議なしくみ 第6版』 東京化学同人 2020年
参考書	講義の中で随時紹介する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	養護必修
担当教員			
永瀬由美子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>看護の基礎となる概念や理論、看護教諭にとっての学校看護の在り方等を学習する。養護教諭の専門性から鑑みて、「学校看護」は養護教諭の専門的機能としての土台を形成するものと考えられるので、臨床の場での看護をそのまま実践するのではなく、学校という教育の場の背景や校種、職員体制、地域性などの特徴を踏まえ、対象とする児童生徒の発達課題、健康課題を配慮し、必要な学校看護の基礎と看護実践についての内容について学ぶ</p> <p>なお、学習指標は指標はB-②である。</p> <p>本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「GoogleMeet」を利用）とを組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション・学校看護概説</p> <p>2回目 基礎看護論1（学校看護の機能と養護教諭）</p> <p>3回目 看護学総論2（疾病の経過・処置に伴う看護）</p> <p>4回目 看護学総論3（養護教諭の活動過程）</p> <p>5回目 保健室の環境調整</p> <p>6回目 子どもに良くみられる病気1（小児看護の基礎知識）</p> <p>7回目 子どもに良くみられる病気2（小児看護の健康障害1）</p> <p>8回目 子どもに良くみられる病気3（小児看護の健康障害2）</p> <p>9回目 心肺蘇生法・AED</p> <p>10回目 学童期の健康障害</p> <p>11回目 心の傷へのケア1(小児虐待)</p> <p>12回目 心の傷へのケア2(子供の心の問題)</p> <p>13回目 学校における救急看護</p> <p>14回目 養護実践のプロセス</p> <p>15回目 ヘルスアセスメント</p>
到達目標	<p>1 学校看護に関する基礎知識を習得し、看護の概念や心身の健康について理解することができる。</p> <p>2 看護をする者（養護教諭）として、看護の対象を理解し、課題への対応について理解することができる。</p>
授業時間外の学習	<p>科目「看護実習」の授業と関連させ、看護に関する基礎知識について、あわせて予習、復習をする。健康課題についての知識、理解を深めるため、新聞、雑誌、報道等にも関心を持ち、健康課題への質の向上を得ることに努める。</p>
評価方法	<p>「平常点（小テスト等を含む）」80%、および「レポート」の提出や「授業への参加意欲」を20%の評価基準とする。</p> <p>遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。</p>
テキスト	<p>『学校看護』岡田加奈子・東山書房</p> <p>『養護教諭のための看護学』藤井寿美子他・大修館書店</p>
参考書	<p>『フィジカルアセスメントがみえる』医療情報科学研究所・メディックメディア</p>
備考	<p>適時資料(データ)を配付する。</p>

講義科目名称： 看護学Ⅱ

授業コード： 221008

英文科目名称： Nursing Studies 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	養護必修
担当教員			
永瀬由美子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>救急処置概論・救急処置のすすめ方等について理解し、看護する対象者への救急看護の方法を考えていく。養護教諭として必要な基礎看護として、学校救急処置概論や救急処置のすすめ方、基礎看護技術等について学ぶ。</p> <p>児童・生徒に多い急性期症状や慢性疾患、感染症等に対する支援、援助活動についても理解を深める。</p> <p>なお、学習成果の指標はB-②である。</p> <p>本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学修（「GoogleClassRoom」を利用）と②同時・双方向型（「GoogleMeet」を利用）とを組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 学校安全と危機管理</p> <p>2回目 養護教諭が行う処置の法的責任</p> <p>3回目 学校救急処置概論</p> <p>4回目 災害時における学校看護(学校版トリアージ)</p> <p>5回目 看護技術1(子どもに多い急性期症状 頭痛等の理解と支援)</p> <p>6回目 看護技術2(子どもに多い腹痛、嘔気、嘔吐、下痢等症状の理解と支援)</p> <p>7回目 看護技術3(子どもに多い発熱、ショック、意識障害、失神等症状の理解と支援)</p> <p>8回目 看護技術4(子どもに多い熱中症、発疹等症状の理解と支援)</p> <p>9回目 看護技術5(慢性期疾患・気管支ぜんそく、アレルギー性皮膚炎の理解と支援)</p> <p>10回目 看護技術6(慢性期疾患・心臓、腎臓、糖尿病の理解と支援)</p> <p>11回目 学校における感染症予防の基礎理解</p> <p>12回目 特別な支援を要する児童生徒の理解</p> <p>13回目 発達に課題を持つ児童生徒の理解と支援</p> <p>14回目 セクシュアリティに課題を持つ児童生徒の理解と支援</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	<p>1 看護に関する基礎知識を習得し、看護の概念や学校救急処置概論、救急処置技術等について理解することができる。</p> <p>2 看護の対象として、児童・生徒の発達課題や健康課題、部位別の多様な症状と疾患についての支援、援助について理解することができる。</p>
授業時間外の学習	<p>科目「看護実習」の授業と関連させ、看護の概念や健康の概念、看護の対象等について、あわせて予習、復習をする。</p> <p>新聞、報道等についても関心を持ち、健康課題への向上に努める。</p> <p>健康課題や疾病の支援についての知識、理解については、ノートにまとめ理解を深める。</p>
評価方法	<p>「平常点(小テスト等を含む)」80%、および「レポート」の提出や「授業への参加意欲」を20%の評価基準とする。</p> <p>遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。</p>
テキスト	<p>『学校看護』岡田加奈子・東山書房</p> <p>『養護教諭のための看護学』藤井寿美子・大修館書店</p>
参考書	<p>『これからの看護学概論』橋本和子・ふくろう出版</p>

備考	適時資料（データ）を配付する。
----	-----------------

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	2単位	養護必修
担当教員			
永瀬由美子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>看護の対象は、病人ばかりでなく、回復期の人にも、また健康な人がより健康を保持・増進するための援助活動も看護の領域である。学校現場では、健康な子どもばかりでなく心身の不調傾向の子どもも在籍している。養護教諭の学校看護は、いかにあるべきかを理解し、児童生徒に対するより良い看護のあり方を考えていく。看護学Ⅰ・Ⅱで学んだ基礎的看護の知識をさらに深め、学校現場における養護教諭として必要な看護学の理解を深める。</p> <p>なお、学習成果の指標はB-②である。</p> <p>本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション</p> <p>2回目 学校における救急処置とヘルスアセスメント</p> <p>3回目 症状別救急処置1(内科)</p> <p>4回目 症状別救急処置2(外科)</p> <p>5回目 学校における感染予防・対策</p> <p>6回目 アレルギー疾患への対応</p> <p>7回目 歯科疾患と保健活動の実際</p> <p>8回目 耳鼻咽喉科疾患への対応</p> <p>9回目 心肺蘇生法・AED</p> <p>10回目 皮膚科疾患への対応</p> <p>11回目 眼科疾患への対応</p> <p>12回目 生活習慣病とメタボリックシンドローム</p> <p>13回目 身体上に課題のある子供への特別な支援と家族への理解・援助(医療的ケア)</p> <p>14回目 思春期における性教育</p> <p>15回目 ヘルスプロモーション</p>
到達目標	<p>1 看護に関する基礎知識を習得し、看護の概念や心身の健康について理解することができる。</p> <p>2 健康に関する基礎知識を習得し、心身の健康について自覚的認識を深める。</p> <p>3 看護の対象を理解し、健康を維持・増進させるためのより良い看護について理解することができる。</p>
授業時間外の学習	科目「看護実習」の授業と関連しているので、看護の基礎知識について予習や復習をする。看護の概念や健康の概念、健康課題については、知識、理解を深めるためには、ノートにまとめておく。
評価方法	<p>「平常点（小テスト等を含む）」80%、および「レポート」の提出や「授業への参加意欲」を20%の評価基準とする。</p> <p>遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。</p>
テキスト	<p>『養護教諭のための看護学』藤井寿美子編著・大修館書店</p> <p>『学校看護』岡田加奈子編著・東山書房</p>
参考書	『「新しい学校生活」のための感染症対策ハンドブック』鎌塚優子・大沼久美子/学事出版
備考	適時資料(データ)を配付する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	養護必修
担当教員			
永瀬由美子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>学校現場では、健康課題の多様化の解決に向けて、養護教諭の専門的な役割が期待されている。特に、感染症や急性期および慢性期の症状やけが等に対する救急処置活動は重要な責務を担っている。そこで、養護教諭の看護能力は、いかにあるべきか、また、より良い看護の在り方を追求する。学校現場における養護教諭として、児童生徒の健康課題や発達課題についても理解を深める。また、生涯にわたっての健康保持増進、疾病の予防・健康の回復等についても理解を深め、より良い看護の在り方を追求をする。</p> <p>なお、学習成果の指標はB-②である。</p> <p>本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション・身体の清潔</p> <p>2回目 排泄の理解と援助</p> <p>3回目 食生活の援助</p> <p>4回目 睡眠の理解と援助</p> <p>5回目 日常生活における援助（生活習慣・遊び・学習）</p> <p>6回目 急性期症状の処置</p> <p>7回目 慢性期症状の処置</p> <p>8回目 外傷性疾患の処置</p> <p>9回目 緊急全身症状の処置</p> <p>10回目 思春期看護1（思春期の健康にかかわる問題）</p> <p>11回目 思春期看護2（薬物依存）</p> <p>12回目 思春期看護3（健康障害）</p> <p>13回目 母性看護（妊娠、出産、人工妊娠中絶）</p> <p>14回目 成人・老人看護</p> <p>15回目 公衆衛生看護</p>
到達目標	<p>1 健康に関する基礎知識を習得し、看護の概念や心身の健康について理解することができる。</p> <p>2 看護の対象を理解し、健康を維持増進させるためのより良い看護について自覚的認識を深める。</p> <p>3 生涯にわたる健康を指向し、そのために健康を保持増進する看護について理解することができる。</p>
授業時間外の学習	<p>科目「看護実習」の授業と関連しているので、看護に関する基礎知識や発達課題、健康課題、救急処置活動等についてあわせて予習、復習をする。健康を維持増進させ、生涯にわたる健康問題については、自己概念を高め、健康課題についてノートにまとめておく。</p>
評価方法	<p>「平常点（小テスト等を含む）」80%、および「レポート」の提出や「授業への参加意欲」を20%の評価基準とする。</p> <p>遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。</p>
テキスト	<p>『学校看護』岡田加奈子・東山書房</p> <p>『養護教諭のための看護学』藤井寿美子・大修館書店</p>
参考書	<p>『「新しい学校生活」のための感染症対策ハンドブック』鎌塚優子・大沼久美子/学事出版</p>

備考	適時資料(データ)を配付する。
----	-----------------

講義科目名称： 看護実習 I

授業コード： 143014

英文科目名称： Practice in Nursing Studies 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	1単位	養護必修
担当教員			
永瀬由美子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	看護学で学んだ理論を実習に移していく中で、将来、養護教諭として学校管理下で求められる看護や救急処置に関する技術を身につける。そのため、授業者の解説や看護技術を確認後、看護の基礎であるバイタルサイン（体温、血圧、呼吸、脈拍測定）や包帯の巻き方（巻軸帯、三角巾、ネット包帯等）の演習を通し、児童生徒の心と体をケアし安全かつ的確な処置を習得する授業内容とする。 なお、学習成果の指標はB-②である。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学修（「GoogleClassRoom」を利用）と②同時・双方向型学修（「GoogleMeet」を利用）とを組み合わせる。
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション</p> <p>2回目 フィジカルアセスメントの技術1（バイタルサイン・意識障害・体温・脈拍）</p> <p>3回目 フィジカルアセスメントの技術2（バイタルサイン・呼吸・血圧）</p> <p>4回目 フィジカルアセスメントの実際（バイタルサイン総合）</p> <p>5回目 保健室に必要な医療器具・備品</p> <p>6回目 包帯とその使用法1巻軸帯（環行帯・螺旋帯・蛇行帯・接転帯）</p> <p>7回目 包帯とその使用法2巻軸帯（亀甲帯・麦穂帯・反復帯）</p> <p>8回目 包帯とその使用法3巻軸帯（まとめ）</p> <p>9回目 心肺蘇生法・AED</p> <p>10回目 包帯とその使用法4三角巾（たたみ三角巾の作り方・結び方・ほどこき方・たたみ方）</p> <p>11回目 包帯とその使用法5三角巾（頭・額、耳、目）</p> <p>12回目 包帯とその使用法6三角巾（鎖骨・前腕・腕のつり方）</p> <p>13回目 包帯とその使用法7三角巾（膝・下肢・足首）</p> <p>14回目 ネット包帯</p> <p>15回目 模擬救護(外科的)</p>
到達目標	<p>1 看護学に関する基礎知識を理解し、実習で技術の習得ができる。</p> <p>2 看護の基礎の看護技術を実習を通して習得することができる。</p>
授業時間外の学習	『看護実習』の授業では、実習内容について、教科書や参考書、資料等から授業内容をまとめ、毎回、実習報告書を作成して提出をする。
評価方法	「平常点（小テスト等を含む）」および、「授業への参加意欲」、「実習報告書」を70%とし、また、実技試験30%を評価基準とする。 遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。
テキスト	『学校看護』岡田加奈子・東山書房 『養護教諭のための看護学』藤井寿美子・大修館書店
参考書	『救急法講習』日本赤十字社 『フィジカルアセスメントがみえる』医療情報科学研究所・メディックメディア
備考	適時資料(データ)を配付する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1年次	1単位	養護必修
担当教員			
永瀬由美子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>看護学で学んだ理論を実習に移していく中で、将来、養護教諭として学校管理下で求められる看護や救急処置に関する技術を身につける。そのため、授業者の解説や看護技術を確認後、看護の基礎であるバイタルサイン（体温、血圧、呼吸、脈拍測定）や包帯の巻き方（巻軸帯、三角巾、ネット包帯等）の演習を通し、児童生徒の心と体をケアし安全かつ的確な処置を習得する授業内容とする。</p> <p>なお、学習成果の指標はB-②である。</p> <p>本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学修（「GoogleClassRoom」を利用）と②同時・双方向型学修（「GoogleMeet」を利用）とを組み合わせ実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション(包帯・三角巾復習)</p> <p>2回目 副子とその使用法1（指・前腕・肘）</p> <p>3回目 副子とその使用法2（上腕・鎖骨）</p> <p>4回目 副子とその使用法3（大腿骨・下腿・足首）</p> <p>5回目 止血法</p> <p>6回目 体位保持法1（安楽な体位の保持）</p> <p>7回目 体位保持法2（体位変換・タッチング）</p> <p>8回目 病床の作り方</p> <p>9回目 クローズドベッドの作り方</p> <p>10回目 感染症対策(嘔吐物処理)</p> <p>11回目 救急救命法1（問診・バイタルサイン）</p> <p>12回目 救急救命法2（内科的）</p> <p>13回目 救急救命法3（外科的）</p> <p>14回目 模擬救護(総合)</p> <p>15回目 健康診断検査器具の扱い方</p>
到達目標	<p>1 看護学で学んだ基礎知識を理解し、実習で、基礎看護技術が習得できる。</p> <p>2 看護の基礎の看護技術を習得し、対応できる実践力を身につけることができる。</p>
授業時間外の学習	『看護実習』の授業内容をまとめ、実習報告書を毎回、作成して提出をする。
評価方法	<p>「平常点（小テスト等を含む）」70%、「授業への参加意欲」や「実習報告書」また「実技試験」を30%とする。</p> <p>遠隔授業を実施した場合も評価方法に変更はない。</p>
テキスト	<p>『学校看護』岡田加奈子・東山書房</p> <p>『養護教諭のための看護学』藤井寿美子・大修館書店</p>
参考書	『救急法基礎講習』日本赤十字社
備考	適時資料(データ)を配付する。

講義科目名称： 看護実習Ⅲ

授業コード： 153007

英文科目名称： Practice in Nursing Studies 3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	1単位	養護必修
担当教員			
永瀬由美子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>養護教諭に必要な学校における児童生徒の救急処置および基礎看護技術について実習する。実習においては、すべて養護教諭役・傷病者役になり、看護を受ける・看護をする等それぞれの立場からの体験を行い、看護の在り方を考えながら看護技術を習得する。また、養護教諭として必要な看護の知識を身につけ、運搬、電法、感染予防、援助技術、傷病者の対応等を中心に、その目的・方法について説明でき、安全かつ的確な処置ができることを目的とする。</p> <p>なお、学習成果の指標はB-②である。</p> <p>本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせ実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション・保健室の環境整備・薬品の扱い方</p> <p>2回目 疾病別処置・看護法1(頭痛・腹痛・気分不快等)</p> <p>3回目 外傷性疾病別処置・看護法1(創傷・切傷・熱傷・眼の異物等)</p> <p>4回目 外傷性疾病別処置・看護法2(骨折・捻挫)</p> <p>5回目 感染予防対策(嘔吐物処理)</p> <p>6回目 感染予防対策(手の洗い方)</p> <p>7回目 運搬・移動の援助技術1(毛布・担架)</p> <p>8回目 運搬・移動の援助技術2(1人・2人で運ぶ)</p> <p>9回目 心肺蘇生法・AED</p> <p>10回目 電法の実際(冷電法・温電法)</p> <p>11回目 安楽の援助</p> <p>12回目 模擬救護1(学校における内科的処置)</p> <p>13回目 模擬救護2(学校における外科的処置)</p> <p>14回目 模擬救護3(学校における処置総合)</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	<p>1 基礎看護学(1年次)に関する基礎知識をより理解し、実習で、看護技術の習得をする。</p> <p>2 看護の基礎である救急処置について処置の方法を身につけることができる。</p> <p>3 養護教諭として必要な運搬、電法、感染予防、援助技術、傷病者の対応等について看護技術を習得する。</p>
授業時間外の学習	『看護実習』の授業内容をまとめ、実習報告書を作成し提出をする。
評価方法	「平常点(小テスト等を含む)」を70%、「授業への参加意欲」や「実習報告書」を30%とする。 遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。
テキスト	『学校看護』岡田加奈子・東山書房 『養護教諭のための看護学』藤井寿美子・大修館書店
参考書	『看護技術がみえる2』医療情報科学研究所・メディックメディア 『救急法講習』日本赤十字社
備考	適時資料(データ)を配付する。

講義科目名称： 看護実習Ⅳ（救急処置）

授業コード： 253011

英文科目名称： Practice in Nursing Studies 4

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	1単位	養護必修
担当教員			
永瀬由美子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>養護教諭に必要な学校における児童生徒の救急処置および基礎看護技術について実習する。実習においては、すべて養護教諭役・傷病者役になり、看護を受ける・看護をする等それぞれの立場からの体験を行い、看護の在り方を考えながら看護技術を習得する。また、養護教諭として必要な看護の知識を身につけ、清潔に関する援助や学校における救急処置等を中心に、その目的・方法について説明でき、安全かつ的確な処置ができることを目的とする。</p> <p>なお、学習成果の指標はB-②である。</p> <p>本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション(包帯・三角巾復習)</p> <p>2回目 清潔に関する援助1（口腔の清潔の援助）</p> <p>3回目 清潔に関する援助2（洗髪・足浴・手浴法）</p> <p>4回目 衣生活の援助技術（病衣交換法）・排泄の援助技術</p> <p>5回目 疾病別処置・看護法1（発作）</p> <p>6回目 疾病別処置・看護法2（気分不快・嘔吐）</p> <p>7回目 疾病別処置・看護法3（頭痛、腹痛）</p> <p>8回目 疾病別処置・看護法4（眼疾患・耳鼻疾患）</p> <p>9回目 外傷性疾患別処置・看護法1（創傷、切傷、熱傷、眼の異物等）</p> <p>10回目 外傷性疾患別処置・看護法2（上肢の包帯・三角巾・副子固定）</p> <p>11回目 外傷性疾患別処置・看護法3（下肢の包帯・三角巾・副子固定）</p> <p>12回目 総合実技（まとめ）</p> <p>13回目 模擬救護1(学校管理下の傷病)</p> <p>14回目 模擬救護2(災害)</p> <p>15回目 模擬救護3(総合)</p>
到達目標	<p>1 看護に関する基礎知識を習得し、看護の概念や看護の対象をより理解し、心身の健康について自覚的認識を深めより良い看護技術を習得することができる。</p> <p>2 養護教諭として学校における救急処置の技術を理解することができる。</p> <p>3 養護教諭として学校における救急処置活動や看護技術等の実践能力を身につけることができる。</p>
授業時間外の学習	『看護実習』の授業では、実習内容について、教科書や参考書、資料等から授業内容をまとめ実習報告書をまとめ提出する
評価方法	「平常点（小テスト等を含む）」70%、および「授業への参加意欲」や「実習報告書」を30%とする。遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。
テキスト	『養護教諭のための看護学』藤井寿美子・大修館書店 『学校看護』岡田加奈子他・東山書房
参考書	『看護技術がみえる1』医療情報科学研究所・メディックメディア 『救急法講習』日本赤十字社
備考	適時資料(データ)を配付する。

講義科目名称： 病院実習

授業コード： 700007

英文科目名称： Clinical Training

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	2単位	養護必修
担当教員			
永瀬由美子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>養護教諭の職務のなかでも、傷病者への対応は、その専門性を生かす重要な分野である。病院実習は、今までに学習した医学・看護学等の知識及び技術を病院実習により直接観察または、体験することによって養護教諭の専門性の向上を図ることである。傷病者の心身の状態を理解し、保健医療チームを構成する各職種の機能を理解することにより、看護の果たす役割についての認識を深め、養護教諭としての力量を養い児童生徒の保健管理や健康教育に活用できる意義深い実習である。病院では、外来・病棟その他の施設における観察・参加・実習等を行う。また、地域の医院・その他の施設においては、外来を受診する患者、病棟における入院患者に対しての医師の診療の観察や看護を観察、一部実習を行う。また、家族を含めた看護についても学ぶ。</p>
授業計画	<p>1回目 診療準備の観察及び介助</p> <p>2回目 医師の患者に対する問診及び診断及び実習</p> <p>3回目 診察時の看護師による介助の観察及び実習</p> <p>4回目 外来各科の特色と役割、患者の症状及びその治療法の観察</p> <p>5回目 病棟での看護活動の理解と患者の症状及びその治療法の観察</p> <p>6回目 諸検査の種類とその方法の見学及び介助</p> <p>7回目 患者・家族とのコミュニケーションの持ち方の観察及び実習</p> <p>8回目 患者や家族のニーズ把握法の観察及び実習</p> <p>9回目 患者や家族への保健指導法の観察及び実習</p> <p>10回目 基礎看護技術（バイタルサイン）の観察及び実習</p> <p>11回目 基礎看護技術（環境整備の方法・ベッドメイキング）の観察および実習</p> <p>12回目 調理室の見学</p> <p>13回目 中央衛生材料室・手術室の見学</p> <p>14回目 薬剤室・臨床検査室・放射線科・物理療法室の見学</p> <p>15回目 分娩室の見学</p>
到達目標	<p>1 実習により、養護教諭の専門性を生かし病院（医院）の機構運営、各職種の機能を理解することができる。</p> <p>2 看護の果たす役割について認識を深めることができる。</p> <p>3 少しでも多くの傷病者およびその家族に接して、その傷病者の気持ちを知る。医師・看護師がどのように接しているのかを知る。</p> <p>4 病院実習は、実地の学習の場である。患者の生命に結びついていることを認識し、規律を守り実習生としてふさわしい言動、会釈、言葉遣い、態度等を取り感謝の心を持つことができる。</p> <p>なお、学習成果の指標はB-②である。</p>
授業時間外の学習	<p>実習後に、実習日誌に記録をする。（考察、および反省・感想等を記入する。）指導者に毎回、実習日誌を提出する際には、感謝の心で日誌を提出する。</p>
評価方法	<p>「実習病院・医院における実習への参加意欲等の評価」（60%）、「実習日誌記録」（40%）</p>
テキスト	<p>『養護教諭のための看護学』藤井寿美子他・大修館書店</p>
参考書	<p>『フィジカルアセスメントがみえる』医療情報科学研究所・メディックメディア</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	養護必修
担当教員			
村井佐代子教授 仲田郁子教授			
添付ファイル			

授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭として教職に関する科目、養護に関する科目の基礎的・基本的知識、技能の習得をする。 ・教育現場における諸課題を認識し、課題解決のための実践方法・内容等について理解を深める。 ・自己の不足している知識・技能に気づき、自ら課題解決のための学びを深める。 ・教員としての使命感・責任感・社会性・指導力・リーダーシップ能力と教育現場における実践力について確認を行い、不足している知識・技能等を補う。 ・教職に関する科目と養護に関する科目の実践演習を実施する。実践に当たっては既得の学びが教育現場における諸問題とどのように関わり、課題解決に向けてどのように活用できるか、その方法・過程はどうあるべきか養護実習の振り返りも含め実施する。また、グループ討議、ロールプレイング、事例研究、模擬授業等、現地実習、一般教科担当教諭をまじえた授業を行う。 <p>なお、学習成果の指標はB-②と③である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス・履修カルテについて</p> <p>2回目 学校組織と教師の役割（グループ討論）</p> <p>3回目 学校教育におけるITC活用とメディアリテラシー（事例研究）</p> <p>4回目 保健指導（グループ討論）</p> <p>5回目 学習指導（教科保健計画・作成）</p> <p>6回目 特別活動（保健指導計画・作成）</p> <p>7回目 模擬授業</p> <p>8回目 模擬授業（評価・討論）</p> <p>9回目 学校保健安全計画と養護教諭の職務（討論）</p> <p>10回目 保健室経営案（作成・討論）</p> <p>11回目 現代の健康課題と養護教諭の職務（討論・ロールプレイング）</p> <p>12回目 保健・安全指導、食の指導（討論）</p> <p>13回目 実習校における学校教育目標、保健室経営の目標（討論）</p> <p>14回目 保護者、地域との連携（事例研究、ロールプレイング）</p> <p>15回目 自己評価・発表</p>
到達目標	教職に関する科目と養護に関する科目の基礎的・基本的知識や技能の習得内容を理解し、様々な実践演習を実施することにより、教育現場における諸問題への関わり方を身につけることができる。
授業時間外の学習	演習・討論の中で求められた課題内容についてまとめ提出する。
評価方法	「平常点(小テスト等含む)」(100%)で評価する。 遠隔授業を実施する場合も、評価方法に変更はない。
テキスト	『新養護概説』（1年次に使用したテキスト） 『学校保健』（2年次春semesterで使用したテキスト）
参考書	『いま、子ども社会に何が起きているか』日本社会学会編・北大路書房

備考	適時資料(データ)を配付する。
----	-----------------

講義科目名称： 養護実習 I（事前事後指導 1 単位を含む）

授業コード： 224010

英文科目名称： Practice in School Nursing 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1 年次	2 単位	養護必修
担当教員			
村井佐代子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>養護実習の意義や目的、内容についての理解と具体的な演習を通し、養護実習が円滑に効果的に行えるようにする。また、養護実習に臨む態度や心構えについても良く理解し、養護実習に備える。</p> <p>養護実習に向けて、実習の目的や養護教諭の職務について理解を深めます。また、養護実習中における実習内容について想定させるため、実習内容について具体的な演習を取り入れながら学ぶ。</p> <p>なお、学習成果の指標はB-②である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1 回目 オリエンテーション</p> <p>2 回目 教育実習の意義と目標</p> <p>3 回目 教育実習の内容</p> <p>4 回目 教育職員としての心構え</p> <p>5 回目 養護実習生としての心構え</p> <p>6 回目 保健便りの作成（毎月提出）</p> <p>7 回目 教育実習における観察、参加について</p> <p>8 回目 環境衛生活動演習（温度・湿度・水質）</p> <p>9 回目 環境衛生活動演習（照度・騒音）</p> <p>1 0 回目 健康診断演習（計測・視力・聴力）</p> <p>1 1 回目 健康診断実習（健康診断結果処理）</p> <p>1 2 回目 保健室経営の目標と計画</p> <p>1 3 回目 保健室における日常活動（健康相談・保健指導）</p> <p>1 4 回目 保健室における日常活動（環境衛生活動）</p> <p>1 5 回目 教育実習の記録</p>
到達目標	<p>養護実習の意義や目的、実習に臨む態度や心構えを理解し、演習することでより深まり、円滑かつ有意義な養護実習に備えることができる。</p>
授業時間外の学習	<p>養護実習に備え、目的や内容等総括的に理解を深めて、確認の意味からも復習予習を十分に行う。</p>
評価方法	<p>「平常点（小テスト等を含む）」(100%)で評価する。</p> <p>遠隔授業を実施する場合も、評価方法に変更はない。</p>
テキスト	<p>『養護実習ハンドブック』大谷尚子・中桐佐智子編著・東山書房</p> <p>養護教諭のための教育実習マニュアル 尾花恵美子 栗田舞美 西川路由紀子 共著</p>
参考書	<p>『学校保健安全法令必携（第6次改訂）』学校健康教育法令研究会監修・ぎょうせい</p>
備考	<p>適時資料(データ)を配付する。</p>

講義科目名称： 養護実習Ⅱ(現場実習)

授業コード： 700008

英文科目名称： Practice in School Nursing 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	3単位	教職必修
担当教員			
村井佐代子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	これまで学んできた専門的な知識や技能、教職に関する理論や技術を実習校で体験的・総合的に検証することで、教員になるための必要な心構えをつくり、養護教諭として必要な実践的指導力を養うことを目的とする。この実習は教育課程の総仕上げとして位置づけられるので、実習校の教員と本学の教員と連携しながら指導を行う。
授業計画	<p>事前指導（実習の心得・注意等）</p> <p>教育実習校での事前指導</p> <p>教育実習 指導講話・授業観察・授業実習・研究授業等</p> <p>（実習校への本学教員の訪問）</p> <p>事後指導</p>
到達目標	養護教諭として勤務するための資質と能力を獲得する。
授業時間外の学習	
評価方法	勤務状況・教育実習記録・実習校での教育実習評価を総合して評価する。
テキスト	
参考書	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	教職必修
担当教員			
人見ケエ子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>介護についての学修や疑似体験を通し共生社会の担い手として、相互の人格と個性を尊重しようとする態度や資質を高める。また、教職を目指す一人として、支援を必要とする幼児児童生徒や介護を必要とする人々への具体的ななかかわり方を理解し実践力を高め、学習成果指標B-②の専門職としての知識・技能や判断力、表現力、実戦力等を身につける。</p> <p>本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、課題学修（「Google Classroom」を利用）を行う。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション 介護等体験の意義と必要性</p> <p>2回目 いのちの尊さと人間の尊厳 介護・介助の意義</p> <p>3回目 障がいの理解</p> <p>4回目 自立生活の考え方 共生社会の理念</p> <p>5回目 特別支援学校の教育の特色 1 特別支援学校とは</p> <p>6回目 特別支援学校の教育の特色 2 幼・小・中・高等部における教育</p> <p>7回目 特別支援学校の教育の特色 3 介護体験等の実際</p> <p>8回目 特別支援教育</p> <p>9回目 高齢者にかかわる介護の制度及び施設</p> <p>10回目 児童福祉・障がい児にかかわる制度及び施設</p> <p>11回目 障がい者にかかわる制度及び施設</p> <p>12回目 生活保護にかかわる制度及び施設</p> <p>13回目 障がい当事者の思いと疑似体験（車いす乗車体験、及び車いす介護体験）</p> <p>14回目 障がい当事者の思いと疑似体験（ブラインドウォーク当事者体験、及び介助体験）</p> <p>15回目 疑似体験で学んだこと 学修のまとめと振り返り</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護・介助の本質を理解し、疑似体験等を通して、共生社会の一人として必要な態度や資質を高める。 ・学修や疑似体験を通じて、支援や介護を必要とする幼児児童生徒や高齢者への具体的ななかかわり方の理解を深め、協働意識や参加意識を身につける。
授業時間外の学習	事前にテキストを精読し、不明な用語や語句は調べてノートにまとめておく。
評価方法	定期試験 70%（定期定期中止の場合レポート・小テスト 70%、） 遠隔授業でも同じ授業への参加意欲 30%
テキスト	『新・よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会 『フィリア』全国特別支援学校長会 全国特別支援教育推進連盟編・ジアース教育新社
参考書	授業時に適宜紹介する
備考	諸般の事情により、授業計画を変更する場合があります

講義科目名称： カウンセリング演習

授業コード： 212009

英文科目名称： Counseling Exercises

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	養護必修
担当教員			
熊倉志乃 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>子どもの持つ悩みや問題解決に向けた援助を行うためには、カウンセリングの基礎を理解し、それに基づく具体的な援助について学ぶことが必要である。</p> <p>養護教諭の行う健康相談は、学校カウンセリングの領域の中で主に適応相談の領域が中心となっている。そこで、学校カウンセリングについての理解を深め、子どもが学校生活に適応し、自立に向けた人格の成長が図れるよう養護教諭としての援助の在り方について、講義、演習を通して学ぶ。</p> <p>なお、学習成果の指標はB-②である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は、②同時・双方向型学修（「GoogleMeet」を利用）と③オンデマンド型学修を組み合わせ実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 カウンセリングとは</p> <p>2回目 傾聴と共感的理解</p> <p>3回目 カウンセリングの技法①</p> <p>4回目 カウンセリングの技法②</p> <p>5回目 交流分析 演習1 相補交流と交差交流</p> <p>6回目 交流分析 演習2 対話分析</p> <p>7回目 ロールプレイング演習①</p> <p>8回目 ロールプレイング演習②</p> <p>9回目 短期療法 理論と実際</p> <p>10回目 短期療法 事例の見立てと介入</p> <p>11回目 ロールプレイング演習③</p> <p>12回目 認知行動療法</p> <p>13回目 心理検査から分かること</p> <p>14回目 ロールプレイング演習④</p> <p>15回目 ストレスのメカニズム・リラクゼーションの方法</p>
到達目標	<p>児童生徒の発達段階における心理面を理解しカウンセリングに活用できる。</p> <p>心理検査の演習を通して、教育現場で活用される主な心理検査について理解することができる。</p> <p>保健室来室場面等のロールプレイなどを行い、児童生徒をより深く理解することができる。</p>
授業時間外の学習	<p>授業で使用する資料は事前に配布するので、内容をよく読み、演習のポイントを各自理解してから授業に臨む。</p> <p>教師が行うカウンセリングを通して現在の学校教育の課題について学び、自分なりの意見が述べられるようにする。</p>
評価方法	<p>課題提出（60%）、授業への参加意欲・態度（20%）、演習試験（20%）等総合的に評価する。</p> <p>遠隔授業に変更した場合も「GoogleMeet」にて演習を行うので、評価方法に変更はない。</p>
テキスト	<p>教科書は使用せず。適宜資料を配付する。</p>
参考書	
備考	<p>実務教員：初等教育学校教諭として30年間勤務、教科指導・教育相談を務める。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1 年次	1 単位	養護選択
担当教員			
村井佐代子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>養護教諭は、学校看護婦から養護教諭へと時代の求めにより職務内容も多岐にわたってきている。そのため、より専門性が求められてきていることを理解し、学校教育の中で養護教諭が果たす役割についての理解を深める。</p> <p>また、養護教諭制度の変遷から、健康教育の推進を担う教育職員としての役割について理解し、養護教諭の職務内容である、保健教育・保健管理についての活動内容を学ぶ。</p> <p>なお、学習成果の指標はB-②である。</p> <p>本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせ実施します。</p>
授業計画	<p>1 回目 オリエンテーション</p> <p>2 回目 養護教諭制度の変遷</p> <p>3 回目 法律における養護教諭</p> <p>4 回目 養護教諭の免許制度</p> <p>5 回目 教育行政と教育関係法令</p> <p>6 回目 教育課程と学習指導要領</p> <p>7 回目 子どもの健康課題とその対応</p> <p>8 回目 養護教諭の職務</p> <p>9 回目 学校における救急処置・学校保健関係職員の役割</p> <p>1 0 回目 健康診断（1）・法的位置づけ・実施と事後措置</p> <p>1 1 回目 健康診断（2）・健康診断票・職員健康診断</p> <p>1 2 回目 健康観察について</p> <p>1 3 回目 疾病管理（1）・感染症・慢性疾患</p> <p>1 4 回目 疾病管理（2）・アレルギー性疾患とその対応</p> <p>1 5 回目 学校環境衛生と養護教諭の役割</p>
到達目標	養護教諭の歴史的変遷を理解し求められる養護教諭の役割と、教育専門職として養護教諭の職務内容とその役割について理解できる。
授業時間外の学習	養護教諭の職務内容等授業内容を十分把握し、テキストの要点を復習して、市内小・中学校参観時に生かすことができるようにする。
評価方法	「平常点(小テスト等も含む)」(100%)で評価する。 遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。
テキスト	『新養護概説』采女智津江・少年写真新聞社 『新訂版学校保健実務必携（第二次改訂版）』学校保健・安全実務研究会・第一法規
参考書	『中学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』文部科学省 『中学校学習指導要領解説 保健体育編』文部科学省 『新訂版学校保健実務必携（第二次改訂版）』学校保健・安全実務研究会・第一法規
備考	適時資料（データ）を配付する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	1単位	養護選択
担当教員			
村井佐代子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>養護教諭が子どもの健康課題解決に向けて、学校の中で果たす役割や心の健康問題への支援のあり方など、求められる新たな役割についての理解を深める。これらの学びを通して、各自が描く養護教諭像に向けての意識を更に深め、養護教諭としての資質を高める。</p> <p>子どもの健康課題解決に向けた組織的活動について、養護教諭の役割や健康相談においての支援のあり方について理解し、さらに学校保健安全法を踏まえた保健教育活動について学ぶ。</p> <p>なお、学習成果の指標はB-②である。</p> <p>本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせ実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 保健教育の目ざすもの（オリエンテーション）</p> <p>2回目 保健教育について</p> <p>3回目 教科保健（保健学習）</p> <p>4回目 保健指導</p> <p>5回目 健康相談について</p> <p>6回目 健康相談の進め方</p> <p>7回目 学校における精神保健と養護教諭の役割</p> <p>8回目 子どもの発育発達・心のケア</p> <p>9回目 学校における教育相談と養護教諭の役割</p> <p>10回目 学校経営と保健室経営</p> <p>11回目 保健室経営計画作成・評価</p> <p>12回目 保健組織活動</p> <p>13回目 安全管理と危機管理</p> <p>14回目 調査・研究・プレゼンテーションの進め方</p> <p>15回目 現職研修と教員免許更新制</p>
到達目標	学校における子どもの健康課題に向けて、学校の中で果たす役割や支援のあり方を理解し、健康相談等養護教諭が果たす新たな役割について理解できる。また、法を踏まえ保健教育活動が実施されていることを理解することができる。
授業時間外の学習	前期で学んだ内容を踏まえ、養護教諭の職務内容が理解できるよう復習や予習を十分行い、幼稚園や学童保育参観、高校参観に生かすことができるようにする。
評価方法	「平常点（小テスト等も含む）」（100％）で評価する。 遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。
テキスト	『新養護概説』采女智津江・少年写真新聞社 『新訂版学校保健実務必携（第二次改訂版）』学校保健・安全実務研究会・第一法規
参考書	『中学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』文部科学省 『中学校学習指導要領解説 保健体育編』文部科学省
備考	適時資料（データ）を配付する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	資格必修
担当教員			
澤田 実 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>図書館司書・博物館学芸員の資格取得の基礎となる科目です。「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」（教育基本法第3条 生涯学習の理念）とされるなか、人々にとって身近な学習施設である図書館・博物館等の役割は大きいものがあります。本講では、資格取得の前提として、生涯学習や社会教育の本質について理解をはかり、学習者の特性や教育相互の連携について学びます。生涯学習・社会教育の現状や課題を実態に即して考察するとともに、社会教育施設としての図書館・博物館の実際についても学ぶものです。</p> <p>学習成果の指標はA-③です。</p> <p>本授業は、遠隔授業になった場合には、①課題型学修（Google Classroomを利用）と③オンデマンド型学修（Google Classroomにパワーポイントの音声付講義の配信）とを組み合わせ実施します。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 「生涯学習概論」を学ぶために</p> <p>2回目 「生涯学習の現代的意義」 1 生涯学習とは何か（教科書p2～14）</p> <p>3回目 「生涯学習の現代的意義」 2 生涯学習の理念（教科書p15～19、p20～33、p66～82）</p> <p>4回目 「社会教育の概念と意義」（教科書p36～41）</p> <p>5回目 「社会教育の特質」 1 社会教育の特質 2 社会教育の対象（教科書p42～46）</p> <p>6回目 「社会教育の特質」 3 社会教育の内容（教科書p46～48）</p> <p>7回目 「社会教育の特質」 4 社会教育の方法形態（教科書p49～51）</p> <p>8回目 「生涯学習と社会教育施設」 1 公民館の役割と機能（教科書p135～140）</p> <p>9回目 「生涯学習と社会教育施設」 2 図書館の役割と機能（教科書p141～147）</p> <p>10回目 「生涯学習と社会教育施設」 3 博物館の役割と機能（教科書p148～155）</p> <p>11回目 「生涯学習と社会教育施設」 4 図書館・博物館の実際と新しい動向（教科書p141～155）</p> <p>12回目 「社会教育に関する団体と指導者」 1 社会教育に関する団体（教科書p117～122）</p> <p>13回目 「社会教育に関する団体と指導者」 2 社会教育に関する指導者（教科書p123～128）</p> <p>14回目 「生涯学習社会と家庭・学校・地域」 1 生涯学習社会と家庭教育 2 生涯学習社会と学校教育（教科書p162～179）</p> <p>15回目 「生涯学習社会と家庭・学校・地域」 2 学校・家庭・地域の連携・協働と社会教育の役割（教科書p180～188）</p>
到達目標	<p>生涯学習誕生の経緯や我が国における展開を知り、生涯学習の現代的意義や生涯学習振興施策の動向についての基礎基本について理解する。生涯学習の中核である社会教育について基本的事項を理解する。社会教育の対象の理解や社会教育の方法・形態を理解することで、社会教育関係職員としての学習支援能力の獲得につなげる。社会教育施設としての図書館、博物館の役割について知るとともに、現状や新しい動向について十分に理解し、今後の課題について社会教育関係職員をめざす者として課題意識をもって考察する。生涯学習社会における学校・家庭・地域の連携・協働の実際と社会教育施設が果たすべき役割について理解し、幅広い視野を身に付ける。講義全体を通して、社会教育関係職員に求められる「学習課題の把握と企画立案の能力」、「コミュニケーションの能力」、「組織化援助の能力」、「調整者としての能力」、「幅広い視野と探求心」を獲得する。</p>

授業時間外の学習	教科書の該当部分を授業計画に記載してあるので、関係部分の予習を心掛けてください。Google Classroomで様々な参考資料を配布します。事前に配布したものについての予習も大切です。広く生涯学習や社会教育施設等に関する報道（新聞、テレビ、インターネット等）に対する興味関心を持ち、必要に応じてメモを残したり、資料として保存したりする習慣を身につけると学習の定着に大きな力となります。このことは、実際に社会教育関係職員として勤務する時の資質向上にもつながります。 また、配布した資料をきちんと整理することが、学習の定着につながります。各回の授業の復習をきちんと行ってください。司書や学芸員にはプレゼンテーション能力が求められる時代です。常に講義内容をプレゼンできるように定着させるという気持ちをもって講義に臨んでください。
評価方法	評価方法 授業の参加意欲（40%） 授業中の小テスト（30%） 課題レポートの回答内容（30%）
テキスト	執筆・編集代表 馬場 祐次朗 『二訂 生涯学習概論』 ぎょうせい 2018年
参考書	必要に応じ講義時に紹介します。 なお、科目全体を通して、皆さんの学びを深めるための参考Webページは以下のとおりです。 1 文部科学省ホームページ https://www.mext.go.jp/ 2 " ページ中令和3年度 文部科学白書 https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab202001/1420041_00010.htm 3 " 白書中 第3章 生涯学習社会の実現 https://www.mext.go.jp/content/20220719-mxt_oseisk02-000024040_203.pdf また、各講義回ごとに必要な参考資料、Webページ等を提示します。
備考	授業計画については、履修している学生に対して事前に説明を行った上で変更することがあります。 授業の参加意欲は、各回の課題シート等の提出状況により判断します。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	資格必修
担当教員			
内野安彦 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>図書館の機能、種類、経営等、様々な観点から図書館に関する枠組みを学び、図書館とは何かについて理解を深める。</p> <p>具体的には、図書館の意義と機能、図書館の種類、図書館に関する法制度や行政、図書館間の協力、出版・書店の現状、図書館を支える諸学問等について講義する。授業では、随時グループディスカッションやディベートを行うので、積極的に討議に参加すること。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-③である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 図書館の意義と機能</p> <p>3回目 図書館の種類</p> <p>4回目 知的自由と図書館（1）：ユネスコ公共図書館宣言</p> <p>5回目 知的自由と図書館（2）：図書館の自由に関する宣言</p> <p>6回目 図書館サービスの原則</p> <p>7回目 図書館サービスの種類</p> <p>8回目 図書館と情報資源</p> <p>9回目 図書館法制定以後の日本の図書館の動き</p> <p>10回目 図書館経営と図書館職員</p> <p>11回目 日本における図書館の現状</p> <p>12回目 日本の出版（1）：統計からみた出版の現状</p> <p>13回目 日本の出版（2）：ステークホルダーの問題（出版社と作家を中心に）</p> <p>14回目 日本の出版（3）：図書館との関係</p> <p>15回目 図書館の課題と展望</p>
到達目標	<p>図書館の基本的な意義と機能について理解できるとともに、図書館サービスや経営に関する各論の受講の前提となる基礎知識を得ることができる。</p>
授業時間外の学習	<p>授業では事前に各自の考え方がまとめられていることを前提にディスカッション等を行いつつ講義を進めるので、図書館に関連する事項（図書館、出版、IT技術、読書、活字文化、情報流通、メディア論等）について取り上げている新聞記事の内容の概略をまとめておくこと。具体的な事項（テーマ）については各回ごとに授業時に指示する。</p> <p>ただし遠隔授業となった場合は、無理のない範囲内で情報を収集すればよい。またグループワーク等は、基本的に実施しない。</p>
評価方法	<p>ディスカッションへの参加を含む授業への参加態度（遠隔授業の場合は課題の提出状況）（50%）、レポート（遠隔授業の場合は課題の中で提示するレポート課題）（50%）に基づき評価。レポートは各自の意見を記述する形式が主となるが、到達目標に掲げている「基礎知識」の獲得のため、参考文献（参考URL）を明記していないものは評価の対象にならないので注意すること。</p>
テキスト	『図書館情報学基礎資料』第4版、今まど子・小山憲司編著、樹村房、2022

	*ただし2020年刊の第3版をすでに購入済みの場合は、第4版を購入せず第3版を持参してもよい。ほかに随時プリントを配布する。
参考書	『図書館概論』、高山正也・岸田和明編集、樹村房、2011 *その他、授業時に紹介する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	2単位	資格必修
担当教員			
内野安彦 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>現代社会における図書館の役割を確認するとともに、行財政改革・規制緩和の進展といった急激かつダイナミックな社会の変化のもとでの図書館経営について、関連する法令や図書館政策の状況を解説する。また、各種の事例によってその実態と意義を検討する。特に行政経営という観点で図書館を見る、という考え方を体得してもらう。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-③である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 図書館経営の概念</p> <p>3回目 館種別法規系統と法体系の形式的効力</p> <p>4回目 図書館法（逐条解説）（1）：図書館法の全体構成</p> <p>5回目 図書館法（逐条解説）（2）：図書館法改正履歴と条文の変化</p> <p>6回目 非営利組織の経営（1）：経営とは何か</p> <p>7回目 非営利組織の経営（2）：非営利組織経営の特徴</p> <p>8回目 図書館の組織と職員</p> <p>9回目 経営サイクルと図書館活動</p> <p>10回目 図書館の短期計画と中・長期計画</p> <p>11回目 地方自治体の財政状況</p> <p>12回目 図書館の経営評価</p> <p>13回目 管理形態の多様化と制度の問題</p> <p>14回目 民間委託・民営化問題とマネジメント</p> <p>15回目 公共サービスと図書館のミッション</p>
到達目標	現代社会における図書館経営について、特に行政経営という観点からの基礎知識の獲得及びその理解を深めることができる。
授業時間外の学習	<p>授業では事前に各自の考え方がまとめられていることを前提にグループワークやディベート等も取り入れながら講義を進めるので、各回のテーマにしたがった新聞記事等の内容を出典とともに簡単にまとめ、各自の意見・感想も付しておくこと。取り上げるテーマは授業時に指示するが、行政経営という観点から地方自治体の組織や財政に関する問題を取り上げるので、図書館そのものに関する記事以外にも、地方自治体に関わる問題について、幅広く正確な情報を収集しておくこと。</p> <p>ただし遠隔授業となった場合は、無理のない範囲内で情報を収集すればよい。またグループワーク等は、基本的に実施しない。</p>
評価方法	<p>個人レポート65%、授業への参加意欲とグループディスカッション35%で評価する。</p> <p>ただし遠隔授業となった場合は課題レポートによる評価とする。また、授業各回の質問等への回答を授業の出席とみなすが、その内容も授業への参加意欲を示すものとして評価の対象とする。レポートは各自の意見を記述する形式が主となるが、到達目標に掲げている「基礎知識」の獲得のため、参考文献（参考URL）を明記していないものは評価の対象にならないので注意すること。</p>

テキスト	『図書館制度・経営論』、糸賀雅児・葉袋秀樹編集、樹村房、2013 『図書館情報学基礎資料』第4版、今まど子・小山憲司編著、樹村房、2022 *ただし2020年刊の第3版をすでに購入済みの場合は、第4版を購入せず第3版を持参してもよい。ほかに随時プリントを配布する。
参考書	『図書館経営論』、柳与志夫著、学文社、2007 『市場化の時代を生き抜く図書館』、図書館総合研究所編集、時事通信出版局、2007 『図書館長論の試み ―実践からの序説―』、内野安彦著、樹村房、2014 *その他、授業時に紹介する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	資格必修
担当教員			
篠塚富士男 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>高度情報化社会といわれる現代においては、電子書籍やウェブページといった各種の電子情報源が日常的に存在しており、図書館業務においても電子情報源や情報システムに関する知識が不可欠である。本授業では、現代の図書館を取り巻く情報環境の変化を踏まえた上で、図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために必要な知識について解説する。また必要に応じて演習を行う。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-③である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 コンピュータとネットワークの基礎</p> <p>2回目 情報技術と社会</p> <p>3回目 ネットワークとデータベースの仕組み</p> <p>4回目 外部データを取り込む（エクセルによる実習）</p> <p>5回目 サーチエンジンの特徴と種類</p> <p>6回目 図書館の業務とIT（1）：図書館業務システムの構成と機能</p> <p>7回目 図書館の業務とIT（2）：図書館における情報技術活用の現状</p> <p>8回目 最初のWebページを作る（1）：HTMLドキュメントの構造を知る（実習を含む）</p> <p>9回目 最初のWebページを作る（2）：Webページの本文を作成する</p> <p>10回目 最初のWebページを作る（3）：画像の挿入とリンクの作成（Webページの完成）</p> <p>11回目 図書館と電子資料</p> <p>12回目 コンピュータシステムの管理（1）：システム管理とデータ管理</p> <p>13回目 コンピュータシステムの管理（2）：セキュリティ管理</p> <p>14回目 デジタルアーカイブ（1）：デジタルアーカイブの構築と運用</p> <p>15回目 デジタルアーカイブ（2）：図書館におけるデジタルアーカイブの事例</p>
到達目標	図書館を取り巻く情報環境の変化や、それにもなつて生じた課題を見ていく中で、各種情報メディアの電子化と各種業務システムの変化、情報機器の基本的な種類・仕組み・機能について理解することができる。
授業時間外の学習	新聞やニュースで報道されるICT等の「最新技術」の動向を注視して問題意識を高めておくこと。
評価方法	授業への参加意欲（遠隔授業の場合は課題の提出状況）（50%）、レポート（遠隔授業の場合は課題の中で提示するレポートと確認テスト）（50%）に基づき評価。レポートは各自の意見を記述する形式が主となるが、到達目標に掲げている「基本的な仕組み等の理解」のため、参考文献（参考URL）を明記していないものは評価の対象にならないので注意すること。
テキスト	『改訂 図書館と情報技術：情報検索能力の向上をもめざして』、岡紀子、田中邦英著、樹村房、2017 *ほか随時プリントを配布する。
参考書	『図書館情報技術論』第2版、日高昌治著、学文社、2017 *その他、授業中に紹介する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1年次	2単位	資格必修
担当教員			
須永和之 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>図書館とは、利用者が希望する資料及び情報を提供していく社会的施設です。図書館で行われている活動の中でも、利用者と直接接して行われているサービスこそが、それぞれの図書館の果たすべき目的を知ってもらえる行為で、図書館活動の中心をなす業務です。この講義では公共図書館を中心として、行っている諸サービスの特質、方法、現状のサービスの抱える問題点などについて解説し、図書館のサービスについての知識を得るとともに深めてもらうことを目的とします。</p> <p>本授業は対面授業を中心に実施する予定であるが、遠隔授業になった場合は①課題型学修（Google Classroomを利用）を実施します。</p>
授業計画	<p>1回目 図書館サービスの理念と意義 図書館の種類（国立、公共、学校、大学、専門、その他）と法律、サービスの目的、図書館サービスの理念、図書館を構成する4つのS（Space, Stock, Service, Staff）</p> <p>2回目 図書館サービスの変遷 図書館法成立（～1950年代）、『中小レポート』『市民の図書館』（1960～70年代）、日本の公共図書館の飛躍的発展（1980～90年代前半）、文化教養型から生活ビジネス型へ（1990から2000年代）、図書館経営の変革と新たなサービスへの模索（2010年代～現在）、感染症蔓延以降の図書館サービス</p> <p>3回目 資料提供サービスとデジタル化 閲覧（館内利用）、貸出、予約・リクエスト、文献送付、複写サービス、情報のデジタル化、著作権法</p> <p>4回目 情報提供サービス レファレンスコレクションの構築、レファレンスサービス（質問回答サービス）、情報検索サービス、カレントアウェアネス、SNSを活用したサービス</p> <p>5回目 図書館サービスの協力体制 図書館の種類を超えた連携、国立国会図書館と公立図書館、学校図書館、大学図書館、専門図書館</p> <p>6回目 課題解決支援サービス 多様化、複雑化する社会のなかでの情報サービスの重要性、課題解決の方法と手段の提示、ビジネス情報、健康・医療情報、法律情報、行政支援、心を支える情報</p> <p>7回目 図書館利用に困難を感じる人々へのサービス 心身の理由で不自由を感じる人々へのサービス、視覚、聴覚（発話困難）、肢体不自由、ディスレクシア（難読症）、精神的理由</p> <p>8回目 児童・青少年サービス（ヤングアダルト） 読書への支援、インターネット時代の読書論</p> <p>9回目 高齢者サービス 高齢化社会における図書館サービス</p> <p>10回目 多文化サービスと、社会的弱者・マイノリティへのサービス 社会・文化的背景の異なる人びとへのサービス、LGBTQ+へのサービス、アウトリーチサービス</p> <p>11回目 図書館施設とサービス 図書館建築、物理的環境（音、光、温度、湿度）の保全</p> <p>12回目 図書館の災害対策と危機管理 自然災害と図書館（地震と水害）、人災と図書館（火災）、感染症の蔓延と図書館</p> <p>13回目 利用者とのコミュニケーション 見える図書館員と見えない図書館員、迷惑を与える利用者への対応、広報活動と集会活動</p> <p>14回目 図書館経営とサービスの新展開 台湾・高雄市立図書館の図書館経営とサービスの新展開</p> <p>15回目 感染症の蔓延後の図書館サービス インターネットによる文献情報の提供、著作権の問題</p>
到達目標	<p>図書館に求められるサービスとは何であるのかを理解し説明できるようにする。</p> <p>公共図書館に求められるサービスとは何であるのかを理解し説明できるようにする。</p> <p>目的を果たすために行わねばならないサービスとは何なのかを理解し説明できるようにする。</p> <p>実施されている主要なサービスを理解し説明できるようにする。</p> <p>今後の発展を考えていく上で行わねばならないサービスについて理解し説明できるようにする。</p>
授業時間外の学習	<p>この講義の目的は、公共図書館で行われている各種サービスを理解することが主となるから、講義後公立図書館（できれば地元の公立図書館が望ましい）へ行って、学んだサービスを実際に体験してみるようにしてください。公共図書館を見学するときには、感染症対策を十分に施してください。</p>
評価方法	最終レポートで評価します。

テキスト	『図書館サービス概論』改訂 高山正也, 村上篤太郎編著. 樹村房, 2019 (現代図書館情報学シリーズ; 4) ISBN 978-4-88367-294-3
参考書	『中小都市における公共図書館』・『市民の図書館』・『公立図書館の任務と目標解説』・『多文化サービス入門』・『図書館のための個人情報保護』・『公立図書館員のための消費者』『障害者サービスと著作権法』 日本図書館協会 『図書館サービス論』塩見昇編 教育資料出版会 『ヤングアダルトサービス入門』半田雄二編 教育資料出版会
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	2単位	資格必修
担当教員			
内野安彦 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>図書館における情報サービス活動の意義とその概要について解説し、質的多様化と量的激増が同時に進行している情報源の特質や利用法を明らかにする。また、情報源の変化は図書館の情報サービスをも変容させつつあるので、従来のレファレンスサービスから、情報検索サービスまでの総合的な理解をめざす。具体的には、レファレンスサービスならびに情報検索サービスについての解説、重要ツールであるレファレンスブック等の解説、さらには情報リテラシーの育成を含む図書館利用教育等について講義する。なお、学習成果の指標はA-③である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 情報サービスとは何か</p> <p>3回目 情報サービスの種類</p> <p>4回目 レファレンスサービスの機能</p> <p>5回目 レファレンスサービスの理論と実際（1）：レファレンスプロセス</p> <p>6回目 レファレンスサービスの理論と実際（2）：レファレンスサービスの原則</p> <p>7回目 情報検索の理論と方法</p> <p>8回目 発信型情報サービスの展開</p> <p>9回目 各種情報源の特質と利用法（1）：情報メディア・文献を探す</p> <p>10回目 各種情報源の特質と利用法（2）：論文・記事を探す</p> <p>11回目 各種情報源の特質と利用法（3）：事項・事実の検索</p> <p>12回目 各種情報源の評価</p> <p>13回目 情報サービスに関わる知的財産権</p> <p>14回目 図書館利用教育と情報リテラシーの育成</p> <p>15回目 これからの情報サービス</p>
到達目標	<p>情報サービスの意義・理論と各種情報源の概要を学ぶことにより、変容しつつある現代の情報サービスの動向についての理解を深めることができる。また本講義は情報サービス演習と対をなすものであり、ここで学んだ理論・概要が演習の基礎となる。</p>
授業時間外の学習	<p>授業時に各種情報源を紹介するので、冊子体ものは本学図書館等で実際に手に取って確認すること。また、インターネット上の情報源も、実際にアクセスして内容を把握しておくこと。</p> <p>ただし遠隔授業となった場合は、無理のない範囲内で情報を収集すればよい。</p>
評価方法	<p>グループディスカッションを含む授業への参加意欲（35%）、レポート（65%）に基づき評価。</p> <p>レポートは各自の意見を記述する形式が主となるが、参考文献（参考URL）を明記していないものは評価の対象にならないので注意すること。</p> <p>また遠隔授業期間中は課題レポートによる評価とする。なお、授業各回の質問等への回答を授業の出席とみなすが、その内容も授業への参加意欲を示すものとして評価の対象とする。グループディスカッションは行わない。</p>

テキスト	授業時に随時プリントをを配布する。
参考書	『情報サービス論』 山崎久道編集、樹村房、2012 『情報サービス論』 竹之内禎編著、学文社、2013 *その他。授業時に紹介する。
備考	

講義科目名称： 児童サービス論

授業コード： 214013

英文科目名称： Library Service for Children

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	資格必修
担当教員			
篠塚富士男 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>図書館における児童を対象とする各種サービスや児童図書について総合的に解説し、あわせてヤングアダルトサービスについても解説する。またPOP作成やブックトーク等の体験を通じて児童サービスに関する技術的・実践的な問題もとりあげる。 なお、学習成果の指標はA-③である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス：「子どもと図書館」のイメージについて考えてみる</p> <p>2回目 児童サービスの意義</p> <p>3回目 児童・青少年期における読書の意義</p> <p>4回目 児童図書館員とは</p> <p>5回目 日本における児童サービス・児童青少年の読書の流れ</p> <p>6回目 児童青少年の読書の現況</p> <p>7回目 読書能力の発達と児童資料</p> <p>8回目 幼少期の読書と児童サービス</p> <p>9回目 小学生の読書と児童サービス（1）：小学校低学年</p> <p>10回目 小学生の読書と児童サービス（2）：小学校中学年・高学年 これ以降各回数ずつブックトークを行ってもらう</p> <p>11回目 資料紹介の実践—POPの作成—</p> <p>12回目 ヤングアダルトサービス</p> <p>13回目 児童資料の種類と特性（1）：絵本、児童文学等を中心に考える</p> <p>14回目 児童資料の種類と特性（2）：児童資料の選択と評価、およびコレクション形成の問題を考える</p> <p>15回目 学校・学校図書館・地域社会との連携と協力</p>
到達目標	児童サービスに関する基本的な知識を得ることができるとともに、ブックトーク等により具体的なサービスの方法を体験・理解することができる。
授業時間外の学習	授業では事前に各自の考え方がまとめられていることを前提にディスカッション等を行いつつ講義を進めるので、シラバスの内容を確認しておくとともに、児童サービスに関連する事項（たとえば児童文学、児童書の出版、幼児教育、学校教育等）に関する情報・報道に関心をもち内容を把握するよう努めること。
評価方法	ディスカッションへの参加を含む授業への参加態度（遠隔授業の場合は課題の提出状況）（50%）、レポート（遠隔授業の場合は課題の中で提示するレポート課題）（50%）に基づき評価。レポートは各自の意見を記述する形式が主となるが、到達目標に掲げている「基本的知識」の獲得のため、参考文献（参考URL）を明記していないものは評価の対象にならないので注意すること。
テキスト	随時、プリントを配布する。
参考書	「児童サービス論」、堀川照代編、日本図書館協会、2014年 「児童サービス論」第2版、金沢みどり著、学文社、2014年
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	1単位	資格必修
担当教員			
内野安彦 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>利用者の調べ物の援助をする業務を、「参考調査」「レファレンス・サービス」という呼び名で、利用者に情報源を示す業務がある。情報源を探し当て提供できるまでにはかなりの熟練を要する。まず情報源となり得る「資料群」を知り、どう業務を展開するかを学ぶ。</p> <p>学習成果の指標はA-③である。</p> <p>本授業は対面授業を中心に実施する予定だが、やむを得ず全面遠隔授業になった場合は、③オンデマンド型学修（「Google Classroom」を利用）を実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 図書館における情報サービスとは</p> <p>2回目 情報サービスへの方針を決める ① 方針策定にむけて</p> <p>3回目 情報サービスへの方針を決める ② 体制・組織づくり</p> <p>4回目 地域性と利用者の情報ニーズ</p> <p>5回目 情報サービスを遂行するための情報源</p> <p>6回目 レファレンス・コレクションの構成について ① コレクション形成の方針</p> <p>7回目 レファレンス・コレクションの構成について ② レファレンス・ツールの選択</p> <p>8回目 レファレンス・コレクションの構成について ③ レファレンス・コレクションの整備と評価</p> <p>9回目 一次文献と二次文献の相違と関連性を考える</p> <p>10回目 書誌・目録類を見してみる（学園図書館の蔵書から）</p> <p>11回目 書誌・目録類の評価（学園図書館の蔵書から）</p> <p>12回目 レファレンス・ブックの選書をしてみる</p> <p>13回目 レファレンス・ブックを導入手段として情報源に近づく訓練</p> <p>14回目 レファレンス受付のプロセス ① 受付</p> <p>15回目 レファレンス受付のプロセス ② インタビューの方法</p>
到達目標	情報源に行き着く為のレファレンス・ツールの存在を知ることができる。利用者への回答を価値ある、質の高い情報提供をすることができるようになる。二次文献の良書を見極めることができる。
授業時間外の学習	利用者のみならず、自分の研究・学習のためにも文献探索の方法を考える習慣を身につけるように。
評価方法	授業参加の意欲・態度（50%） 提出物（25%） 発表（25%） 遠隔授業に変更の場合の評価は、平常授業時に準ずる。発表についてはレポートとする。
テキスト	「教科書を使用せず。」 必要時に資料配付。
参考書	必要時に指示。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	1単位	資格必修
担当教員			
内野安彦 教授			
添付ファイル			

授業の概要	この時間では、具体的にレファレンス・サービスについて学び、演習を行う。利用者をよりの確な回答へと導くための方法について学ぶ。 学習成果の指標はA-③である。 本授業は対面授業を中心に実施する予定だが、やむを得ず全面遠隔授業になった場合は、③オンデマンド型学修（「Google Classroom」を利用）を実施する。
授業計画	<p>1回目 情報検索の方法 ① 図書情報の特徴</p> <p>2回目 情報検索の方法 ② 図書情報のネットワーク情報資源の特徴</p> <p>3回目 情報検索の方法 ③ 新聞・雑誌情報の特徴とネットワーク情報資源</p> <p>4回目 質問分野別情報提供の処理方法 ① NDC 0部門～3部門</p> <p>5回目 質問分野別情報提供の処理方法 ② NDC 4部門～6部門</p> <p>6回目 質問分野別情報提供の処理方法 ③ NDC 7部門～9部門</p> <p>7回目 外部機関へのレファレンス依頼の方法 ① 依頼状の書式・専門機関の把握</p> <p>8回目 外部機関へのレファレンス依頼の方法 ② 雑誌論文等の複写依頼</p> <p>9回目 図書館から発する情報サービス ① パスファインダーの作成1</p> <p>10回目 図書館から発する情報サービス ② パスファインダーの作成2</p> <p>11回目 レファレンスPOPの作成 ① レファレンスPOPの作成意図</p> <p>12回目 レファレンスPOPの作成 ② レファレンスPOPを作成する対象となる書物を選ぶ</p> <p>13回目 レファレンスPOPの作成 ③ 実際に作成にかかる</p> <p>14回目 レファレンス記録の作成 ① 質問受付票～解決までの記録</p> <p>15回目 レファレンス記録の作成 ② 事例分析と活用</p>
到達目標	ネットによる情報収集に慣れている受講者が、「書物」という情報源の重要性、及びネットと冊子の長・短所を会得することができるようになる。活用範囲の広い「POP」が書けるようになる。
授業時間外の学習	ネットによる情報は、ある事柄を知る上での取っ掛かりになるという事。検索するための語彙の選び方の修練を積むことを心がける。
評価方法	授業参加の意欲・態度 (50%) 提出物 (25%) 発表 (25%) 遠隔授業に変更の場合の評価は、平常授業時に準ずる。発表についてはレポートとする。
テキスト	「教科書を使用せず。」 必要時に資料配付。
参考書	必要時に指示。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	資格必修
担当教員			
内野安彦 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>図書館情報資源の中でも、図書館の機能を支える一大要素の「書物」を中心として、情報資源全般について重要点を説く。「情報資源」の選択・収集の責任・資料の維持管理・経営管理にまで言及したい。まず「何をどう選ぶか」の知識を得させる。</p> <p>図書館情報資源が選ばれ、書架上に配架されるまでの流れを学ぶ。図書館情報資源の構築ということを常に説き、時に応じて本学園図書館書庫等において、書架上に並んだ資料を見ながら進める。</p> <p>学習成果の指標はA-③である。</p> <p>本授業は対面授業を中心に実施する予定だが、やむを得ず全面遠隔授業になった場合は、③オンデマンド型学修（「Google Classroom」を利用）を実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 図書館情報資源の意義：図書館の知的自由・資料選択の自由（1） 「図書館の自由」の概念</p> <p>2回目 図書館情報資源の意義：図書館の知的自由・資料選択の自由（2） 特に選択の自由について</p> <p>3回目 図書館情報資源の種類（1）印刷資料</p> <p>4回目 図書館情報資源の種類（2）非印刷資料</p> <p>5回目 図書館情報資源の収集と選択（1）選択の意義・歴史</p> <p>6回目 図書館情報資源の収集と選択（2）資料の選択、選書論と方法論、選書の情報源</p> <p>7回目 図書館情報資源の収集と選択（3）資料の収集方針と収集機構</p> <p>8回目 図書館情報資源の収集と選択（4）出版流通システムについて</p> <p>9回目 特殊資料の収集（灰色文献、政府刊行物、地域資料等）</p> <p>10回目 図書館情報資源の管理（1）資料の受入業務の流れ（含む予算管理）</p> <p>11回目 図書館情報資源の管理（2）資料の更新・評価・除籍と廃棄・蔵書点検</p> <p>12回目 図書館情報資源の管理（3）資料の保存・保管</p> <p>13回目 図書館情報資源の共有化</p> <p>14回目 書物を選んでみる：種々の選書ツールを使って（1） 販売書誌で</p> <p>15回目 書物を選んでみる：種々の選書ツールを使って（2） 新聞広告などで</p>
到達目標	<p>資料選択のためのツールの熟知に努力することで、資料の選択ができるようになる。書籍の流通過程から、一点の資料が利用に供されるまでの流れを把握することができる事になる。書店で新刊書を選ぶ楽しさを味わえる。</p>
授業時間外の学習	<p>学園図書館の蔵書構成を、配架の手助けをしながら学ぶ。その他のフロアワークも。</p>
評価方法	<p>授業参加の意欲・態度（50%） 提出物（25%） 発表（25%） 遠隔授業に変更の場合の評価は、平常授業に準ずる。発表はレポートとする。</p>
テキスト	<p>「教科書を使用せず。」 必要時に資料配布。</p>
参考書	<p>講義時に指示。</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	資格必修
担当教員			
篠塚富士男 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>求める資料を検索する為の手立を学ぶ。蓄積されてゆく「図書館情報資源」にたどりつくためには、秩序立てた二つの方法があること、その二つ「分類法」「目録法」の理論づけを目標とする。主として、「目録法」「分類法」の理論を学ぶ。「情報資源組織演習Ⅰ・Ⅱ」につなげる。学習成果の指標はA-③である。</p> <p>本授業は対面授業を中心に実施する予定だが、やむを得ず全面遠隔授業になった場合は、③オンデマンド型学修（「Google Classroom」を利用）を実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 情報資源組織とは何か</p> <p>2回目 情報資源組織の意義：図書館サービスの基本として</p> <p>3回目 情報資源の方法 ①書架分類法</p> <p>4回目 情報資源の方法 ②目録法</p> <p>5回目 目録法 ①基本的な考え方</p> <p>6回目 目録法 ②カード目録とコンピュータ目録について</p> <p>7回目 目録法 ③目録の記述について</p> <p>8回目 目録法 ④目録を作るために：「NCR日本目録規則」について</p> <p>9回目 目録法 ⑤NCR及び各国の目録法と目録の歴史</p> <p>10回目 分類法 ①分類の基本的仕組</p> <p>11回目 分類法 ②分類法の種類</p> <p>12回目 分類法 ③「日本十進分類法」の解説</p> <p>13回目 分類法 ④各国の主要分類法と分類法の歴史</p> <p>14回目 「基本件名標目表」を解説しつつ言葉による主題の組織化について</p> <p>15回目 目録の電子化に際しての情報通信技術と情報資源組織</p>
到達目標	<p>何気なく引いている目録も、資料の背のラベルも「理論」の歴史と先人の努力である事に気づくことになり、「分類」及び「目録」の理論の組み立てが理解できるようになる。</p>
授業時間外の学習	<p>NDC、NCR、BSHを折にふれて見ておく。</p>
評価方法	<p>授業参加の意欲・態度（50%）提出物（25%）発表（25%） 遠隔授業に変更の場合の評価は、平常授業時に準ずる。発表はレポートとする。</p>
テキスト	<p>「教科書を使用せず。」 必要時に資料配布。</p>
参考書	<p>講義時に指示。</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	1単位	資格必修
担当教員			
篠塚富士男 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>情報資源組織の1つの要である目録法を具体的に学ぶ。カードケースの中の一枚の目録カードの完成とそれからの展開。当たり前のように検索している電子化された目録がどのように出来上がってくるのかを学ぶ。記述・記入をしっかりと身につける。</p> <p>図書館の蔵書の中から一冊の本を選び、自分流のカタログを作成することから始める。時々に応じ発表させながら解説を加える。「NCR」に照らしながら作業を進める。</p> <p>学習成果の指標はA-③である。</p> <p>本授業は対面授業を中心に実施する予定だが、やむを得ず全面遠隔授業になった場合は、③オンデマンド型学修（「Google Classroom」を利用）を実施する。</p>		
授業計画	<p>1回目 目録の機能と構成要素について。</p> <p>2回目 目録の種類（形態及び機能上の）</p> <p>3回目 一冊本を選ぶ。</p> <p>4回目 選んだ本を素材として目録を作成してみる。</p> <p>5回目 第4回の作業続き。</p> <p>6回目 発表（基本記入・記述について担当者解説） 0部門～3</p> <p>7回目 発表（基本記入・記述について担当者解説） 4部門～7</p> <p>8回目 発表（基本記入・記述について担当者解説） 8部門～9</p> <p>9回目 補助記入が必要な図書を探す。内容注記・分出記入について。 一般全集</p> <p>10回目 補助記入が必要な図書を探す。内容注記・分出記入について。 個人全集</p> <p>11回目 「基本件名標目表」に依り件名作業を学ぶ。</p> <p>12回目 「MARC」について解説と演習。</p> <p>13回目 「OPAC」について本学図書館の端末を使用しながら学ぶ。 学園図書館資料の検索</p> <p>14回目 「OPAC」について本学図書館の端末を使用しながら学ぶ。 学外機関資料の検索</p> <p>15回目 和漢古書目録法について。</p>		
到達目標	目録の基本記入の知識が色々な物のカタログ化に役立てることができるようになる。目録作成の典拠となる難解な「日本目録規則」を引くことができるまでになる。		
授業時間外の学習	OPACによる検索に慣れる。		
評価方法	授業参加の意欲・態度（50%）提出物（25%）発表（25%） 遠隔授業に変更の場合の評価は、平常授業時に準ずる。発表はレポートとする。		
テキスト	「教科書を使用せず。」 必要時に資料配布。		
参考書	講義時に指示。		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	1単位	資格必修
担当教員			
篠塚富士男 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>「書物」に代表される諸々の情報資源を「区分」するための分類法を理解する。分類をするために最も大切な主題を捉えるという思考法を訓練したい。「NDC」の第一次・第二次区分表及び形式区分（共通細目）（言語区分の大まかなところ）（言語共通区分）（文学共通区分）などを中心に学ぶ。一点でも多くの分類例を見るために、本学園図書館の蔵書を実物例として、実際に現物（書物）を選び、他の人の発表を聞きながら記号の仕組みを理解することを第一義とする。学習成果の指標はA-③である。本授業は対面授業を中心に実施する予定だが、やむを得ず全面遠隔授業になった場合は、③オンデマンド型学修（「Google Classroom」を利用）を実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 分類は何のために：分類の基本「区分」について。</p> <p>2回目 「NDC」の0～9の記号は何か。</p> <p>3回目 指定された分類記号の書物を図書館書架上から選ぶ。</p> <p>4回目 選んだ資料に主題となる言葉を与えてみる。</p> <p>5回目 発表（主題となる言葉を考えながら、よりの確な主題語へと導く。ラベルの分類記号を分解して「NDC」の組み立てを解説する。）0部門～1</p> <p>6回目 発表（主題となる言葉を考えながら、よりの確な主題語へと導く。ラベルの分類記号を分解して「NDC」の組み立てを解説する。）2部門～3</p> <p>7回目 発表（主題となる言葉を考えながら、よりの確な主題語へと導く。ラベルの分類記号を分解して「NDC」の組み立てを解説する。）4部門～5</p> <p>8回目 発表（主題となる言葉を考えながら、よりの確な主題語へと導く。ラベルの分類記号を分解して「NDC」の組み立てを解説する。）6部門～7</p> <p>9回目 発表（主題となる言葉を考えながら、よりの確な主題語へと導く。ラベルの分類記号を分解して「NDC」の組み立てを解説する。）8部門～9</p> <p>10回目 再び「日本十進分類法」の仕組み、使い方を解説。</p> <p>11回目 地理区分・共通細目がされている書物を書架上から探す。</p> <p>12回目 第二次区分表から更に第三次区分表を理解する。</p> <p>13回目 例題に分類記号をつける。 NDC第9版に拠って</p> <p>14回目 例題に分類記号をつける。 NDC第9版に拠って 第10版・第8版との比較も</p> <p>15回目 第13回・第14回の答合わせ。質疑。</p>
到達目標	「分類」と「区分」の思考方法は、すべての事柄（特に事務処理や展示）に活かすことができる。「日本十進分類法」なしでも第二次区分までは分類が付けられる。
授業時間外の学習	学園図書館の書架を自由に見ながら、この書物になぜこの分類記号と考える訓練をする。
評価方法	授業参加の意欲・態度（50%）提出物（25%）発表（25%） 遠隔授業に変更の場合の評価は、平常授業時に準ずる。発表はレポートとする。
テキスト	「教科書を使用せず。」 必要時に資料配布。
参考書	講義時に指示。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	1単位	資格必修
担当教員			
篠塚富士男 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>図書館情報資源の中から特に「二次資料」について学ぶ。一次資料に到達する手がかりとなる資料群であることの認識をもたせ、大部の二次資料（人文科学・自然科学）について「解題」ができるようになるまでを会得する。</p> <p>各分野における二次資料中主要書誌の解題を受講者に課し、「凡例」の読み方等から学ぶ。発表に対して担当者が補足し、説明を加える。</p> <p>日本古典籍書誌学用語の解説を随時行う。</p> <p>学習成果の指標はA-③である。</p> <p>本授業は対面授業を中心に実施する予定だが、やむを得ず全面遠隔授業になった場合は、③オンデマンド型学修（「Google Classroom」を利用）を実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 二次資料とは</p> <p>2回目 書誌・書誌学について</p> <p>3回目 文献の「解題」ということについて</p> <p>4回目 各グループに課題とする二次資料を提示 提示された資料を探す</p> <p>5回目 指定された二次資料の解題作業及び発表準備 凡例を読み解く</p> <p>6回目 指定された二次資料の解題作業及び発表準備 実際に使ってみる</p> <p>7回目 指定された二次資料の解題作業及び発表準備 実際に使ってみて、他の人に伝わるか考える</p> <p>8回目 指定された二次資料の解題作業及び発表準備 発表の方法などメンバーと討議</p> <p>9回目 発表開始〈補足解説：担当者〉 総合的二次文献を優先的に</p> <p>10回目 発表開始〈補足解説：担当者〉 歴史・社会科学系の二次文献</p> <p>11回目 発表開始〈補足解説：担当者〉 自然科学、家政学系の二次文献</p> <p>12回目 発表開始〈補足解説：担当者〉 語学・文学系の二次文献</p> <p>13回目 銘銘に課題とする二次資料を提示・作業 資料を探す、解題作業</p> <p>14回目 銘銘に課題とする二次資料を提示・作業 端的に主題を捉え発表</p> <p>15回目 和本の版木・版本・複製本（近代文学資料の復刻本）などの展示・解説</p>
到達目標	「解題」（二次資料の）ができるようになると、自分の研究テーマの一次文献にたどりつくことが容易にできるようになる。和本や版木など目にする機会となる。書物の特質を的確に掴むことができるようになる。
授業時間外の学習	二次文献から一次文献へ、利用者にガイドするフロアワーク
評価方法	授業参加の意欲・態度（50％）提出物（25％）発表（25％） 遠隔授業に変更の場合の評価は、平常授業時に準ずる。発表はレポートとする。
テキスト	「教科書を使用せず。」 必要時に資料配布。
参考書	講義時に指示
備考	

講義科目名称： 図書・図書館史

授業コード： 400004

英文科目名称： History of Books and Library

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	2年次	1単位	資格必修
担当教員			
藤森 馨 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>図書の歴史や図書館の歴史を、古代から現代に至るまで解説する。西洋にも、東洋にも長い図書の歴史や図書館の歴史があるが、今日の図書・図書館とは相違する。過去と今日の不変な点、また相違について、東洋の図書の歴史を中心に図書学の観点から見ていく。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-③である。</p> <p>遠隔授業になった場合は、①課題型学修で実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス：図書学とは</p> <p>2回目 日本図書学の歴史</p> <p>3回目 中国における図書学研究のはじまり</p> <p>4回目 中国における解題・分類の淵源</p> <p>5回目 木版印刷のはじまり</p> <p>6回目 百万塔陀羅尼</p> <p>7回目 書物の装訂</p> <p>8回目 書写本</p> <p>9回目 版式内の名称（1）魚尾など</p> <p>10回目 版式内の名称（2）枠など</p> <p>11回目 版心に関する用語と実例</p> <p>12回目 書誌的事項の採り方</p> <p>13回目 書誌的事項の符号</p> <p>14回目 図書学の今後</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	<p>図書・図書館の歴史を学ぶ上で、「図書館の本質」、「利用者は誰か」、「各時代の思想的背景」という通史的な観点を設定するが、これにより単なる知識の羅列と暗記ではない、歴史的な視点にたつて図書・図書館史を考える方法を理解することができる。また図書学の観点から学ぶことにより、図書とは何かを形態面からも理解することができる。</p>
授業時間外の学習	<p>授業で取り上げた具体的な図書・図書館について、その時代背景を簡単に調べておく。その際、文化史的な背景だけでなく、政治史や経済史の観点からの時代背景も調べておくこと。また集中講義であるのでテキストを通読しておくこと。</p>
評価方法	<p>授業への参加状況を含む授業態度30%、試験70% 遠隔授業を実施した場合は、レポート提出(100%)とする。</p>
テキスト	<p>『図書学入門』 藤森馨著、成文堂、2012</p>
参考書	<p>*授業時に紹介する。</p>
備考	

講義科目名称： 学習指導と学校図書館

授業コード： 244014

英文科目名称： Education and School Library Services

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	資格必修
担当教員			
篠塚富士男 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>学習指導要領の変遷に伴う学校図書館と教育課程との関わりの変化、学習指導に関する学校図書館および学校司書の役割の変化、図書館利用教育のあるべき姿について解説し、学校図書館における情報リテラシー育成のための基本的な知識と技術を修得する。 なお、学習成果の指標はA-③である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 教育課程の展開と学校図書館（1）：学校図書館法</p> <p>3回目 教育課程の展開と学校図書館（2）：学習指導要領と学校図書館</p> <p>4回目 メディア活用能力の意義と目的</p> <p>5回目 メディア活用能力育成の指導</p> <p>6回目 メディア活用能力育成の計画</p> <p>7回目 メディア活用能力の評価</p> <p>8回目 学校図書館利用指導</p> <p>9回目 学校図書館メディア活用の実例（小学校）</p> <p>10回目 学校図書館メディア活用の実例（中学校・高等学校）</p> <p>11回目 学校図書館における情報サービス（1）：情報サービスとは何か</p> <p>12回目 学校図書館における情報サービス（2）：リファレンス資料の整備①（リファレンス・ブック）</p> <p>13回目 学校図書館における情報サービス（3）：リファレンス資料の整備②（電子情報）</p> <p>14回目 教員への支援と働きかけ</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	<p>学習指導要領の変遷等を通じ、学校図書館が学校教育において占める役割の大きさを理解することができる。</p>
授業時間外の学習	<p>学校図書館法および学習指導要領について文部科学省のサイトに記述があるので概略を見ておくこと。</p>
評価方法	<p>ディスカッションへの参加を含む授業への参加態度（遠隔授業の場合は課題の提出状況）（50%）、レポート（遠隔授業の場合は課題の中で提示するレポート課題）（50%）に基づき評価。レポートは各自の意見を記述する形式が主となるが、参考文献（参考URL）を明記していないものは評価の対象にならないので注意すること。</p>
テキスト	<p>授業時に随時プリントを配布する。</p>
参考書	<p>『学習指導と学校図書館 第三版』 渡辺重夫著、学文社、2013 『学習指導と学校図書館』 堀川照代編集、樹村房、2002 *その他、授業時に紹介する。</p>
備考	

講義科目名称： 読書と豊かな人間性

授業コード： 125008

英文科目名称： Reading and Rich Sense of Humanity

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	資格必修
担当教員			
内野安彦 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>児童・生徒にとって、活字に代わる娯楽性の高い物が氾濫している昨今、あらためて読書の大切さ素晴らしさを知る機会として講義を進める。学校図書館の機能を高め、資料を充実させることが学校司書の大切な役目であり、その役目を十分に果たすための資料群についても話を進める。 学習成果の指標はA-③である。 本授業は対面授業を中心に実施する予定だが、やむを得ず全面遠隔授業になった場合は、③オンデマンド型学修（「Google Classroom」を利用）を実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 なぜ読書が必要か、何のために読むのか</p> <p>2回目 子どもの読書の歴史</p> <p>3回目 読書教育と読書指導の流れ</p> <p>4回目 学校図書館における読書指導の役割</p> <p>5回目 読書教育・活動における司書教諭の役割</p> <p>6回目 児童・生徒の発達過程と読書興味の発達段階</p> <p>7回目 児童・生徒のための読書資料とその特性 ① 6回目をふまえて前期読書期・初歩読書期</p> <p>8回目 児童・生徒のための読書資料とその特性 ② 基礎読書成熟期・成熟読書期</p> <p>9回目 児童・生徒のための読書資料とその特性 ③ 選書と選書ツール</p> <p>10回目 読書指導の実際について</p> <p>11回目 どんな方法で児童・生徒と資料を結びつけるか ① 読書環境の整備</p> <p>12回目 どんな方法で児童・生徒と資料を結びつけるか ② ブックトーク・ストーリーテリング・読書会など</p> <p>13回目 どんな方法で児童・生徒と資料を結びつけるか ③ 読書の機会をどう与えるか</p> <p>14回目 地域社会との連携についての数々</p> <p>15回目 読書への導き方を考える。自身を学校司書として</p>
到達目標	<p>実際に、学校司書の職に就いたつもりで、15回の講義一つ一つ理解することを目標とする。児童・生徒の年齢層の「読書資料」に精通できることになる。「読書会」を主宰できるようになる。図書委員会の指導ができるようになる。</p>
授業時間外の学習	<p>読書指導の能力は、自分に読書生活の体験が乏しいと大変難しい事を思い、読書の習慣を身につけるように。</p>
評価方法	<p>授業参加の意欲・態度 (50%) 提出物 (25%) 発表 (25%) 遠隔授業に変更の場合の評価は、平常授業時に準ずる。発表はレポートとする。</p>
テキスト	<p>「教科書を使用せず。」 必要時に資料配付</p>
参考書	<p>必要時に指示。</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	資格必修
担当教員			
篠塚富士男 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>学校教育における学校図書館の役割を明らかにし、学校図書館の理念、教育行政との関わり、学校図書館経営のあり方など、学校図書館全般について解説する。また、学校図書館経営の責任者としての学校司書の任務と役割を明確にし、さらには学校図書館メディアや学校図書館活動等についても具体的に理解することをめざす。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-③である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 図書館とは</p> <p>3回目 学校図書館の理念と教育的意義</p> <p>4回目 学校図書館に関する法律、教育行政①（学校図書館に関する法律）</p> <p>5回目 学校図書館に関する法律、教育行政②（教育行政）</p> <p>6回目 学校図書館の経営</p> <p>7回目 学校図書館スタッフの現状と役割</p> <p>8回目 学校図書館メディアの選択と管理①（学校図書館メディアとは）</p> <p>9回目 学校図書館メディアの選択と管理②（学校図書館メディアの選択）</p> <p>10回目 学校図書館の施設、設備</p> <p>11回目 学校図書館のサービス・活動①（小学校）</p> <p>12回目 学校図書館のサービス・活動②（中学校）</p> <p>13回目 学校図書館のサービス・活動③（高校・特別支援学校）</p> <p>14回目 図書館協力、学校図書館への支援</p> <p>15回目 学校図書館の課題と展望</p>
到達目標	学校図書館全般に関する基本的な事項が理解できる。読書や学習指導等の学校図書館各論に対する学校図書館全般に関する概論という位置づけである。
授業時間外の学習	<p>学校図書館に関する各種の報道、とりわけ新聞記事に留意し、記事の概要を出典とともに記録しておく。</p> <p>ただし遠隔授業となった場合は、無理のない範囲内で情報を収集すればよい。</p>
評価方法	<p>授業への参加意欲（35%）、レポート（65%）に基づき評価。</p> <p>ただし遠隔授業となった場合は課題レポートによる評価とする。また、授業各回の質問等への回答を授業の出席とみなすが、その内容も授業への参加意欲を示すものとして評価の対象とする。</p> <p>レポートは各自の意見を記述する形式が主となるが、参考文献（参考URL）を明記していないものは評価の対象にならないので注意すること。</p>
テキスト	<p>『学校司書のための学校図書館サービス論』学校図書館問題研究会編、樹村房、2021</p> <p>*その他、授業時に随時プリントを配布する。</p>
参考書	<p>『新訂 学校経営と学校図書館』、野口武悟・前田稔編著、放送大学教育振興会、2013</p> <p>*その他、授業時に紹介する。</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	資格必修
担当教員			
内野安彦 教授			
添付ファイル			

授業の概要	学校図書館における児童生徒及び教職員へのサービスの考え方や各種サービス活動についての理解を図る。 なお、学習成果の指標はA-③である。 遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス：この授業の進め方や課題などの説明</p> <p>2回目 学校図書館サービスの意義と方法</p> <p>3回目 学校図書館の運営</p> <p>4回目 資料提供サービス・情報提供サービス</p> <p>5回目 利用環境の整備①（図書館資料の整備）</p> <p>6回目 利用環境の整備②（施設・設備の整備）</p> <p>7回目 児童生徒への読書支援</p> <p>8回目 学習支援と情報リテラシー①（学習支援の意義）</p> <p>9回目 学習支援と情報リテラシー②（探究学習の支援）</p> <p>10回目 学校図書館利用教育</p> <p>11回目 教職員への支援</p> <p>12回目 特別な教育的ニーズのある児童生徒に対する支援</p> <p>13回目 学校図書館の広報活動・渉外活動①（広報活動）</p> <p>14回目 学校図書館の広報活動・渉外活動②（渉外活動）</p> <p>15回目 学校図書館サービスと著作権</p>
到達目標	学校図書館サービス全般に関する基本的な事項が理解できる。
授業時間外の学習	学校図書館に関する各種の報道、とりわけサービスの動向に留意し、記事の概要を出典とともに記録しておく。
評価方法	授業への参加意欲（35%）、レポート（65%）に基づき評価。 ただし遠隔授業となった場合は課題レポートによる評価とする。また、授業各回の質問等への回答を授業の出席とみなすが、その内容も授業への参加意欲を示すものとして評価の対象とする。 レポートは各自の意見を記述する形式が主となるが、参考文献（参考URL）を明記していないものは評価の対象にならないので注意すること。 ディスカッションへの参加を含む授業への参加態度（遠隔授業の場合は課題の提出状況）（50%）、レポート（遠隔授業の場合は課題の中で提示するレポート課題）（50%）に基づき評価。レポートは各自の意見を記述する形式が主となるが、到達目標に掲げている「基本的知識」の獲得のため、参考文献（参考URL）を明記していないものは評価の対象にならないので注意すること。
テキスト	『学校司書のための学校図書館サービス論』、学校図書館問題研究会編、樹村房、2021
参考書	『学校図書館サービス論』、小川三和子著、青弓社、2018 *その他、授業時に紹介する。
備考	

講義科目名称： 学校教育概論

授業コード： 155006

英文科目名称： Survey of School Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	資格必修
担当教員			
熊倉志乃 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>学校教育の変遷や現状と課題、児童生徒の心身の発達などの基本的事項についての理解を図る。現場で行われている学校教育の現状についてより具体的に理解するため、事例をもとにした演習やグループディスカッションを行う。</p> <p>なお、学習成果の指標は、A-③である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合には②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）と③オンデマンド型学修を組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 学校教育の意義と目標</p> <p>2回目 学校教育制度の成り立ちと歴史</p> <p>3回目 教育制度と行政</p> <p>4回目 教育課程の意義と学習指導要領</p> <p>5回目 学校教育と教科書</p> <p>6回目 学校教育と地域連携</p> <p>7回目 児童生徒の心身の発達と学習の過程①</p> <p>8回目 児童生徒の心身の発達と学習の過程②</p> <p>9回目 特別の支援を要する児童生徒に対する理解①</p> <p>10回目 特別の支援を要する児童生徒に対する理解②</p> <p>11回目 教師の役割とチーム学校</p> <p>12回目 学校現場での実践事例①</p> <p>13回目 学校現場での実践事例②</p> <p>14回目 学校教育における諸課題①</p> <p>15回目 学校教育における諸課題② まとめ</p>
到達目標	<p>学校教育の変遷や現状と課題、児童生徒の心身の発達などの基本的事項について理解することができる。</p>
授業時間外の学習	<p>現場での取組や時事問題を適宜授業で扱い、映像、ニュース等を通して視野を広げられるような課題を提示するので、授業後、レポートとして提出する。</p>
評価方法	<p>課題提出（70%）、授業への参加意欲・態度（30%）等総合的に評価する。</p> <p>遠隔授業に移行した場合も、評価方法に変更はない。</p>
テキスト	<p>教科書を使用せず。</p> <p>適宜資料を配布する。</p>
参考書	
備考	

講義科目名称： 博物館概論

授業コード： 111005

英文科目名称： Introduction To Museology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	資格必修
担当教員			
鈴木一男 講師			
添付ファイル			

授業の概要	博物館の歴史や関係法規をはじめ、博物館で行われている様々な活動の現状と課題を概観し、博物館や学芸員とは何か、どうあるべきかについて考える。また、博物館が資料の収集、整理・保存、調査研究、展示（教育普及）を通して、社会のあらゆる人に生涯学習の場を提供する社会教育機関であることを説明する。本授業は、対面学修を中心に実施するが、遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる。なお、学習成果の指標は A-③である。
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション —博物館をイメージする—</p> <p>2回目 博物館学と博物館</p> <p>3回目 博物館の基本的機能1 —収集から保管へ—</p> <p>4回目 博物館の基本的機能2 —調査研究と展示・教育普及—</p> <p>5回目 欧米の博物館史1 —生成から近代博物館の誕生まで—</p> <p>6回目 欧米の博物館史3 —現代欧米の博物館—</p> <p>7回目 日本の博物館史1 —博物館前史から近代博物館の萌芽—</p> <p>8回目 日本の博物館史2 —戦前の日本博物館史—</p> <p>9回目 日本の博物館史3 —戦後の日本博物館史—</p> <p>10回目 生涯学習と博物館活動1 —対話と連携—</p> <p>11回目 生涯学習と博物館活動2 —望ましい博物館のあり方と基準—</p> <p>12回目 生涯学習と博物館活動3 —原則と行動規範—</p> <p>13回目 博物法と関連法規</p> <p>14回目 広がる博物館活動</p> <p>15回目 博物館の今日的課題を考える</p>
到達目標	博物館は、資料の収集・整理・保存を行い、資料を後世につなぐ役割を担う場や、調査研究や展示（教育普及）活動を通して、資料の学術的価値を周知する場所であること、さらに人々が主体的な興味に基づき自主的に学ぶための生涯学習の場であることが理解できる。
授業時間外の学習	ひと口に博物館といっても、扱う資料の種別や重視する機能、設置者の別などにより多種多様であるから、余暇を利用し、身近な博物館に足を運ぶことをすすめる。
評価方法	試験ないし授業時のレポート（70%）、授業への参加意欲（30%）を基にして、総合的に評価する。遠隔授業の場合は、レポートの提出および授業への参加意欲を総合して評価する。
テキスト	事前に講義資料を配布する。
参考書	「新時代の博物館学」全国大学博物館学講座協議会西日本部会 2012
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	資格必修
担当教員			
實松幸男 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>大きく変化している現代社会のなかで、博物館がどのように運営され、どのように地域社会との連携を深め、博物館活動を活性化させていけるのかを学習する。現在、文化財の活用、観光立国、地域創生など、国の政策を実施していくうえで大きな役割が博物館には期待されており、博物館の制度も改正される。一方で、ICOM（世界博物館会議）など国際的な博物館の動向やSDGsも博物館経営にとって無関係ではない。コロナ禍を経験し新たな博物館の活動も生まれてきた。こうした、最近の博物館・文化財など文化行政の変化を踏まえ、博物館と利用者との関係についての理解、利用者主体の博物館の理念と運営・マネジメント、博物館の機能と役割について、総合的な観点から学ぶ。講義では、博物館運営の手法と、その実践例を博物館の館種や館の規模を踏まえながら説明し、博物館特有の目的と使命の達成について理解を深める。特に、地域博物館を事例として、運営の実態についても紹介する。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-③である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合には、③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）で実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 博物館経営と博物館の使命</p> <p>2回目 新しい博物館の動向 21世紀の博物館行政の変化・文化行政の変化と観光立国・地方創生・SDGs</p> <p>3回目 ICOMと博物館の国際的基準・規範</p> <p>4回目 ミュージアム・マネージメントの内容と意義、構成要素</p> <p>5回目 博物館の法規と制度の推移</p> <p>6回目 博物館の行政</p> <p>7回目 博物館の財政</p> <p>8回目 博物館の施設と設備</p> <p>9回目 博物館の組織と職員、倫理規定</p> <p>10回目 博物館の連携</p> <p>11回目 多様な利用者のニーズと博物館（広報・マーケティング、ミュージアム・ショップ、ICTなど）</p> <p>12回目 市民参加・地域社会と博物館</p> <p>13回目 博物館の評価</p> <p>14回目 博物館の危機管理</p> <p>15回目 まとめ 現代社会の変化を踏まえつつ、博物館学的観点から博物館のマネジメントと活動を考える</p>
到達目標	博物館概論や各論、実習で学んだことを総合して、博物館学的な観点から、博物館の経営・運営（ミュージアム・マネジメント）について理解できる。博物館の理念や専門性を踏まえた、博物館の使命（ミッション）達成のための管理・運営（マネジメント）・評価等について理解し、それを実践できる学芸員となる。そして、国の政策や社会の変化に対応しながら、質の高い博物館活動を行っていくことのできる能力を身につける。
授業時間外の学習	博物館概論や各論、実習で学んだ、資料の展示・教育普及・調査研究・収集保存など、博物館の使命（ミッション）達成のための機能・活動について理解した上で、積極的に各地の博物館展示を見学したり、講座やイベントなどの事業、ボランティア活動等に参加する。または各地の博物館のホームページを閲覧し、博物館の活動や事業、施設・設備などを調べて特徴をまとめておく（博物館メモの作成）。一利用者の視点だけではなく、学芸員としての視点から博物館の活動を見学・参加したり、調べたりする。従来の文化財行政、文化政策、社会教育・生涯学習などの枠にとらわれない博物館の新しい活動・多様な活動について気付く。

評価方法	授業への参加意欲（30％）と、授業時の確認テスト（40％）、課題レポート（30％）により評価する。 遠隔授業となった場合には、授業への参加意欲（30％）、授業時の確認テスト（40％）、課題レポート提出（30％）により評価する。
テキスト	教科書を利用せず。授業時にレジュメを配布する。
参考書	『博物館学への招待』リュック・ブノワ著 水嶋栄治訳 白水社 『新版博物館学講座12博物館経営論』加藤有次他編 雄山閣 『博物館学3博物館情報・メディア論・博物館経営論』大堀哲他編 学文社 『歴史資料の保存と地方史研究』地方史研究協議会編 岩田書院
備考	

講義科目名称： 博物館資料論

授業コード： 212011

英文科目名称： Theory of Cataloging Museum Collection

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	資格必修
担当教員			
鈴木一男 講師			
添付ファイル			

授業の概要	博物館の主要な活動の一つに資料の収集や展示があるが、博物館機能を果たす上で、博物館資料を熟知することが必要不可欠になる。ここでは、博物館活動における博物館資料の位置づけ考えるとともに、博物館機能を果たす上で、どのように資料を扱い、収集・整理・保存、調査研究を行って活用につなげていくか、その理論や方法に関する知識と技術を学ぶ。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる。 なお、学習成果の指標は A-③である。
授業計画	1回目 オリエンテーションー博物館資料論で学ぶことー 2回目 博物館資料とは何か 3回目 博物館資料と収集・整理 4回目 博物館資料と収蔵・管理 5回目 博物館資料と調査研究 6回目 博物館資料と展示 7回目 絵画資料の収集・整理と取扱い 8回目 考古資料の収集・整理と取扱い 9回目 民俗資料の収集・整理と取扱い 10回目 文化財としての古写真 11回目 古文書の整理・保管と取扱い 12回目 料紙としての和紙 13回目 刀剣の保管と取扱い 14回目 自然系資料の収集・整理・調査研究 15回目 これからの博物館と博物館資料
到達目標	博物館資料が多岐にわたることを理解し、博物館活動における博物館資料の位置づけや正しい取り扱いができる。また、博物館資料の収集・整理・調査研究の在り方を通じて、展示・公開（教育普及）、保存・継承することが博物館の重要な役割であることが理解できる。
授業時間外の学習	身近にあるものを使い、取り扱いに慣れる。
評価方法	試験ないし授業時のレポート（70%）、授業への参加意欲（30%）を基にして、総合して評価する。遠隔授業の場合は、レポートの提出および授業への参加意欲を総合して評価する。
テキスト	事前に講義資料を配布する。
参考書	佐々木利和「博物館資料論」 放送大学教材 2012
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	資格必修
担当教員			
藤田典夫 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>博物館資料（文化財）は人類共有の財産であり、その資料が将来の人類と社会に活用され、文化の発展に寄与することを前提としている。そのため博物館は、計画性のある資料保存を行っていかねばならない。本授業では、まず博物館資料保存の歴史と博物館資料の置かれている環境、具体的な資料の性質や保存方法、取り扱いに関する基礎的な知識を習得する。次に、これらを前提として、博物館が果たす、自然環境を含めた将来の地域社会における資料の情報（価値）の活用や継承といった責務について講義を行う。</p> <p>なお学習成果の指標はA-①である。</p> <p>授業は対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、課題型学修を実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンスー博物館資料保存総論</p> <p>2回目 資料の保存環境1ー温湿度環境</p> <p>3回目 資料の保存環境2ー光と照明</p> <p>4回目 資料の保存環境3ー室内空気汚染</p> <p>5回目 資料の保存環境4ー生物被害</p> <p>6回目 資料の保存環境5ー伝統的保存方法</p> <p>7回目 資料の被災防止と救援活動</p> <p>8回目 災害・事故</p> <p>9回目 屋外環境</p> <p>10回目 資料の保全1ー資料の状態調査による現状把握</p> <p>11回目 資料の保全2ー金属製品・木製品の修復・修理</p> <p>12回目 資料の保全3ー紙資料の修復・修理</p> <p>13回目 資料の保全4ー資料の梱包と輸送</p> <p>14回目 ひろがる博物館の役割</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	博物館における資料保存及びその保存・展示環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための基礎的知識を習得できる。また、地域社会と文化財の関係における活用・還元方法を計画できるようになる。
授業時間外の学習	博物館（資料館）見学において、資料を鑑賞（見学）するだけでなく、展示環境や展示方法も見るよう努力する。 地元の文化財や伝統・伝承を探し、その歴史を学んでおく。
評価方法	講義への参加意欲・態度（50%）、小レポート（25%）、課題（25%）に基づき評価。 遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。
テキスト	講義時に随時資料を配布。
参考書	『博物館資料保存論』石崎武志講談社2012年 『文化財の保存環境』東京文化財研究所中央公論美術出版社2011年
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	資格必修
担当教員			
實松幸男 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>博物館学芸員の専門的・教育的な仕事の一つであり、かつ博物館と利用者の最大の接点の場である「博物館の顔」とも言える展示について、歴史、形態、技法、資料保護などを最新の技術についても触れながら概説し、展示の意義を理解する。あわせて地域博物館の展示の実例・実務を紹介し、特に展示の実際や解説活動について、企画・計画、実施、結果・反省、評価などを踏まえて学ぶ。文化財を積極的公開・活用していく最近の動向や、デジタル化による技術的革新も踏まえて、展示効果と資料保護の双方の観点から解説する。講義では、まず博物館の中での展示活動について、博物館の4つの機能や展示法の推移と最近の傾向を踏まえながら概説する。次に、おもに歴史系の地域博物館の事例を参考としながら、専門的業務や企画・設計・制作等を含めた展示業務の実務を紹介する。そして、資料の展示に必要な、専門的知識を踏まえたさまざまな解説法を紹介し、ワークシートにより解説文を作成する。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-③である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）で実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 博物館と展示（1）ガイダンスと受講生の体験発表</p> <p>2回目 博物館と展示（2）博物館の理念・機能、教育的役割と展示</p> <p>3回目 博物館と展示（3）「展示」と「陳列」</p> <p>4回目 博物館と展示（4）展示の分類</p> <p>5回目 博物館と展示（5）展示形態の歴史と博物館展示の現在</p> <p>6回目 博物館展示の実際（1）展示の企画から終了まで</p> <p>7回目 博物館展示の実際（2）展示の企画・設計と展示構成、資料の配置</p> <p>8回目 博物館展示の実際（3）展示の技術と技法（資料・用具・ケース）</p> <p>9回目 博物館展示の実際（4）展示の技術と技法（照明・機器・造形）と最新技術（AR、ICTなど）</p> <p>10回目 博物館展示の実際（5）展示の評価とアンケート</p> <p>11回目 地域資料の展示解説（1）展示資料のキャプションと解説文</p> <p>12回目 地域資料の展示解説（2）展示資料について調べる（ワークシート）</p> <p>13回目 地域資料の展示解説（3）資料キャプションと解説文を作る（専門的検討）</p> <p>14回目 地域資料の展示解説（4）資料キャプションと解説文を作る（博物館的・教育的検討）</p> <p>15回目 地域資料の展示解説（5）資料キャプションと解説文を作る（発表）</p>
到達目標	博物館の展示について、企画立案、展示法、展示環境、専門性、デザイン、ICT、専門的業務など学芸員として必要な基本的な知識やスキルを理解できる。展示キャプションや解説文を作成するワークを通じて、最も基本となる展示作業の一部を経験できる。
授業時間外の学習	講義で取り上げた博物館展示の形態や方法・技法を踏まえて、積極的に各地の博物館展示を見学し、記録しておくこと（博物館メモの作成）。課題のワークにあたっては、ウェブだけではなく、現地見学や図書館等での文献調査を行うこと。展示の基本的要素を具体的に理解するとともに、特にデジタル技術を使った新しい展示法にも注意すること。キャプションと解説文の作成については、日本史フィールドの各専門的講義・演習で基礎力を培っておくこと。
評価方法	<p>授業への参加意欲（30%）と、授業時のワークシート（40%）、課題（30%）により評価する。</p> <p>遠隔授業となった場合には、授業への参加意欲（30%）、授業時の課題提出（40%）、ワークシートの提出（30%）により評価する。</p>

テキスト	教科書を使用せず。授業時にレジユメを配布する。
参考書	『人文系博物館展示論』青木豊編 雄山閣 『展示論：博物館の展示をつくる』日本展示学会編 雄山閣 『博物館映像展示論』青木豊著 雄山閣
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	資格必修
担当教員			
實松幸男 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>法規では、博物館は社会教育施設として位置づけられている。また普遍的な意味でも、博物館は利用者・来館者に対する教育的機能を有しており、学校教育との連携をはじめ、さまざまな人々の生涯学習活動への支援が期待されている。直接・間接に人々へ訴えかける展示・講座などの博物館のさまざまな教育活動は、専攻分野の研究とともに学芸員の最も重要な仕事のひとつであろう。本講では、博物館における教育・普及活動について生涯学習の観点から概説し、地域博物館を事例としてさまざまな活動形態を学ぶ。加えて、最近求められてきている、観光・経済、まちづくり、福祉など教育以外の分野との連携にも触れながら、講座・講演会などの学習支援、ICTの活用、学校教育との連携、社会教育との連携、地域社会や地域観光との連携など、学芸員が関わるさまざまな教育活動を紹介する。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-③である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）で実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 博物館の教育活動（1）ガイダンスと博物館の定義</p> <p>2回目 博物館の教育活動（2）博物館の使命・機能とその教育的役割</p> <p>3回目 博物館の教育活動（3）博物館における教育と生涯学習・社会教育</p> <p>4回目 博物館の歴史と教育（1）博物館の歴史・変化と博物館教育</p> <p>5回目 博物館の歴史と教育（2）日本の博物館の歴史と社会教育</p> <p>6回目 博物館の歴史と教育（3）日本の博物館の3世代論と教育活動の変化</p> <p>7回目 博物館の教育活動（4）博物館教育の対象者と学習法、コロナ禍でのICTを活用した教育活動</p> <p>8回目 博物館の教育活動（5）新しい教育観 博物館の学びの特性とMI理論に基づく7つのアプローチ</p> <p>9回目 教育活動の実際（1）博物館の教育活動の諸形態と連携、観光・まちづくり・福祉など多様な博物館の役割</p> <p>10回目 教育活動の実際（2）講座・講演会の企画・開催と参加者の声・評価</p> <p>11回目 講座の実例（1）古文書講座</p> <p>12回目 講座の実例（2）体験講座</p> <p>13回目 教育活動の実際（3）講座を企画する</p> <p>14回目 教育活動の実際（4）講座企画書を作る</p> <p>15回目 教育活動の実際（5）講座企画書を作る（発表）</p>
到達目標	<p>社会教育、学校教育など、「教育」と関わりが深い博物館の教育・普及活動について理解できる。特に近年では、利用者・来館者の主体的な学習活動への支援が博物館に求められており、そのための諸活動（学習支援活動）について理解できる。また従来の講座や体験的学習といった教育・普及活動のほか、コロナ禍を経て新しい展開を見せつつあるICTの活用など今日的な学習支援のあり方についても理解できる。最近の博物館に求められている役割の多様化にも配慮し、地域社会や観光、まちづくり、福祉などの諸分野との関わりについても理解する。ワークシートにより講座の企画を作成していただくことで、教育普及活動について具体的に理解できる。</p>
授業時間外の学習	<p>博物館の教育普及活動を理解するために、学生自身がこれまで体験・経験した博物館の事業（講座・ワークショップ・観察会・現地見学会・おうちミュージアムなど）や体験・実験的展示について、まとめておくこと。また、積極的に各地の博物館の教育活動へ参加し、あるいは各館のホームページなどでそれを調べて、記録しておくこと（博物館メモの作成）。</p>
評価方法	<p>授業への参加意欲（30%）と、確認テスト（40%）、ワークシート（30%）により評価する。</p>

	遠隔授業となった場合には、授業への参加意欲（30%）、授業時の課題提出（40%）、ワークシートの提出（30%）により評価する。
テキスト	教科書は使用せず。授業時にレジユメを配布する。
参考書	『人文系博物館教育論』青木豊編 雄山閣 『ミュージアムと生涯学習』神野善治編 武蔵野美術大学出版局
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	資格必修
担当教員			
小菅将夫 講師			
添付ファイル			

授業の概要	博物館は情報集積機関であり、メディアそのものでもあり、まず、博物館における情報の意義を適切に理解することが基本となる。近年におけるIT(情報技術)ICT(情報・コミュニケーション技術)はめまぐるしく発達しており、博物館においても様々な形で、ITやICTを利用している。特にインターネットの利用は博物館の情報発信の重要なToolとなっている。本授業では、視聴覚教育の歴史と近年の技術の進歩、博物館におけるその意義と利用の在り方を確認する。このことにより、情報とその伝達の重要性を再認識し、博物館運営に必要な情報の管理と発信についての基礎的な知識を学修することを目的とする。 なお、学習成果の指標はA-③である。 遠隔授業を実施する際は、②同時・双方型学修（「Google Meet」を利用予定）で実施する。
授業計画	<p>1回目 高度情報化社会と博物館（ガイダンス）、博物館における情報とメディアについて 博物館における情報の意義とメディアの重要性について</p> <p>2回目 博物館における情報とメディアの基礎 基本事項の学習と記号論的にみた情報とメディアについて</p> <p>3回目 博物館とメディアの発達史 メディアの発達の歴史と博物館情報の発信方法の歴史について</p> <p>4回目 博物館におけるメディア・リテラシー（1） 写真画像とビデオ映像の発達史と博物館について</p> <p>5回目 博物館におけるメディア・リテラシー（2） メディアを活用した様々な展示・情報発信方法について</p> <p>6回目 博物館における解説 博物館展示における解説文とその作成について</p> <p>7回目 博物館資料のドキュメンテーションとデータベース 博物館資料のドキュメンテーション化とデータベース化について</p> <p>8回目 博物館におけるデジタル・アーカイブの構築の現状と課題 デジタル・アーカイブ構築とその現状、さらにその課題について</p> <p>9回目 博物館におけるインターネット利用 ホームページからの情報発信及び情報発信センターとしての社会的ニーズについて</p> <p>10回目 博物館における出版活動 展示図録や年報、紀要などの出版・広報による情報発信について</p> <p>11回目 ユニバーサル・ミュージアムと情報、メディア 障がい者にかかわらず、様々な利用者に優しい博物館とその情報発信について</p> <p>12回目 博物館における知的財産の管理とその方法 博物館情報の知的財産権と情報倫理及び情報公開の方法</p> <p>13回目 博物館情報に著作権の取り扱い 博物館情報に著作権の保護等の問題について</p> <p>14回目 身近な博物館における情報とメディアの活用及び実情 北関東地方を中心とした博物館における情報とメディアの活用状況について</p> <p>15回目 総括事業 博物館の情報・メディアが今後どのような姿に発展について、総括的に検討する</p>
到達目標	①博物館における情報の意義と管理・活用方法を理解し、博物館における上の重要性を説明できること。②情報発信の課題や発信媒体としてのWebの活用などに関する基礎的知識を習得しそれを活用して学習することができること。③知的財産の管理方法と著作権の問題について基礎を理解し、適切な対応・行動できるようになることを目標とする。
授業時間外の学習	授業時の配布資料を予習・復習し、授業内で取り上げた博物館やWebサイトを訪問して、情報発信の方法（言語表現、発信方法、デザイン、機器など）に注意を払うこと。
評価方法	授業への参加意欲・態度（40%）、ミニテストあるいは試験（60%）、また、定期試験ができない場合はレポートにより評価する。 ※遠隔授業に変更した場合も、評価方法の変更なし。
テキスト	授業時に資料を適宜配布。
参考書	『博物館情報・メディア論』日本教育メディア学会（編）ぎょうせい 『博物館情報・メディア論』稲村哲也・近藤智嗣 日本放送大学教育振興会 『博物館学Ⅲ』大堀哲・水嶋英治 学文社
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	1単位	資格必修
担当教員			
實松幸男 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>一口に博物館といっても、実にさまざまな分野の博物館がある。博物館学芸員には、それぞれの博物館に即した専門的な資料取り扱いや梱包の技術と、展示、教育普及の技能が求められる。この実習では、実物の歴史資料を利用して、資料の種別に応じた取り扱いや梱包、保管・補修方法を、受講者による実演や作品の作成を通じて実習する。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-③である。</p> <p>本授業は、実習による技術の理解と習得を目的とするものであるため、対面授業でのワークショップを中心に実施する。遠隔授業を実施する場合は③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）で実施するが、実技実習については補講を行う場合もあり得る。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス（実習の説明）</p> <p>2回目 資料を取り扱う前に（資料取り扱いの心得）</p> <p>3回目 資料の取り扱い（箱と紐）</p> <p>4回目 資料の取り扱いと梱包・設置（民具の検品調書作成）</p> <p>5回目 資料の取り扱いと梱包・設置（民具の梱包）</p> <p>6回目 資料の取り扱いと梱包・設置（民具の輸送・設置・検品）</p> <p>7回目 資料の取り扱い（掛け軸）</p> <p>8回目 資料の取り扱い（掛け軸）</p> <p>9回目 資料の取り扱い（掛け軸と巻物）</p> <p>10回目 資料の取り扱い（和装本の種類と綴じ方）</p> <p>11回目 資料の取り扱い（古文書の修復）</p> <p>12回目 資料の取り扱い（古文書の裏打ち）</p> <p>13回目 資料の取り扱い（刀の知識と手入れ）</p> <p>14回目 資料の取り扱い（甲冑）</p> <p>15回目 実習のまとめ（基本の確認）</p>
到達目標	博物館資料のうち、おもに歴史資料の取り扱いについて、種別に応じた梱包・所作・作法・保存・手入れ・修復の基本的な知識と技能を習得できる。
授業時間外の学習	資料や物品を取り扱う時、材質・形状・大きさ・構造についてよく見極めてから取り扱うよう、日常の意識を高める。博物館見学の際は、資料が傷まない設置の仕方や取り扱い方について、学生自身が展示資料を取り扱っていると想定して考え、記録しておくこと（博物館メモの作成）。
評価方法	実習への参加意欲（30%）、実演による技能の習熟度（35%）、課題や作品の提出（35%）により評価する。 遠隔授業となった場合には、実習への参加意欲（30%）、実演による技術の習熟度と作品の提出（40%）、授業時課題の提出（30%）により評価する。
テキスト	教科書を使用せず。授業時にレジュメを配布する。
参考書	『美術工芸品の保存と保管』田辺三郎助他監修 フジテクノシステム 『博物館資料取り扱いガイドブック』日本博物館協会編 ぎょうせい
備考	

講義科目名称： 博物館実習Ⅱ

授業コード： 262004

英文科目名称： Exercises of Museology 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	1単位	資格必修
担当教員			
藤田典夫 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>本科目は、さまざまな博物館の分野のなかでも、考古資料を中心にした歴史資料の取り扱い方と調査方法・展示方法・教育普及の基礎を学ぶことをねらいとする。この講義では、学芸員としての実務的観点から実習をおこなう。実物の考古資料等を活用して、その取り扱い方、調査方法、展示方法を実習する。また、保管方法、梱包方法などについても触れる。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-①である。</p> <p>本授業は対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、課題型学修を実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 授業の説明</p> <p>2回目 博物館活動の一例</p> <p>3回目 ワークショップー勾玉作りー</p> <p>4回目 博物館資料取り扱いの基礎知識</p> <p>5回目 考古資料の取り扱い方</p> <p>6回目 資料調査の基本的技術1ー洗浄ー</p> <p>7回目 資料調査の基本的技術2ー注記・接合ー</p> <p>8回目 資料調査の基本的技術3ー拓本ー</p> <p>9回目 資料調査の基本的技術4ー実測ー</p> <p>10回目 資料調査の基本的技術4ー実測その2ー</p> <p>11回目 資料調査の基本的技術5ー復元ー・6ー写真撮影ー</p> <p>12回目 展覧会の計画と実施</p> <p>13回目 考古資料等の教育・普及</p> <p>14回目 考古資料の展示ー参考館にてー</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	考古資料の取り扱い方や実習を通して博物館資料としての調査記録の重要性を理解することができる。
授業時間外の学習	博物館見学の際に、鑑賞するだけでなく、その資料の特徴を掴むよう努力する。
評価方法	講義への参加意欲・態度（45%）、技能の習熟度（25%）、課題（30%）で総合的に評価する。遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。
テキスト	授業時配布の資料を使用する。
参考書	授業時に紹介する。
備考	

講義科目名称： 博物館実習Ⅲ

授業コード： 142013

英文科目名称： Exercises of Museology 3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	1単位	資格必修
担当教員			
大工原 豊 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフィックソフトの基本的操作方法や、スキャナーで画像の取り込み、加工方法について実際の作業を通して学ぶ。また、実際に展示ポスターやパンフレットの作成作業を行う。 ・國學院大學栃木短期大学参考館の展示解説パネルの作成を行う。 <p>※授業期間内に終了しない場合、補講を行う ※1年生と合同で栃木県内の実務見学実習を実施する 日本文化の特質を、多様な文化との比較・交流により、総合的に説明できる。学習成果の指標はA-①です。 教養科目と専門科目の学習を通じて、幅広い視野・知識・技能とコミュニケーション能力を身につけ、希望の進路に進むことができる。学習成果の指標はA-③です。</p> <p>遠隔授業の場合、課題型・リアルタイム双方向型を併用する</p>
授業計画	1回目 参考館の現状確認 2回目 対象資料の選定 3回目 長焦点法での写真撮影と実測図の作成（1） ・土器の撮影と実測 4回目 長焦点法での写真撮影と実測図の作成（2） ・石器の撮影と実測 5回目 スキャナーを用いた石器画像の取り込みと実測（1） 6回目 スキャナーを用いた石器画像の取り込みと実測（2） 7回目 実物展示レイアウト 8回目 資料の取り扱い 9回目 ジオラマの製作とその効果 10回目 フィギュアの製作とその効果 11回目 展示のレイアウト 12回目 パネルとキャプションの作成 13回目 展示実務 14回目 展示解説 15回目 展示パンフレットの作成
到達目標	グラフィックソフトを使用して、展示ポスターやパンフレットを作成することができる 収蔵資料の特性を理解し、展示・解説することができる
授業時間外の学習	博物館・ギャラリー・ショウウィンドウや各種ポスター・チラシなど多くの「展示・広報媒体」を見て、そのデザインや技術を観察すること
評価方法	平常点で評価：展示コンセプトの理解（30%）、資料の理解（30%）、実務への取り組み（40%） （遠隔の場合も同様）
テキスト	なし
参考書	授業時に紹介する。
備考	グラフィックソフトを用いての実習を行うので、ノートPC（できればWindows10以上）を持参すること。